

科目名	インターンシップ I [短大]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・実習
担当者	和田 早代、小林 純、石田 麻英子、竹島 鉄也

■講義の目的および概要

現在大学で用意しているインターンシップ先や自己開拓が中心のインターンシップです。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の職業の現場を知ることが重要です。また現場では普段の学習とは異なる知識・スキルが求められることがほとんどです。単なる「お仕事体験、見学」ではなく、卒業後に続く就業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「派遣」「事後研修」の3つに分けられます。特に学内で行う授業では、ワークシートへの記入とディスカッションを中心に、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

【事前指導】

- ①ガイダンス
 - ②心構え、インターンシップで意識が変わる（学生発表）
 - ③派遣企業エントリー、教員との相談タイム
 - ④企業研究
 - ⑤派遣先選考、面接
 - ⑥プロフィールシートの書き方
 - ⑦社会人基礎力、コンプライアンス、職場での振る舞い
- ※派遣まで担当教員との個別指導

【派遣】

実働40時間以上＋自主学习5時間程度

【事後研修】

- ・事後個別指導（お礼メール、日誌・報告書）
 - ⑧事後報告会（ディスカッション・インターンシップで得たものを考える・まとめ）
- （注意事項）
- 派遣期間は、受入先により異なる場合があります。
 - 事後報告会は次期インターンシップ授業の初回日に行います。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 派遣を通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

報告会の参加、企業からの研修参加証明書を総合的に評価し認定します。研修継続に不都合が生じた場合や、本人の都合による途中離脱は「不可」となることがあります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業時に適宜資料を配布します。実習前に「研修日誌」を配布します。

【参考文献】

キャリア、ビジネス系科目のテキストなども参考になります。

■授業外学習

【具体的な内容】

ビジネス文書、オフィス実務Ⅰ、キャリア形成、日本語基礎表現法などで扱う内容で、インターンシップ授業、研修で役立つ知識スキルが多くあります。各授業を常に復習し、実地で運用できるようにしておきましょう。

また、日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、派遣前にも予習復習をしておきましょう。多くの書籍が市販されています。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

交通費・食事等の支給は原則ありません（自己負担となります）。

参加しようと考えている学生はインターンシップ事前指導を受講してください。

科目名	インターンシップⅡ[短大]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 1単位・実習
担当者	和田 早代、小林 純、石田 麻英子、竹島 鉄也

■講義の目的および概要

現在大学で用意しているインターンシップ先や自己開拓を中心に参加するインターンシップです。
 社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の職業の現場を知ることが重要です。また現場では普段の学習とは異なる知識・スキルが求められることがほとんどです。単なる「お仕事体験、見学」ではなく、卒業後に続く就業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「派遣」「事後研修」の3つに分けられます。特に学内で行う授業では、ワークシートへの記入とディスカッションを中心に、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

【事前指導】

- ①ガイダンス
 - ②心構え、インターンシップで意識が変わる（学生発表）
 - ③派遣企業エントリー、教員との相談タイム
 - ④企業研究
 - ⑤派遣先選考、面接
 - ⑥プロフィールシートの書き方
 - ⑦社会人基礎力、コンプライアンス、職場での振る舞い
- ※派遣まで担当教員との個別指導

【派遣】

実働40時間以上＋自主学习5時間程度

【事後研修】

- ⑧事後個別指導（お礼状、報告書作成）
 - ・総合報告会（ディスカッション・インターンシップで得たものを考える・まとめ）（注意事項）
 - ・インターンシップⅠを修得済みの者
 - ・春学期に事前指導を受講した講義を免除する場合がある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 派遣を通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

報告会の参加、企業からの研修参加証明書を総合的に評価し認定します。
 研修継続に不都合が生じた場合や、本人の都合による途中離脱は「不可」となることがあります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業時に適宜資料を配布します。実習前に「研修日誌」を配布します。

【参考文献】

キャリア、ビジネス系科目のテキストなども参考になります。

■授業外学習

【具体的な内容】

ビジネス文書、オフィス実務Ⅰ、キャリア形成、日本語基礎表現法などで扱う内容で、インターンシップ授業、研修で役立つ知識スキルが多くあります。各授業を常に復習し、実地で運用できるようにしておきましょう。

また、日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、派遣前にも予習復習をしておきましょう。多くの書籍が市販されています。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

交通費・食事等の支給は原則ありません（自己負担となります）。

参加しようと考えている学生はインターンシップ事前指導を受講してください。

科目名	健康とスポーツ I [総カリ]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	金 誠

■講義の目的および概要

健康とスポーツ I は、多くのスポーツ種目を経験する中で、スポーツの様々な楽しみ方を知るといった『基本型』として捉えられるものである。15回異なる種目・ゲームを展開し、スポーツを広く学ぶ事を重視する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前期は屋外スポーツ、後期は室内スポーツを中心に授業を展開する。健康作りのための知識や種目の実践に必要な基礎技能および、その背景にある知識を体験的に学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業後にグループでディスカッションを行い、それぞれの考察を踏まえて振り返りを行う

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②体力測定（スポーツテスト）
- ③体づくりを主としたスポーツ I
- ④体づくりを主としたスポーツ II
- ⑤個人技能を主としたスポーツ I
- ⑥個人技能を主としたスポーツ II
- ⑦個人技能を主としたスポーツ III
- ⑧個人技能を主としたスポーツ IV
- ⑨集団戦術を主としたスポーツ I
- ⑩集団戦術を主としたスポーツ II
- ⑪集団戦術を主としたスポーツ III
- ⑫集団戦術を主としたスポーツ IV
- ⑬集団戦術を主としたスポーツ V
- ⑭体力測定（スポーツテスト）
- ⑮まとめ（課題レポート提出）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①スポーツの楽しさを知り、健康の重要性を理解する。
- ②健康や環境問題に関心を持ち、それに対する日常の実践を習慣化できるようになる。
- ③課外活動への参加意欲を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造に必要な基礎知識、技能
自らの社会生活のあり方を設計
課題を発見し解決する能力

■成績評価基準と方法

- ①スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）（40%）
- ②種目に特化した基礎的な技能の到達度（20%）
- ③種目に特化した戦術・ルールを理解度（20%）
- ④課題レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて配布する。

【参考文献】

必要に応じて配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

運動や健康、様々なスポーツに興味を持ち、普段から体を動かすことを心がけておくこと。

【必要な時間】

できれば週に3回1時間程度の運動が望ましい。

■その他

種目については履修人数及び天候等により変更する場合がある。

科目名	健康とスポーツⅡ[総カリ]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	金 誠

■講義の目的および概要

スポーツをとおして身体を動かす楽しさを知る。また、高齢化が進む現代社会における、様々な健康阻害要因について理解し、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに、各スポーツの技能・戦術・審判法についても学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

第一・第二体育館、アリーナ、トレーニングルーム等で実技演習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業後にグループディスカッションを行い、それぞれの考察を振り返る

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②トレーニング講習
- ③体力づくりを主とした種目（種目の特徴と基礎技能）
- ④体力づくりを主とした種目（種目のルールと基礎技能）
- ⑤体力づくりを主とした種目（応用技能と審判法）
- ⑥個人技能を主とした種目（種目の特徴と基礎技能）
- ⑦個人技能を主とした種目（種目のルールと基礎技能）
- ⑧個人技能を主とした種目（応用技能と審判法）
- ⑨個人技能を主とした種目（応用技能とゲーム）
- ⑩集団技能を主とした種目（種目の特徴と基礎技能）
- ⑪集団技能を主とした種目（種目のルールと基礎技能）
- ⑫集団技能を主とした種目（応用技能と審判法）
- ⑬集団技能を主とした種目（応用技能とゲーム）
- ⑭スポーツ傷害と予防
- ⑮授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①身体を動かす楽しみを知り、健康の重要性を理解できるようになる。
- ②健康や環境問題に関心を持ち、自らの健康の維持・増進を図れるようになる。
- ③各スポーツの技能・戦術・審判法などについて理解できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造に必要な基礎知識、技能
自らの社会生活のあり方を設計
課題を発見し解決する能力

■成績評価基準と方法

- ①スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）（40%）
- ②種目に特化した基礎的な技能の到達度（20%）
- ③種目に特化した戦術・ルールの理解度（20%）
- ④課題レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する

【参考文献】

適宜資料を配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

運動や健康、様々なスポーツに興味を持ち、普段から体を動かすことを心がけておくこと。

【必要な時間】

週に3回、1時間程度の運動を行っておく

■その他

種目については履修人数及び天候等により変更する場合がある。

科目名	国際フィールドワーク
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	石田 麻英子

■講義の目的および概要

学習してきた英語を実際に使って、海外の文化や社会について、体験を通して学ぶ研修です。普段の日本の生活環境から離れて、様々なことに挑戦し、視野を広げ精神を鍛えます。外側から日本を見直し、自分たちの今生きている社会や生活環境について客観的に考えてみましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前研修として、8-9回程度の演習・オリエンテーションを、グループワークやディスカッションを通して行い、事後研修として最低2回程度の演習授業があり、成果発表の準備をします。研修前、中に、適宜必要な英語の学習を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題には、フィードバックとアドバイスを記載し返却。

■授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 @グループワーク 日本人と海外
- 3 @グループワーク 研修先について学ぶ①
- 4 研修先について学ぶ② 言語
- 5 @グループワーク目標を設定する①
- 6 @グループワーク目標を設定する②
- 7 研修プランを完成する
- 8 旅行の手続き、研修概要と注意
- 9 @ロールプレイ 研修に必要な英語の復習
- 10-12 研修（英語の通じる海外で、1週間程度の海外研修）
- 13 @グループワーク 振り返りと補足の研修
- 14 @グループワーク 成果報告に向けた準備
- 15 成果報告

受講者の状況によっては、オンラインの授業を数回取り入れることがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

実際の生活の中で英語を運用するコミュニケーション能力を伸ばし、異文化を積極的に受け入れ、関わろうとする姿勢を身につけ、自分で立てた目標を達成する。多文化が共生している様子を肌で感じ、考える。自国の文化や社会について、比較から評価する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
- DP2 コミュニケーション能力
- DP3 課題を発見し、解決する力
- DP4 多様性との協働する力
- DP5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 事前学習の提出物 20%
- 事前、事後研修の課題 20%
- 研修中の課題 20%
- 研修レポート 20%
- 成果報告 20%

■テキスト・参考文献

テキストは特に使用しません。
参考文献は授業中に指示しますが、図書館、インターネット等を利用して情報を集めてもらうことがあります。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。

【必要な時間】

1時間程度はかかります。

■その他

渡航先で困らないように、Basic English, Basic Conversation, Conversationを受講するか受講者と同等の英語力をつけておいて下さい。英語を声に出すことに慣れておくことが望ましいです。
パスポートは夏休みに、早いうちに必ず取得しておきましょう。持っている方は有効期限の確認をしてください。今年の渡航先もシンガポールの予定です。

科目名	マーケティング[総カリ]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	石川 智寛

■講義の目的および概要

マーケティングの基礎的な考え方や理論の枠組みを理解し、それらの知識を活用できるようになることを目的とします。そのためには、企業と顧客の関係やマーケティング意志決定に関して、これまでの消費者目線だけではなく、企業側の立場に立って学びを深めていきます。マーケティングに関する基本的な用語、仕組みや活用方法については実例をもとにアイデアを構築したり実践的に修得します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行いますが、授業効果を考えてzoomなど遠隔での授業を行うこともあります。また、授業内では、リテールマーケティング（販売士検定3級）の過去問題を一部演習のほか小テストやmanabaでの振り返り、適宜、グループワークやディスカッションを行って、調査内容の発表やレポート提出も行う予定です。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

■授業計画

以下のような授業の流れを計画していますが、進度の関係により、内容・順序を変更することがあります。

- ①ガイダンス～マーケティングとは？
- ②マーケティングの実際とコンセプト
- ③4P分析
- ④SWOT分析
- ⑤市場セグメントと顧客ターゲット
- ⑥ヒット商品研究
- ⑦プライシング戦略
- ⑧プロモーション戦略
- ⑨ロケーション・マーケティング
- ⑩ブランディングの機能
- ⑪コミュニケーション戦略
- ⑫コミュニケーション戦略演習
- ⑬マーケティング調査研究 その1（グループブランディング）
- ⑭マーケティング調査研究 その2（ブランディングのまとめ）
- ⑮授業内考査、振り返り、授業評価アンケート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①マーケティングの発展および役割を理解し、実際の事例を理論的に説明・分析できるようにになる。
- ②顧客の視点に立ったマーケティング的発想、提案ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

以下の点数をもとに総合評価を行います。

- ①授業内課題 40点
- ②レポート 40点
- ③作品提出 20点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

『1からのマーケティング』 石井 淳蔵 他（編著） 碩学舎
『全史×成功事例で読む マーケティング大全』 酒井 光雄 株式会社かんき出版
『売る力が身につく最強マーケティング図鑑』 草地 真 株式会社パル出版

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：次回の講義内容の指示に沿って、資料を読んで学習テーマや課題を明確にすることが大切です。

事後学習：講義で学んだ内容（インプットした力）をもとに、毎時間の課題に取り組み、学習内容の理解の定着と広がりを持つことが大切です。

【必要な時間】

事前学習、事後学習をあわせて1～2時間程度が目安となります。

■その他

科目名	食生活論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

日本人の食生活は、多種多様な食品を利用する機会が増大しているが、不適切な食物摂取に起因する疾病や栄養上の課題も多く、食品の安全性への不安も高まっています。本講義では人間生活の基礎である食について学ぶとともに、日本の食生活の現状と問題点を理解し、健康的な食生活のあり方について考察します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
提示したスライドを中心に講義形式で行います。

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答、提出された課題等については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②食生活と健康・日本料理Ⅰ
- ③食生活の評価Ⅰ
- ④日本料理Ⅱ
- ⑤行事食・節句・食料自給率
- ⑥食生活とSDGs
- ⑦世界三大料理
- ⑧世界の食生活Ⅰ
- ⑨世界の食生活Ⅱ
- ⑩菜食主義者の食生活・未来の食生活
- ⑪食品表示
- ⑫遺伝子組み換え食品・オーガニック
- ⑬食中毒・食品添加物・食生活と災害
- ⑭食生活の評価Ⅱ
- ⑮まとめ 期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
食品、栄養、健康に関する基礎的な知識を習得すること、日本の食生活の現状と動向、問題点が適切に把握できるようになること、食生活の意義と望ましいあり方について考察できるようになることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」「課題を発見し、解決する力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

期末試験・小テスト：50%
提出物：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト・参考文献】
授業内で適宜紹介します。
食生活アドバイザー検定を受験する学生は「食生活アドバイザー検定」のテキスト購入を推奨します。

■授業外学習

【具体的な内容】
今回の授業内容について、キーワードを提示するので、調べてノート等にまとめてください。授業の冒頭で、前回の授業内容について小テストを行います。必ず前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べてきてください。

【必要な時間】
各2時間

■その他

15回の授業のうち、数回オンデマンド形式で行う可能性があります。

科目名	ビジネス実務 I
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

ビジネスの場で求められるコミュニケーション力やマナーを身につけることを目的に、オフィスに必要な対応能力を実践的に学びます。特に、敬語等の言語による表現に加え、他人に与える印象など非言語表現についても多面的に考えてみます。好感獲得力と仕事の処理能力を意識下に、正確性と迅速性を意識しながら、実際に起こるオフィスでの現実課題を教材に、どのような仕事についても生かせる職務遂行能力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習を交互に行ないます。挨拶から始まり、敬語の使い方、来客対応の仕方、電話対応など、オフィスルームを活用しながら、学生参加型の演習を展開します。秘書の実務経験のある教員が、ロールプレイング中にアドバイスをいたします。小テストは毎回採点し、満点で次のステップに進みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、ビジネスとサービス活動
- ②敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）
- ③第一印象とノンバーバルコミュニケーション
- ④改まった場面やビジネスシーンにおける敬語
- ⑤好感度をアップする話し方
- ⑥札幌国際大学生のマナー、敬語確認テスト
- ⑦来客対応1（受付から応接室まで）
- ⑧来客対応2（～見送りまで、席次、名刺交換）
- ⑨来客対応3（対応演習）
- ⑩来客対応実技試験
- ⑪電話対応1（受け方・伝言メモ）
- ⑫電話対応2（かけ方・携帯電話）
- ⑬電話対応演習
- ⑭電話対応実技試験
- ⑮まとめ、試験対策

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①尊敬語、謙譲語、丁寧語の敬語表現ができる。
- ②来客対応、電話対応、訪問のマナーを理解し、表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP 2)【コミュニケーション能力】
 (DP 5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

筆記試験40%
 実技試験40%
 敬語総合テスト20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「成功する仕事の基本とビジネスマナー」 寿郎社

【参考文献】

「秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、敬語を暗記してノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	ビジネス実務Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

ビジネスの場で求められるコミュニケーション力やマナーを身につけることを目的に、オフィスに必要な対応能力を実践的に学びます。特に、敬語等の言語による表現に加え、他人に与える印象など非言語表現についても多面的に考えてみます。好感獲得力と仕事の処理能力を意識下に、正確性と迅速性を意識しながら、実際に起こるオフィスでの現実課題を教材に、どのような仕事についても生かせる職務遂行能力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習を交互に行ないます。挨拶から始まり、敬語の使い方、来客対応の仕方、電話対応など、オフィスルームを活用しながら、学生参加型の演習を展開します。秘書の実務経験のある教員が、ロールプレイング中にアドバイスをいたします。小テストは毎回採点し、満点で次のステップに進みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、サービス接遇検定準1級とは
- ②仕事の基本（ハウレンソウ）
- ③コミュニケーションのための自己理解・自己表現
- ④会議の参加の仕方、顧客満足クレーム対応、笑顔で変わるV
- ⑤ビジネス文書
- ⑥茶菓接待演習（入れ方）
- ⑦茶菓接待演習（出し方）
- ⑧茶菓接待実技試験
- ⑨サービス接遇検定準1級基本言動
- ⑩ " 接客応答
- ⑪ " 接客対応
- ⑫サービス接遇検定準1級実技試験
- ⑬就職活動に伴う文書のマナー
- ⑭慶弔のマナー
- ⑮試験と解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①相手に感じが良いという態度や言葉遣いができる。
- ②会社の即戦力となれるよう、仕事の基本が理解できる。
- ③サービス接遇検定準1級の資格を取得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

筆記試験40%
 実技試験30%
 電話対応総合テスト20%
 その他提出物10%

■テキスト・参考文献

テキスト】

「成功する仕事の基本とビジネスマナー」寿郎社（春学期と同じテキスト）

【参考文献】

「サービス接遇検定受験ガイド準1級」
 「秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、電話対応の言葉遣いを暗記してノートにまとめてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	エアラインサービス演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

本講義の目的はエアラインにおけるサービスについて学び、広義におけるホスピタリティマインドとスキルを修得する。変化の激しい社会にあっても、将来、社会人として様々な現場において、ホスピタリティを具現化できるようになることを目指す。事例検討・グループワーク・ディスカッションなどを通して協働のためのコミュニケーション・協調性についても体験的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

資料やパワーポイント・DVDを活用しての講義の他、グループワークやディスカッション・プレゼンテーションなどを通して、エアラインの時代的サービスの変化・求められるホスピタリティ・顧客満足などについて、より具体的に学んでいく。エアラインでの実務経験のある教員が、実際の具体事例も盛り込むことで、より現場について理解を深められるように講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションについては随時、授業内でフィードバック。レポートなどの提出物についても、精査後にフィードバックする。

■授業計画

- ①エアラインサービスに携わる職種と業務内容
- ②エアラインサービスの時代的变化
- ③顧客満足について
- ④グランドスタッフの実務
- ⑤グランドスタッフの対応事例検討
- ⑥キャビンアテンダントの実務
- ⑦キャビンアテンダントの対応事例検討
- ⑧グループワーク1「サービス比較」
- ⑨グループワーク2「エアラインサービスと顧客満足」
- ⑩プレゼンテーション
- ⑪エアラインにけるホスピタリティと顧客満足
- ⑫クレーム対応・イレギュラリティ対応とその応用
- ⑬エアラインに求められる人材（特別講義）
- ⑭エバー航空とインバウンド・アウトバウンド（特別講義）
- ⑮サービスの付加価値とこれまでの総括

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

エアラインサービスについて学ぶことで、現代社会に求められるホスピタリティへの理解を深化させ、職業人として顧客満足を提供できる人材となる。お客様対応や組織内の業務遂行において重要なコミュニケーションについて学び、傾聴力・発信力を発揮できるようになる。様々な場面でのお客様への対応の判断・実行力を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するという学位授与方針に基づき、自立的かつ自律的に考え、表現でき、行動できうる職業人として必要な能力を修得する。

■成績評価基準と方法

レポート：空港見学・特別講義の後のレポート合計3回分10%ずつ、15回の授業が終了した後の最終レポート40%
グループディスカッション・プレゼンテーション30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

最適なテキストがないため、資料をその都度配布します。

【参考文献】

「グランドスタッフ入門」廃版なので授業内で説明
「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」中里のぞみ・紺野猷邦著
株式会社パレード

■授業外学習

【具体的な内容】事前学習として航空業界やサービス業界に関連する新聞記事、ニ2023(令和5)年4月1日
ースなどは意識して読むようにすること。事後学習として配布したレジュメは読み返
すようにしてください。レポート提出は何度かありますので、自分の言葉で表現する
ことを心がけて下さい。提出期限は厳守すること。

【必要な時間】事前・事後学習には各授業前後にそれぞれ2時間程度費やすようにし
てください。

■その他

空港見学が可能であれば実施しますが、コロナの状況も踏まえて決定します。
また、見学に行く場合の引率は石田先生が担当します。

科目名	学びの技法[総カリ]
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子、小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

短大で主体的に学ぶための基本的技能の習得を目指す。高校までとの学びの違いを理解し、短大での学びに必要なスタディスキルの習得をめざす。個人の幸福の追求だけではなく、社会の課題に目を向け、主体的に課題に取り組み、効果的に成果をアウトプットするための技法を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は小人数グループによる演習形式と、全員で受ける講義形式を適宜併用する。意見交換や発表の機会があるので、主体的に意欲的に取り組むことが求められる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は、担当教員から授業内、メールなどを通して個別にチェックとアドバイスがある。
作成中の課題に対しては、途中の段階でもチェックを受けることができる。

■授業計画

おおむね、以下の内容によって授業を進めるが、都合により内容が前後、または統合されることがある。

- ① オリエンテーション【学科での学び】
- ② 学長講話【札幌国際大学短期大学部のあらし】
- ③ 図書館ガイダンス・書評について
- ④ 社会の問題を考える（1）
- ⑤ 聞き、まとめる（1）
- ⑥ 聞き、まとめる（2）
- ⑦ 社会の問題を考える（2）【解決策・できることとは】
- ⑧ 学園祭展示準備（1）
- ⑨ 学園祭展示準備（2）
- ⑩ 学園祭展示準備（3）
- ⑪ 学園祭展示準備（4）
- ⑫ 学園祭での展示活動
- ⑬ 学園祭展示活動の振り返り
- ⑭ 書評ワーク
- ⑮ 授業のまとめ・振り返り／定期試験の準備、成績について

※ 学園祭展示準備ではインタビューワークや、アンケート作成、ポスターの作成などを行う

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① ものごとを広い視野で分析するための基礎的技法を習得する。
- ② 大学生として必要な基礎的スタディスキルを身につけ、発揮する。
- ③ 本学の学生としての誇りをもち、個々の能力や個性を活かして、主体的に学ぶ生活を送れるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

各種提出物（ワークシート他） 60%
最終課題 40%（チャレンジノート、書評の提出）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『学びの技法：ファイル』『Study Guide』

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料を復習すること。次回までに課せられた予習課題をクリアしておくこと。
日常的にニュースをチェックする習慣を身につけ、家庭生活や社会生活に関する関心を広げること。
グループで取り組む課題も多いので、一員として迷惑が掛からないように授業外学習をしておくこと。

【必要な時間】

1～2時間を目安としてください。

■その他

【同時期関連受講科目】

伝わりやすい日本語、正しい漢字、表記：言葉の力基礎
情報機器の扱い：コンピュータリテラシー
発信、発表の技術：プレゼンテーション基礎
視野の拡大、ニュースの理解：現代生活論、現代生活と社会

科目名	キャリア形成[総カリ]
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	樋原 智恵

■講義の目的および概要

生き方・働き方が多様な現代社会において、急速に変化する生活環境やビジネス社会を理解し生きていくために、これからの学生生活をどのように過ごすことが大切かを考え、その学修計画を立てることが目的です。また自己理解を深め、多くの人・コトに興味・関心を持つことの必要性を理解することを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・授業資料プリントを利用した講義形式
- ・グループワークによるディスカッション形式
- ・調査内容を発表するプレゼンテーション形式

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料を適宜提示・配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
(講義内容、評価についての説明、働くとは?)
- ②学生生活とキャリア
(時間とお金、学生生活の満足度とキャリア意識)
- ③学生生活に必要な社会人基礎力
- ④自己理解ワーク1(過去を振り返り、現在・未来を考える)
- ⑤自己理解ワーク2(視野を広げる・パラダイムシフト)
- ⑥自己理解ワーク3(課題発見・情報収集)
- ⑦自己理解ワーク4(前向きな思考力)
- ⑧「はたらく」を考えるⅠ
(ワークルール、コンプライアンス、ハラスメント)
- ⑨「はたらく」を考えるⅡ
(正社員とパート社員、育休・産休制度、転職・再就職など女性ならではのキャリアデザイン)
- ⑩「はたらく」を考えるⅢ
(企業規模の違い、総合職と一般職、民間企業と公務員)
- ⑪就職活動の準備
(インターンシップ、求人票の見方、企業研究など就職活動の現状を知る)
- ⑫キャリアセッション(卒業生の働き方:接客と事務職)
*卒業生をお招きします。
- ⑬働く人インタビューⅠ(インタビュー計画の作成)
- ⑭働く人インタビューⅡ(インタビュー内容のプレゼンテーション)
- ⑮最終レポート・まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己の能力課題を把握し、改善のための計画を立てて実行できる
- ②自分自身の職業観を理解し、長期的な視点で前向きなキャリアを描くことができる
- ③先輩や働く人たちの話から、働くことの意義を考え、視野を広げることができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の小レポート50%
- ②グループディスカッション・プレゼンテーション 20%
- ③最終レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストなし。講義における連絡やレポート・課題提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については、学修管理システム(manaba)を用います。

【参考文献】

- ・「なぜ僕らは働くのか」池上彰監修 Gakken

■授業外学習

2023(令和5)年4月1日

【具体的な内容】

「仕事」「働くこと」「生活」等のキーワードを中心に、新聞やニュースに日ごろからふれるようにしてください。
また、学んだことはノートなどにまとめ自身のキャリア形成に役立てましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ1～2時間程度を目安とします。

■その他

科目名	キャリア基礎演習[総カリ]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

「働く」ことについて、個人の視点と企業や社会の視点の双方から理解し、キャリアプランを設計します。そのため、社会の動向と産業・職業・労働について幅広く理解し、働く意義を踏まえながら就活への準備を整えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

職種研究や自己分析などをおして、将来就きたい職業を見つけて就職するための準備を講義と演習で行ないます。授業は、企業で総務の実務経験のある教員らが担当し、キャリア支援センター職員や人事担当者より、個別にアドバイスいたします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜指示・配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、就職活動の全体像 KB…キャリアハンドブック
- ②履歴書の構成、インターンシップ、チャレンジ3 KB
- ③自己分析 KB
- ④職務適性テスト検査
- ⑤札幌国際大学を取り巻く「業界」
- ⑥【講話】就活を知る、採用スケジュール、今すべきこと
- ⑦札幌国際大学を取り巻く「職種」
- ⑧職務適性テスト検査結果&解説
- ⑨社会人としてのメールの書き方 PC
- ⑩履歴書・エントリーシートの書き方 PC
- ⑪履歴書・エントリーシートの作成と添削 PC
- ⑫送付状・封筒の書き方 PC
- ⑬自立するということ
- ⑭面接の基本、自己紹介
- ⑮試験とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①社会の出来事に潜む問題点を見つけることができる。
- ②他者の考えを受け入れ、自分の考えを伝えることができる。
- ③社会に出る準備課題をこなすことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業内課題70%
 口頭発表20%
 その他提出物10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

キャリアハンドブック

【参考文献】

女子学生のためのキャリアデザイン

■授業外学習

【具体的な内容】

- 社会を知るため、新聞、ニュースには毎日触れアンテナを張ること。
- 宿題として出されたものは必ず取り組んで来ること。

【必要な時間】

課題の完成、疑問点の整理などのため、授業前後に、1-2時間の時間外学習が必要です。

■その他

科目名	キャリア応用演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代、小林 純、石川 智寛

■講義の目的および概要

「キャリア形成」や「キャリア基礎演習」で立案した学修と学生生活の計画が実行されているかを確認しながら授業を進めます。「働く」ことについて、個人の視点と企業や社会の視点の双方から理解し、キャリアプランを設計します。そのため、社会の動向と産業・職業・労働について幅広く理解し、働く意義を踏まえながら就活への準備を整えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

職種研究や自己分析などをおして、将来就きたい職業を見つけて就職するための準備を講義と演習で行ないます。授業は、企業で総務の実務経験のある教員らが担当し、キャリア支援センター職員や人事担当者より、個別にアドバイスいたします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜指示・配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、職務適性テスト検査
- ②SPI対策、ハラスメント
- ③就業形態別の働き方と待遇
- ④【講話】面接対策講座
- ⑤面接実践（グループ）
- ⑥履歴書の書き方 PC
- ⑦履歴書の作成と添削 PC
- ⑧履歴書の作成と添削、進路入力 PC
- ⑨【講話】就活メイク講座
- ⑩【講話】スーツの着こなしと身だしなみ講座
- ⑪内定者報告会（2年生）
- ⑫【講話】ガールズキャリアコレクション（OG）
- ⑬面接実践（個人）
- ⑭学内業界セミナー
- ⑮ビジネス・コミュニケーション試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①社会の出来事に潜む問題点を見つけることができる。
- ②他者の考えを受け入れ、自分の考えを伝えることができる。
- ③社会に出る準備課題をこなすことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業内課題70%
 実技試験20%
 その他提出物10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回教材シートを配布します。

【参考文献】

キャリアハンドブック
 女子学生のためのキャリアデザイン

■授業外学習

【具体的な内容】

- 社会を知るため、新聞、ニュースには毎日触れアンテナを張ること。
- 宿題として出されたものは必ず取り組んで来ること。

【必要な時間】

課題の完成、疑問点の整理などのため、授業前後に、1-2時間の時間外学習が必要です。

■その他

科目名	消費生活論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

多くの商品やサービスを消費する今日、様々な消費者問題や商品問題も発生しており、私たちは確かな知識をもち、自立した消費行動を行う必要があります。本講義では消費生活の変容とその背景に理解を深め、今日の消費生活の現状と諸問題、消費生活における商品やサービスに関連する事項について学習します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式で行うが、一部グループワーク、ディスカッション等を取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された小レポート、課題等については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②流通の機能
- ③小売りの種類とシステムの変化
- ④ミールソリューション・商品陳列・暮らしと経済
- ⑤暮らしと経済と契約・食と生活を結ぶ法律
- ⑥消費生活と環境Ⅰ（エシカル消費）
- ⑦消費生活と環境Ⅱ
- ⑧消費生活と環境Ⅲ
- ⑨振り返りⅠ
- ⑩消費生活と防災Ⅰ
- ⑪消費生活と防災Ⅱ
- ⑫ポスター作成に向けての準備
- ⑬ポスター作成
- ⑭ポスター作成
- ⑮ポスター発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現代の消費生活の特質と問題点について理解を深め、自立的な消費生活の実現に向け、関連知識を習得することを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

ポスター発表：40%
提出物（小レポート等）：60%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業内容の理解度を高めるためにノートにまとめ、毎回復習してください。
授業内容に関連した個人テーマを設定し、発表を行うので、日頃から新聞記事やニュースなどに注目し、関連資料を収集し整理しておきましょう。

【必要な時間】

各2時間

■その他

15回の授業のうち、数回オンデマンド形式で行う可能性があります。

科目名	医療事務
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	薄井 智也

■講義の目的および概要

●理由

それぞれの仕組みが「なぜ、そうなっているのか？」理由と背景、根拠を理解し、自らの経験や体験シーンをリンクさせつつ想像力を働かせながら関心を持ち、知識と技術をバランス良く習得しようとする意欲と姿勢から始まる。

●目的

基礎編では病院のしくみや医療保険制度について理解することをねらいとする。実務編では医科診療報酬点数の算定について、診療行為それぞれの特性を掴むとともに、外来分の裏点作成※1と診療報酬明細書※2の記載要領※3について理解することをねらいとする。

※1. 診療報酬明細書作成前段階の点数整理を示す。

※2. 月ごとに診療行為や点数がまとめられたもの、レセプトと言う。

※3. レセプト記載に際するルールを示す。

●概要

- ・医療事務基礎編
第1章) 病院のしくみ 第2章) 医療保険 第3章) 公費負担医療制度
- ・医療事務実務編

診察料の算定(初診料・再診料・外来管理加算等)、医学管理料の算定、投薬料の算定、注射料の算定、処置料の算定、手術・麻酔料の算定、検査料の算定、画像診断料の算定。カルテ上の表記と診療報酬明細書への記載について特性を掴む。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

●方法

テキストにより講義を進行し、適宜、振り返りと授業内課題実践を行う。

主体的な振り返りに繋がるよう努め、理解の充実と知識の定着を図る。

●フィードバックの方法

授業内において前回ポイントの振り返りを行い、理解の充実と知識の定着を図る。

■授業計画

- ①受講意思確認等、シラバス説明、検定、授業の進め方、課題取り組み、講師紹介等
- ①医療事務基礎編—第1章) 病院のしくみ
- ②医療事務基礎編—第2章) 医療保険
- ③医療事務基礎編—第3章) 公費負担医療制度、医療事務実務編確認
- ④医療事務実務編—初診料の算定
- ⑤医療事務実務編—再診料、外来管理加算の算定
- ⑥医療事務実務編—医学管理料の算定
- ⑦医療事務実務編—投薬料の算定
- ⑧医療事務実務編—注射料の算定
- ⑨医療事務実務編—処置料の算定
- ⑩医療事務実務編—手術、麻酔料の算定
- ⑪医療事務実務編—検査料の算定
- ⑫医療事務実務編—画像診断料の算定
- ⑬医療事務実務編—頭書き(氏名や健康保険)、傷病名、カルテ2号紙の理解
- ⑭医療事務実務編—外来分の裏点整理と診療報酬明細書記載要領の理解
- ⑮授業内テストならび解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

●到達目標

基礎編では医療機関の仕組みや医療保険制度の仕組みについて理解する。実務編では医科診療報酬点数の算定について、診療行為それぞれの特性を掴み、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の記載要領を理解する。カルテの情報(診療記録や疾病、医療用語)を読み取り、診療行為それぞれの特性を理解した上で診療報酬点数の算定ができ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書(レセプト)の作成習得を到達目標とし、全国医療技能検定協議会医療事務検定の100%受験とともに80%以上の合格率を目指す。

●卒業認定・学位授与の方針との関連

自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するに基づき、医療機関で活躍できる実務能力の獲得を通じ、社会人・組織人として活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

授業内テストにより60%を決定し、授業内課題40%による。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
全国医療技能検定協議会出版)
医療事務基礎編、医療事務実務編、カルテ問題集

【参考文献】
なし

■授業外学習

理由と背景、根拠を知って理解し、そのシーンなど想像力を働かせながら習得しようとする姿勢とともに、興味と関心をもって授業後の振り返り、授業前の予習を行います。繰り返し行うことで理解の充実や知識の整頓、正しい知識の定着に繋がります。不明点は授業内でも積極的に発言し理解に努めてください。そうすることで周囲や全体への理解に繋がり、相乗効果が期待されます。大変だと思いますが時間目安は復習予習にそれぞれ1時間がよろしいと思います。

■その他

授業内での振り返りを取り入れ、理解の促進と授業の活性化を図るため、随時指名して発言を求めます。ぜひ授業後の振り返りを行った上で授業にご参加ください。また、授業計画①時点より、電卓を使用し始めますのでご用意をお願いします。テキストは授業の際に必ずご持参ください。なお、索引速度の観点を含め、テキスト医療事務実務編には必ずインデックスの貼付をお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

科目名	秘書演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

秘書業務で起こる事例をもとに、働くための基本的な知識を身につけます。特に、上司・社内・社外、先輩など人との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションについて学びます。また、組織で働くための基本的知識として、会社と組織、企業活動と法律、税などを始め、働く場で飛び交う用語についても学び、広く一般知識を身につけていきます。この授業は、その知識の確認として秘書検定取得に挑戦します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

秘書検定3級の資格取得を目指す科目です。毎回テキストを活用して、秘書の実務経験のある教員が、さまざまな事例を紹介しながら、職場環境に対応するための基本をマスターします。また、毎回過去問題の宿題がありますので、必ず解いてきてください。繰り返し問題を解くことで実力を付けて合格を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、秘書検定の受験方法
- ②第1章 秘書の資質
- ③第2章 職務知識
- ④第3章 一般知識
- ⑤第4章 マナー・接遇・話し方
- ⑥電話応対
- ⑦交際業務
- ⑧第5章 技能・会議
- ⑩グローバル化する社会と秘書
- ⑪文書・取り扱い
- ⑫ファイリング・日程管理・オフィス管理
- ⑬復習
- ⑭模擬試験
- ⑮筆記試験と解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①上司とのペアワーク、秘書の技能について理解し説明できる。
- ②社会人としての言葉遣いを理解し説明できる。
- ③会社や組織、接遇、交際業務の基本を理解し説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

筆記試験80%
その他提出物20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「秘書検定3級パーフェクトマスター」実務技能検定協会編 早稲田教育出版
秘書検定3級の受験料は2800円

【参考文献】

「秘書検定集中講義3級、2級」実務技能検定協会編 早稲田教育出版

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、専門用語の意味などをノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

秘書検定3級の試験は、本学を会場に2月に実施する予定です。

科目名	医療事務特別演習
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	薄井 智也

■講義の目的および概要

●理由

それぞれの仕組みが「なぜ、そうなっているのか？」理由と背景、根拠を理解し、自らの経験や体験シーンなどをリンクさせつつ想像力を働かせながら関心を持ち、知識と技術をバランス良く習得しようとする意欲と姿勢から始まる。

●目的

受付（接遇、健康保険の確認・情報登録など）～診療行為発生～会計（接遇、診療費計算や精算など）～診療報酬請求事務に至るまでの過程を想像しながら、カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を元に、診療ストーリーを読み取る能力とともに外来分の裏点作成※1と診療報酬明細書※2（レセプト）作成の習得をねらいとする。

※1. 診療報酬明細書作成前段階の点数整理を示す。

※2. 月ごとに診療行為や点数がまとめられたもの、レセプトと言う。

●概要

全国医療技能検定協議会医療事務検定の受験を踏まえ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の作成をより多く、徹底し、集中的に行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

●講義の方法

テキストにより講義を進行し、適宜、振り返りと授業内課題実践を行う。
主体的な振り返りに繋がるよう努め、理解の充実と知識の定着を図る。

●フィードバックの方法

授業内において前回ポイントの振り返りを行い、理解の充実と知識の定着を図る。

■授業計画

- ①医療事務検定問題集
- ②医療事務検定問題集
- ③医療事務検定問題集
- ④医療事務検定問題集
- ⑤医療事務検定問題集
- ⑥医療事務検定問題集
- ⑦医療事務検定問題集
- ⑧医療事務検定問題集
- ⑨医療事務検定問題集
- ⑩医療事務検定問題集
- ⑪医療事務検定問題集
- ⑫医療事務検定問題集
- ⑬医療事務検定問題集
- ⑭医療事務検定問題集
- ⑮授業内テストならび解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

●到達目標

カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を読み取り、診療行為それぞれの特性を理解した上で診療報酬点数の算定ができ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書（レセプト）の作成習得を到達目標とし、全国医療技能検定協議会医療事務検定の100%受験とともに80%以上の合格率を目指す。

●卒業認定・学位授与の方針との関連

自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するに基づき、医療機関で活躍できる実務能力の獲得を通じ、社会人・組織人として活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

授業内テストにより60%を決定し、授業内課題40%による。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

全国医療技能検定協議会出版)

医療事務基礎編、医療事務実務編、カルテ問題集、医療事務検定問題集

【参考文献】

なし

■授業外学習

理由と背景、根拠を知って理解し、そのシーンなど想像力を働かせながら習得しよう²³(令和5)年4月1日
とする姿勢とともに、興味と関心をもって授業後の振り返り、授業前の予習を行います。繰り返し行うことで理解の充実や知識の整頓、正しい知識の定着に繋がります。不明点は授業内でも積極的に発言し理解に努めてください。そうすることで周囲や全体への理解に繋がり、相乗効果が期待されます。大変だと思いますが時間目安は復習予習にそれぞれ1時間がよろしいと思います。

■その他

授業内での振り返りを取り入れ、理解の促進と授業の活性化を図るため、随時指名して発言を求めます。ぜひ授業後の振り返りを行った上で授業にご参加ください。また、テキストと電卓は授業の際に必ずご持参ください。なお、索引速度の観点を含め、テキスト医療事務実務編には必ずインデックスの貼付をお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

科目名	韓国語(初級)
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

韓国および韓国語について理解を深め、韓国と韓国語に対する基礎知識を確実にするための入門レベルの科目です。韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、スムーズに音読できるように学習します。また、簡単な表現に触れながら基礎的な日常会話と自己紹介ができることを目標とします。なお、韓国における社会・文化がわかり、国際社会をより深く理解する姿勢を身につけます。ハングルの音読と自己紹介ができる能力を中心に評価します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にして、理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaと通してフィードバックします。

■授業計画

- ①韓国、韓国語についての概略
- ②第1課 母音①・初声(鼻音・流音)
- ③第1課 母音②・終声(パッチム)①
- ④第2課 母音③
- ⑤第2課 母音のまとめ・初声(平音)
- ⑥第2課 連音化
- ⑦第3課 初声(激音)
- ⑧第3課 初声(濃音)
- ⑨第3課 終声(パッチム)②
- ⑩ハングルのまとめ
- ⑪第4課 助詞「は」
- ⑫第4課 ムニダ体「です・ですか」
- ⑬第5課 助詞「が」・ヘヨ体「です・ですか」
- ⑭第5課 「ではありません」
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語への関心を持ったうえで、簡単な挨拶や自己紹介に応用できます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP2 コミュニケーション能力
DP4 多様性の理解と協働する力
DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%
小テスト：20%
口頭発表：20%
授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に、韓国語の発音について随時指名して発言を求めらるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。

科目名	韓国語(中級)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

韓国語(初級)を発展させ、韓国語の基礎文法を利用し、作文と日常会話に応用できる初級レベルの科目です。韓国語における文法体系を理解した上で、語彙を覚えて短い文章を作る練習を通し、作文と会話ができるようになることを目標とします。日常会話でよく使用される表現を習得し、外国語学習者に求められる聞く・話す・読む・書く能力をバランスよく身につけます。学習した文法と表現を応用して作文と会話の能力を向上させ、その進化を中心に評価します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にして、理解を深めていきます。

「ディスカッション」および「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①ハングルの読み書き/自己紹介
- ②韓国語 I までの復習
- ③第6課 漢数詞・「に」「います・いません」
- ④ヨ体の作り方
- ⑤過去形の作り方
- ⑥第7課 「を」「も」
- ⑦第8課 「で」「に」
- ⑧第9課 「で」「から～まで」
- ⑨第9課 固有数詞
- ⑩第10課 「しに」「から～まで」
- ⑪第11課 不規則活用
- ⑫第11課 否定表現
- ⑬第12課 敬語
- ⑭第12課 「つもりです」「したいです」
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語の基礎文法を理解し、日常会話に応用できます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP2 コミュニケーション能力
DP4 多様性の理解と協働する力
DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%
小テスト：40%
授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に、韓国語の発音について随時指名して発言を求めらるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。

科目名	コンピュータリテラシー
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

■講義の目的および概要

短期大学での学習や、社会で必要となる基礎的なコンピュータの操作や知識を学ぶことを目的としています。レポート提出などで必要となる文書作成やグラフの作成、また発表で必要なプレゼンテーションを学習します。
また、企業の業務で発生するビジネス文書を実際にコンピュータで作成できるよう、知識や技術を学びます。
コンピュータの操作に自信がない人や、自分で文章を作ったことがないという人は、必ず受講して、他科目の授業に備えてください。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを中心とした演習形式で進めます。教員からの説明ののち、課題に取り組み、成果を評価していきます。
単元ごとに基礎的な知識を問うテストを取り入れていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出物のチェックを行い、個別に評価を行ってフィードバックします。

■授業計画

授業は、以下に示す順序で実施します。

- ① ガイダンス、本学の情報環境に関する説明と設定
- ② Windows基本操作、環境設定
- ③ Wordでの文書作成（チラシを作る）
- ④ Wordでの文書作成（レポートを作る）
- ⑤ Wordでの文書作成（ビジネス文書：社内文書）
- ⑥ Wordでの文書作成（ビジネス文書：社外文書）
- ⑦ Wordでの文書作成（手紙の書き方）
- ⑧ Excelの基礎
- ⑨ Excelでの表作成
- ⑩ Excelでの表計算・関数
- ⑪ Excelでのグラフ作成
- ⑫ PowerPointの基礎、スライド作成
- ⑬ PowerPointでの表現効果
- ⑭ 情報セキュリティについて
- ⑮ 情報モラルについて

レベル別に課題等を与えることもあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① コンピュータを利用して基本的なファイル操作、文書作成（レポート程度）ができるようになる。
- ② 実際の事務作業で適用できるビジネス文書を作成できるようになる。
- ③ 情報社会で必要となる情報セキュリティや情報モラルなどの基礎的な知識を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の点数を総合的に判断し、評価を行います。

- 課題の提出（完成度） 60%
確認テストの達成度 20%
タイピングテスト 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル」noa出版

【参考文献】

必要に応じて、担当者からプリントを配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

タイピングや確認テストは学外からも受験が可能です。授業前後、授業の空き時間や自宅での学習時間に進めてください

【必要な時間】

課題（宿題）の作成で1時間程度の学習が目安です。

■その他

受講者は必ずテキストを購入し、2回目からの授業には必ず持参するようにしてください。

テキストには、ユーザー名、パスワード（1年間有効）が付いており、毎講使用します。テキストやパスワードの貸借は絶対にしないでください。

科目名	現代生活論
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

私たちの生活は個人的営みでありながら、社会環境や時代の影響を強く受け、今日では複雑化しさまざまな課題に直面することも多い。本講義では現代生活の特徴について理解を深め、その移り変わりや生活課題について考察することを目的とする。また女性の視点からみる現代生活の課題や今後について再考することをめざす。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は配布したプリントを中心に講義形式で行う。また授業内では随時、グループワークやディスカッションを取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された小レポート、課題等については授業内で解説する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②総合生活キャリア学科について
- ③現代生活の特徴について
- ④総合生活キャリア学科と現代生活（グループディスカッション）
- ⑤現代生活の課題
- ⑥現代生活とライフプラン
- ⑦ワークライフバランス
- ⑧生活の質（QOL）
- ⑨自己実現と健康管理
- ⑩現代生活と情報社会
- ⑪現代生活と文化
- ⑫家族と家庭
- ⑬キャリアについて考える
- ⑭キャリアについて振り返る
- ⑮期末レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現代生活の特質と問題点について理解を深めること、生活者として主体的に生きるための基礎的知識を身につけ、個人や家庭にどのような生活課題があるかについて考察することを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」「課題を発見し、解決する力」「社会に貢献する姿勢」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

期末試験：60%

提出物：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業内容、プリントを整理し理解度を確認すること。
グループワークを行うための準備を授業回毎に行うこと。

【必要な時間】

各1時間程度

■その他

15回の授業のうち、数回オンデマンド形式で行う可能性があります。

科目名	国内フィールドワーク
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

地域の歴史や文化、自然や食などを幅広く体験することで、感性を磨き知見を広げることを目的としています。地域の魅力を発見し、地域の人々とのふれあいを大切にしながら仲間で協力しながら体験します。大学で学んだマナーやコミュニケーション能力を応用し、よく考え、話し合い、情報を発信する実務能力を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前学習は、歴史や文化、自然や食、観光について事前に調査する。レポートを作成しながらプレゼンテーションを作成し、調査内容を発表する。

実地研修では、大学で学んだマナーを発揮して、地元の方々と積極的にコミュニケーションをとりながら、グループワークや体験を行なう。

事後学習は、これらの経験を通してレポートにまとめ、パワーポイントを作成し発表する。

【課題に対するフィードバックの方法】

その都度質問に対する回答を行ない、仲間同士で助け合いながら情報共有と協調性を高めます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②事前調査 歴史・文化
- ③〃 自然・食
- ④〃 観光
- ⑤〃 産業
- ⑥フィールドワーク
- ⑦〃
- ⑧〃
- ⑨〃
- ⑩〃
- ⑪ふりかえりとグループディスカッション
- ⑫レポート作成
- ⑬パワーポイント作成
- ⑭〃
- ⑮発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①地域の歴史や文化、自然や観光を理解できる。
- ②現地では大学で学んだマナーやコミュニケーション能力を十分に発揮できる。
- ③資料を作成し、わかりやすく伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

事前調査30%
 フィールドワークでの取組み20%
 レポート・発表50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
 適宜、プリントをは配布します。

【参考文献】

■授業外学習

2023(令和5)年4月1日

【具体的な内容】
新聞や雑誌掲載される記事、書籍およびテレビ番組などとおして、日頃から関心を
持つこと。

【必要な時間】
事前・事後の予習・復習に2時間程度要する。

■その他

科目名	北海道のフードビジネス
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

フードビジネスの世界は日々、専門性や高度化を増し、競争が激化している。本講義の目的は、フードビジネスの意義・歴史・環境変化などを学び、豊かな大地で育まれる北海道食材に関する基本知識を学習し、フードビジネスに対する理解を深めることです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は配布するプリントを中心に講義形式で行うが、学習内容への理解を深め問題意識を高めるために、演習形式でグループワークやディスカッションも取り入れて実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおりに実施します。

- ①オリエンテーション：授業の概要説明
- ②フードビジネスの意義
- ③フードビジネスの歴史Ⅰ（消費者の食ニーズ）
- ④フードビジネスの歴史Ⅱ（外食ビジネスの成立と特徴）
- ⑤グループワーク1（北海道の魅力ある食材研究 ディスカッション）
- ⑥グループワーク2（北海道の魅力ある食材研究 プレゼンテーション）
- ⑦北海道が育む食文化
- ⑧北海道の魅力ある加工食品
- ⑨食による地域振興
- ⑩宿泊産業におけるフードビジネス、小テスト
- ⑪食品衛生とマネジメント
- ⑫グループワーク3（北海道の魅力あるフードビジネス研究 ディスカッション）
- ⑬グループワーク4（北海道の魅力あるフードビジネス研究 調査）
- ⑭グループワーク5（北海道の魅力あるフードビジネス研究 プレゼンテーション）
- ⑮授業内試験、振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①北海道の食材や加工品に対して、基本的な内容を理解できるようになる。
- ②多様化する消費者の食に関するニーズやウオントを理解できるようになる。
- ③専門化、高度化するフードビジネスの現状を理解することができるようになる。
- ④今後の課題や可能性を考察し、自分の考えを第三者に伝えることができるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------------|-----|
| ①授業内試験 | 50% |
| ②小テスト | 20% |
| ③授業内プレゼンテーション | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を提示・配布します。

【参考文献】

必要に応じて適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- <予習> 授業で取り扱う内容に関し、毎回事前に新聞やニュース番組などを利用して、自ら積極的に触れておくこと。
- <復習> 各回の授業で取り扱った内容に関し、講義内容をしっかりと復習するとともに、図書館の関連書籍やインターネットなどを活用して深く調べ、それぞれの内容をまとめておくこと。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ1時間必要になります。

■その他

科目名	カラーデザイン
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	恩村 比呂子

■講義の目的および概要

文部科学省後援 色彩検定UC級合格をめざします。
視覚情報にかかわる色のユニバーサルデザインを学び、多様性への理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

検定受験日までの前半はUC級公式テキストを使用し講義形式で授業を行います。
検定受験日以降は色彩理論に基づいた「配色イメージ」「ファッションと色彩」演習を行い、自身の色彩感覚向上をめざします。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回講義後にresponを利用して講義内容のまとめを提出してもらいます。
課題については授業内で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス/色彩検定UC級について/色のユニバーサルデザインとは
- ②色のはたらき
- ③色が見えるしくみ①「色とは何か」
- ④色が見えるしくみ②「色覚説」
- ⑤色の表し方
- ⑥色覚タイプと色の誤認
- ⑦色覚の遺伝
- ⑧高齢者の見え方
- ⑨色のユニバーサルデザインの進め方①「色の役割」
- ⑩色のユニバーサルデザインの進め方②「修正のポイント」
- ⑪色彩検定UC級 過去問題
- ⑫配色イメージ①「三属性との関係」(課題提出)
- ⑬配色イメージ②「トーンとの関係」(課題提出)
- ⑭ファッションと色彩(コラージュ作品提出)
- ⑮作品発表と講評、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

色彩検定UC級の知識を修得し検定に合格する
色彩理論を理解し色覚弱者へ配慮したカラーデザインを行うことができるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

検定試験への取り組み：30%
課題提出：30%
作品提出：30%
講義のまとめresponを提出：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「文部科学省後援 色彩検定公式テキストUC級」 2310円(税込み)

【参考文献】

「色彩検定UC級 過去問題集」「色彩検定公式テキスト3級編」

■授業外学習

【具体的な内容】

検定対策用のプリントは授業内で配布しますが、それ以外に各自ノートを用意しテキスト内容をまとめてください。限られた授業回数で合格をめざすので予習復習が重要です。

【必要な時間】

とくに検定日までは予習復習にそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

2023年度夏期色彩検定は6月25日に実施され、UC級検定料は6000円(税込み)です。
履修予定の学生は検定料を5月上旬に支払うので用意しておいてください。
後半で行う課題作成と作品作成では雑誌、はさみ、糊を使用します。

科目名	レシピ研究と実践
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

様々な料理レシピ情報が簡単に手に入る現代社会の中で、レシピについて正しく理解し、実践できる力は健康的な食生活を形成する上でとても大切です。本科目では調理実習を通して、食材が調理を経て料理になるまでの手順を理解しながら、テーマに沿ったレシピを考え、オリジナルレシピを作成します。調理実習を行いながら、より良いレシピ作成のためにレシピを活用する人の立場になり考え研究するとともに、レシピ通りに調理する実践力を育む科目です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義と実習形式で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション・レシピの成り立ち・テーマについて
- ②メニュー考案
- ③レシピ案作成
- ④試作準備
- ⑤食材の調達
- ⑥試作
- ⑦試作
- ⑧レシピ案修正・栄養価計算・価格計算
- ⑨試食会準備
- ⑩試食会準備・レシピ用写真撮影
- ⑪試食会と評価
- ⑫レシピ修正
- ⑬レシピ仕上げ・完成
- ⑭発表
- ⑮印刷・製本

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

食材が料理になるまでの手順を理解することができる。レシピを活用し、正しく料理できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」「課題を発見し、解決する力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

レポート：20%

レシピ：60%

発表：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト・参考文献】

レシピや食材、調味料に関する書籍等。

■授業外学習

【具体的な内容】

レシピ研究の過程をまとめ、復習してきてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、「こんなレシピがあったら良いな」とレシピに興味を持ち、料理を見て調理過程を想像して生活してみましょう。

【必要な時間】

各1時間程度

■その他

調理実習（基本）を受講していることが望ましいです。

科目名	ブライダル実務
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ブライダルにまつわる基本的な知識を学修する。
 婚約・結婚・挙式・披露宴／祝賀会等のしきたりやプロセス、意義、
 また、結婚式にまつわる衣装やマナーについて学ぶ。
 ブライダル業界の研究やその業界の職種を目指す学生には基礎知識となる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教員からの配布資料とプロジェクターを用い講義形式で進めます。
 実際の結婚式等の映像資料も用います。
 フィールドワークとして実際の式場(某ホテル内チャペル)を使用し「模擬チャペル挙式」を行います。
 なお、新郎新婦役として学生モデルを募集します。
 ウェディングプロデューサーおよびウェディングプランナーとして実務経験豊富な教員が事例を豊富にあげ講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題や試験については授業内またはmanabaを通じて、
 随時解説や資料配布等を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス～ウェディングプランナーとは～
- ②ブライダル業界の現状と傾向
- ③「六輝」「結納」とは
- ④挙式の種類
- ⑤DVD放映 小テスト①
- ⑥「披露宴」と「祝賀会」～違いと考え方～
- ⑦結婚式にまつわる「衣装」のいろいろ
- ⑧結婚式の「料理」と「飲物」
- ⑨「引出物」「熨斗」「水引」とは
- ⑩DVD放映 中間小テスト②
- ⑪結婚式の演出とその意義
- ⑫ゲストとしての心構えとマナー
- ⑬⑭フィールドワーク～模擬チャペル挙式の実施～
- ⑮まとめ 期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ブライダルに関するしきたり等の基礎知識および社会人としてウェディングシーンに立会う際のマナーの理解と習得。ブライダルについて興味・関心の向上。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

中間テスト①② 30%
 期末テスト 70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜教員より資料を配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
SNSやニュース等でプライダルにまつわる話題に興味・関心を持つ。

【必要な時間】
予習・復習時間として毎回、1時間程度。

■その他

フィールドワーク(模擬チャペル挙式参列)は2023年12月の土日を予定しています。
模擬挙式後、ホテルでの昼食代として3,000円前後自己負担があります。

科目名	調理実習(基本)
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義を持ちます。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業はプリントを中心に講義と実習形式で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②調理の基本知識 I
- ③調理手法の基礎知識 I
- ④調理手法の基礎知識 II
- ⑤調理実習 I
- ⑥献立作成の基礎知識
- ⑦献立作成
- ⑧調理実習 II
- ⑨振り返り
- ⑩献立作成
- ⑪調理実習 II
- ⑫振り返り
- ⑬献立作成
- ⑭調理実習 IV
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

調理時に大切な衛生管理を理解すること。調理器具の種類や取り扱い方について理解すること。料理構成や調理手法を学び、献立作成ができるようになることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」「能動的に学び続ける力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

実習記録ノート 50%

小レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください。

【事前事後学習 必要な時間】

各2時間程度

■その他

施設設備、安全確保の観点から履修人数は24名を上限とする。
15回の授業のうち、数回オンデマンド形式で行う可能性があります。

科目名	オフィス総論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

広義のオフィス場面を想定して、顧客に対する心構え、言葉遣い、上司と部下とのコミュニケーションなどの理解を深めます。
企業のサービスの事例をもとに、企業の顧客満足経営とホスピタリティの理解を深め、対人心理や対応の技術を学び、おもてなしの心とかたちを身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

秘書の実務経験のある教員が、上司とのコミュニケーションをはじめ、顧客との対応能力を高めるために、社内と社外のコミュニケーションの理解を深めます。また、企業のサービス事例をもとに、オフィスにおける顧客満足経営とホスピタリティサービスを学び、対人心理や対応技術を身に付けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、秘書の役割と仕事、慣用表現小テストについて
- ②スケジュールリング
- ③会議に出席する、DVD①「コミュニケーションの基本シリーズ」
- ④会社訪問とスケジュール管理
- ⑤日本一の秘書
- ⑥結婚と仕事
- ⑦出張のコーディネート
- ⑧文書の取り扱い
- ⑨会議のコーディネート
- ⑩ホスピタリティとは
- ⑪医療機関におけるホスピタリティ・サービス
- ⑫巣鴨信用金庫のホスピタリティ・サービス
- ⑬サービスは現場で創造される（飲食業）
- ⑭レポートの書き方
- ⑮まとめと試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ビジネス常識やコミュニケーション、情報の活用法など、将来職業人として適応するために必要な知識を身に付けて企業の即戦力となること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

レポート40%
ビジネス文書テスト30%
その他提出物30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「ビジネス実務総論」全国大学実務教育協会
「ハートフル・ビジネスマナー」JTB総合研究所

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、専門用語の意味などをノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	ボランティア
開講期・単位	1年 通年・選択 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子、石田 麻英子

■講義の目的および概要

社会的弱者、障がい者、被災者などボランティア活動を必要としている人々が沢山います。また、北海道を訪れ、滞在する外国人の方々も、異なる言語文化圏で手助けを必要としています。オリンピックなどのボランティアのように、レベル、色々なボランティア活動や慈善事業に取り組んでいます。本講義では、こうした取り組みの実態を様々なケーススタディから学び、理解を深めることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回配布するレジュメや資料、パワーポイント等を用いて、様々な事例を基に学習しながら、ディスカッションやグループワークに取り組みます。また、実際に活動に参加してみて、ボランティアの課題や将来について考察します。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題は、教員がすべて読み、メールで、又は中間報告の際にフィードバックを行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション 私たちとボランティア：ディスカッション
- ② ボランティアとは
- ③ @グループワーク 活動に向けての準備
- ④ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう（オープンキャンパス）
- ⑤ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう（学園祭）
- ⑥ @アクティビティ ボランティア活動を企画してみよう（きよたスイーツ関連）
- ⑦ @アクティビティ ボランティア活動を企画してみよう
- ⑧ 中間報告と問題共有（ここまで春学期予定）
- ⑨ ボランティアの現状
- ⑩ @アクティビティ ボランティア活動を企画してみよう
- ⑪ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう
- ⑫ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう
- ⑬ @グループワーク報告と問題共有
- ⑭ ボランティアとこれからの社会
- ⑮ @グループワークまとめとフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ボランティアの様々な事例を通じて現状や課題を理解し、その内容をまとめ、自身の意見も含めて分かり易く説明することができる。ボランティアをテーマに、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身につけ、グループワークに積極的に取り組むことができる。生涯にわたってボランティア活動に参加するための基礎知識を得る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP3 課題を発見し、解決する力
 DP6 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

個人活動レポート 45%
 ディスカッション、グループワーク、授業ワークシート 25%
 期末レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

新聞インターネットの最新情報、ポラナビ、広報さっぽろ、きよっちニュース

■授業外学習

【具体的な内容】

予習・復習としては、授業内容に関連する文献資料を自分で調べて報告する準備作業と、講義内容を振り返りまとめる作業に取り組んでもらいます。

【必要な時間】

事前調査、準備に1時間、振り返りに1時間程度かかります。

■その他

ボランティアに興味があり、人のためになる活動や社会貢献に意欲的な学生の受講を期待します。授業などで紹介する団体からのボランティア活動情報の他、学内外でのイベントボランティアも活動の一つと認めます。(学内のものだけでは認められません)
感染症の拡大状況によっては授業内容を変更します。

科目名	プレゼンテーション基礎
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

人前で自らの意見を述べ、相手に伝える・説得する…プレゼンテーションは、現代社会では必要不可欠なスキルといえます。ビジネスの場だけでなく、授業内や日常生活においても、相手に「伝える」場面は多々あるものです。本科目では、人前で発表するという慣れのため、数回に渡りプレゼンテーションを実演します。また、他科目の授業でも技術が応用できるよう、意識して授業を進めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

理論的な講義解説と、演習（プレゼンテーション）を組み合わせ、プレゼンテーションに必要なスキルを身につけていきます。

特に、この授業ではコンピュータを使わずに発表することを目的として、人前で話すことに慣れてもらい、また資料を効果的に用いて表現することを学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。

■授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、進度により内容を調整することもあります。

- ① ガイダンス：プレゼンテーションとは何か
- ② 自己表現：名刺の製作
- ③ 【実習Ⅰ】自分を表現する名刺づくり・交換
- ④ 原稿作成：わかりやすい文章、伝わる話し方・聞き方
- ⑤⑥ 【実習Ⅱ】スピーチによるプレゼンテーション
- ⑦ 発表構成：発表のテーマをストーリーにする
- ⑧ 絵コンテ：構成案を具体化する
- ⑨ 原稿作成：非言語コミュニケーション
- ⑩ 表現の仕方：数字、配色、図表表現
- ⑪⑫ 【実習Ⅲ】フリップを活用したプレゼンテーション（収録）
- ⑬⑭ 【実習Ⅳ】ポスターセッション
- ⑮ まとめ：ここまで学んだことの振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① プレゼンテーションを理解し、必要な技術を身につける。
- ② ストーリーを論理的に組み立て、相手を説得するための資料を作成できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%
発表内容 40%（視覚資料・原稿など）
授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じ、プリント等を配布します。
自分自身で管理・保管を行って、作業や課題に活用してください。

【参考文献】

「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019」
編：実教出版企画開発部 実教出版

■授業外学習

プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）に、少なくとも2時間^{023(令和5)}程度（令和5）年4月1日
間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リ
ハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが
難しいので、発表前に個々で準備をしてください。
また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります
。

■その他

毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課
せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。
多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。

科目名	プレゼンテーション応用
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

春学期に学んだプレゼンテーションに関する技術・知識を活用し、また基本的な理論を学ぶことで発表のクオリティを高める、「よりよい実践的プレゼンテーション」を重視して、コミュニケーション力をアップすることを目指します。発表時の振る舞いや、環境・TPOに合わせたプレゼンテーションの実施、そして発表の場をプロデュースすることを目的に授業を進めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

春学期と同様に、講義説明+演習（プレゼンテーション）の組合せです。秋学期では、コンピュータによるスライドショーソフトウェアを利用して資料を作成することや、グループワークを中心に進めます。また、プレゼンテーションだけでなく、発表会の運営なども考えていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。一部の演習では、学外審査員にご協力をお願いする予定です。

■授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、進度により内容・順序を変更することもあります。

- ① ガイダンス：秋学期の目標設定
- ② グループワーク：取材活動（1）
- ③ グループワーク：取材活動（2）・動画の製作（1）
- ④ グループワーク：動画の製作（2）
- ⑤ 【実習Ⅰ】テーマに基づいた取材と動画の作成
- ⑥ 実習Ⅰのフィードバックと実習Ⅱの準備（作業の分担）
- ⑦ グループワーク：テーマからの情報収集、ストーリー構成
- ⑧ グループワーク：説得力のある構成を考える
- ⑨ グループワーク：魅力あるスライドの作成と編集
- ⑩ グループワーク：全体のバランスを考える
- ⑪ グループワーク：リハーサル的重要性
- ⑫ 【実習Ⅱ】「説得型」プレゼンテーションの発表
- ⑬ 実習Ⅲ説明：目的とルールの説明、これまでの実習の振り返り
- ⑭ 【実習Ⅲ】「自撮り」動画の作成と提出
- ⑮ 1年間を振り返る：プレゼンテーションとは

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① プレゼンテーションによる表現、伝達の効果、目的を学び、実践に活かすことができる。
- ② プレゼンテーションの効果的な発表場面を選択し、また自ら創造することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%
 発表内容 40%（視覚資料・原稿など）
 授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じ、プリント等を配布します。
 自分自身で管理・保管を行って、作業や課題に活用してください。

【参考文献】

「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019」
 編：実教出版企画開発部 実教出版

■授業外学習

【具体的な内容・必要な時間】

プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）に、少なくとも2時間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。

また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります。

その他 毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。

■その他

多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。また、授業以外の時間での作業が必要になります。コンピュータ操作に慣れていない人は特にスライドの作成に時間が必要になるでしょう。

科目名	Basic English
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	廣山 メアリー、石田 麻英子

■講義の目的および概要

今まで学習してきたであろう「試験・入試」を目的とした学び方ではなく、「実際に使う、何とか通じる」を目指して、今までと異なる方向性から英語をやり直すための授業です。使う目的で文法を見直し、ゲームやアクティビティを通して実際にどんどん使うことで、定着を図ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

説明、解説の時間も取りますが、基本的にはどんどん声を出し、使ってもらう活動、アクティビティがメインになります。単語は授業で発音練習します。

【課題に対するフィードバックの方法】

アクティビティワークや課題は、個別にチェックフィードバックを行う。

■授業計画

- ① @アクティビティ Let's get started!! 英語授業の紹介、英語が広げる世界の回りのものを英語で言えるようにしよう
- ② @アクティビティ 身の回りのものを英語で言えるようにしよう
- ③ @アクティビティ 感情をこめて話す
- ④ @アクティビティ 感情をこめて話す
- ⑤ @アクティビティ 感情を込めて話す
- ⑥ @アクティビティ 海外旅行に行こう
- ⑦ @アクティビティ 海外旅行に行こう
- ⑧ @アクティビティ ゲームを作ろう
- ⑨ @アクティビティ ゲームを作ろう
- ⑩ @アクティビティ ゲーム実習
- ⑪ @アクティビティ ゲーム実習
- ⑫ @アクティビティ 期末試験の準備
- ⑬ @アクティビティ 期末試験の練習
- ⑭ 期末試験
- ⑮ まとめtのアクティビティ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・基礎的な英文法、特に語順に慣れ、適切な場面で発話できる
- ・ポイントを押さえた正しい発音で、英語を声に出すことに抵抗感をなくす
- ・日常生活における身近な様々な表現を、英語でどういふのかを知り、できる限り覚えて運用できる。
- ・海外に興味を持ち、英語を学んで外に出かけたいというモチベーションを持てる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

Activity実演、Commentとミニクイズ 60%

Final Exam 期末実演試験 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ワークシートを配布、manabaを利用します。

【参考文献】

辞書を使用することもあります。今までに持っているものや、電子辞書、Weblioなどのインターネット辞書でも可能です。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で学んだ単語をできる限り覚えてきてもらう（ゲームやアクティビティのために必要になります）

【必要な時間】

最低でも1時間以上の準備学習が必要になります。

■その他

最も英語が苦手だった人にぜひ履修してもらいたいレベル1の科目です。
声に出し、発音練習なども行います。

科目名	コンピュータ統計
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

■講義の目的および概要

社会に出た後、グラフや表を読み取る力、作成する力は必須となります。そのもととなる数字に着目して、統計資料の読み方や活用方法を通して、北海道の姿を統計資料から概観します。
 私たちが生活する北海道のリアルな数字を読みこなし、社会に貢献するための基礎的な知識を得ることを目的とします。

「数理・AI・データサイエンス」関連科目です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教員からの講義・説明の後、課題にしたがって作業を行います。
 個人で作業するだけでなく、数人のチームによるグループワークをしてもらうこともあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の完成度等について、個別に評価・コメントを行います。
 また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします。

■授業計画

以下のような授業の流れを予定しています。
 進度により、内容・順序を変更することがあります。

- ① ガイダンス：統計とはなにか
- ② 基礎的な統計量を知る①—平均・中央値・最頻値
- ③ 基礎的な統計量を知る②—度数分布とヒストグラム
- ④ Excelで統計資料を操作する—統計に関する関数①
- ⑤ 基礎的な統計量を知る③—標準偏差と変動係数
- ⑥ Excelで統計資料を操作する—統計に関する関数②
- ⑦ 基礎的な統計量を知る④—相関係数
- ⑧ 分析ことはじめ—パレートの法則とABC分析
- ⑨ アンケート調査に必要なこと
- ⑩ アンケート調査票、分析表をつくる
- ⑪ 統計資料から北海道の現状を考えよう
- ⑫ 統計資料をもとに分析をしてみよう
- ⑬ 統計資料から説明のためのスライドを作成しよう
- ⑭⑮ スライドを用いた発表・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① Excelを使用した表やグラフを作成することができる。
- ② 一般に公開されている統計資料を読み、事象を説明することができる。
- ③ 統計資料をもとに、北海道・日本を比較して、発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

以下の配点で総合評価を行います。

課題の提出・内容・宿題 70%
 小テスト・まとめ課題 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は指定せず、プリントを配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

コンピュータを使用して統計の操作を行うので、ブラウザの利用や表計算ソフトはある程度使える状態にしておいてください。
毎回の課題をきちんとこなして提出することが重要です。未提出の課題は採点されませんので、授業後に必ず提出しましょう。

【必要な時間】

授業の復習や宿題の作成のために1時間程度の学習が目安となります。

■その他

科目名	Customer Service English[1年]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	エレナ フォルトゥナート、石田 麻英子

■講義の目的および概要

国際化する社会において、外国人のお客様にとっさに対応できるように、必要な英語を学び、準備をするための科目です。基本的な表現を身につけ、場面や状況に応じて応用できるように、実際に練習を重ね、「職場に一人は欲しい英語を使えるスタッフ」として自信をもって積極的に接客できる人材を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を挟みつつ、演習形式をメインで行います。場面を想定し、自分たちが必要な表現を集め、実際に実演してみるロールプレイ（グループ）を重ね、指導を受けながら自分専用の表現集を完成させてもらいます。自分で作った試験問題で自分をテストしてもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

ロールプレイ後に個別にコメントアドバイスを行う

■授業計画

- 1 オリエンテーション 外国人のお客様 覚えておくこととみていいこと
- 2 聞き取れないと対応できない
- 3 @ロールプレイ 場面の想定 想定されるお問い合わせ洗い出し
- 4 @ロールプレイ パターンの設定と流れの確認
- 5 基本ストーリーの作成と原稿の完成
- 6 実演とフィードバック
- 7 あらかじめ準備しておくこと 楽なこと メニュー、説明書、看板
- 8 あらかじめ準備しておくこと 楽なこと 販促POP チラシ
- 9 @アクティビティ 場面別 POPや説明書き、メニュー等の作成
- 10 私の職場で使う表現
- 11 ツールの作成と単語帳の完成
- 12 テスト問題を作ってみよう ストーリーの設定
- 13 @ロールプレイ あったら便利、自分専用マニュアル完成に向けて
- 14 実演試験と筆記試験
- 15 フィードバックとマニュアルの完成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

職場に外国人の方が来た時にうろたえず対応できる準備をする。
自分が仕事をするフィールドにおいてよく使われる表現を確認し、すぐに使えるように準備をしておく。自分専用のマニュアルを作る

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力
DP5 能動的に学び続ける力
DP6 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

フィードバックフォーム 30%
積み上げ式期末課題（自分マニュアル）40%
実演 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】みんなの接客英語 広瀬直子 アルク出版

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。

【必要な時間】

予習復習合わせて、最低でも1時間はかかります

■その他

何より、英語を「声に出す事」に慣れていてください。メモを見ながらでも、熱心に伝えることが重要です。覚えて使う、メモを見ながら使うことがメインになります；

科目名	Food & English
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	廣山 メアリー、石田 麻英子

■講義の目的および概要

私たちにとって最も身近な素材、「食」を通じて、英語の表現を学び、運用能力を高める授業です。日常生活で使うもの、感じることに関する表現を覚え、使えるようにします。北海道観光に来る旅行者にとっても海外旅行に出かけるときも、食は最も大きな魅力の一つです。簡単な英語で、食に関するやり取りができるように学びましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を挟みつつ演習形式メインで行います。五感を通じて覚え、使ってみることで表現を定着させていく活動が多いでしょう。英語でレシピを書いたり読んだりもします。(実演もします)英語を声に出すことが多い授業です。実食、実演も行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

基本的にアクティビティメインで行います。

■授業計画

- ① オリエンテーション World Food
- ② レシピ1のための単語学習
- ③ レシピ1 デモンストレーション
- ④ レシピ2のための単語練習
- ⑤ レシピ2 デモンストレーション
- ⑥ 単語の復習と使える表現
- ⑦ レシピ3のための単語学習
- ⑧ レシピ3 デモンストレーション
- ⑨ レシピ4のための単語学習
- ⑩ レシピ4でモンストレーション
- ⑪ 単語の復習と使える表現
- ⑫ My Favorite Food 準備
- ⑬ My Favorite Food 準備
- ⑭ My Favorite Food 発表
- ⑮ Food & Communication まとめトフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

英語で簡単な料理のレシピ紹介ができる。
味や食感、食べ物に関する英語表現をできるだけたくさん覚えて使えるようにする。
英語で書かれたレシピを読み、料理ができるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

Cooking Book 30%
小テスト20%
デモンストレーション、プレゼンテーション50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありませんが、メモ用の用紙とCooking Bookをお配りします。最終的に自分用のマニュアルとして機能させるため保存しておくべき授業資料はすべて、メモ帳に転記して保存することをお勧めします。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。単語や表現を覚えることは、皆さん自身にしかできません。日常から目にするもの、感覚することを、英語で思い出せるようにしましょう。また、これを何とこのか知りたい、という項目を探し出しておくことも、立派な授業外学習です

【必要な時間】

。1時間以上の時間が必要になります

■その他

文法は中学レベルのものしか使いませんが、内容でいうとレベル2の科目になります。2023(令和5)年4月1日
ので、Basic EnglishまたはEnglish Iの科目を履修後受講するのが望ましいです。

科目名	業界知識
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小林 純、竹島 鉄也

■講義の目的および概要

本講義では、将来の就業に備えて社会には様々な業界、会社があることを理解し、その役割、規模別・運営形態別の仕組みや特徴を学びます。その上で、情報収集の仕方、志望する業界・会社で求められているスキルについてもわかりやすく解説し、社会人になるために準備すべき企業の知識を理解できるようにします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

会社の仕組みを理解するとともに、業界別に会社研究を行ないます。また、会社説明会へも参加して、自分に合った業界や職種を絞り込んでいきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、フィードバックについても授業内で直接行います。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 会社の仕組み（会社とは何か、制度）
- ③ 会社の仕組み（業種と職種の違い）
- ④ 職種研究
- ⑤ 人事担当者の講話（1）
- ⑥ 業界・会社研究（小売・卸売）
- ⑦ 業界・会社研究（食品・製造）
- ⑧ 業界・会社研究（医療・建設）
- ⑨ 業界・会社研究（金融・保険）
- ⑩ 業界・会社研究（サービス業）
- ⑪ 人事担当者の講話（2）
- ⑫ 業界・会社研究（観光）
- ⑬ 業界・会社研究（フライダル・アパレル）
- ⑭ 業界・会社研究（化粧品）
- ⑮ 試験とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 業界分析のための情報を収集し、その情報をまとめることができる。
- ② 自ら調べ、まとめたものをわかりやすく伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 期末レポート 40%
 授業内提出物 30%
 講話の感想 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ガイドブックなど適宜関連資料は配布します。

【参考文献】『北海道の業界地図』北海道新聞社
 就職ウォーカー、北海道就職ハンドブック

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時に取り上げた業界については、復習として新聞、インターネットなどで情報を得ておいてください。また、授業で指示した課題については、提出締切後の授業開始時に発表内容の準備が整っているようにしておいてください。

【必要な時間】

課題の回答、次回授業の準備などで1-2時間の学習時間が目安となります。

■その他

科目名	簿記入門
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

■講義の目的および概要

本授業では、秋学期の簿記演習と連動して、日本商工会議所が実施する「日商簿記検定3級」取得レベルの簿記会計に関する知識を習得することを目標とします。受講後、検定試験の過去問題等を解くことで検定試験の合格を目指します。企業実務において、業界や職種を問わず役に立つ簿記や会計に関する基本的な知識を身につけるとともに、資格の取得により企業経理や会計はもとより実社会で活躍するための実力をつけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

授業はテキストを用いて講義形式で複式簿記の原理と基礎知識を学び（インプット）、問題演習（アウトプット）により、学習内容の理解度と知識の定着を図ります。扱う範囲は、小規模な株式会社の活動で、経理事務職の基本的な知識と技術を身に付け、将来の就職活動にも生かします。また、知識の理解度と定着度を確認するために、適宜小テスト等の実施およびZOOMによる遠隔授業を実施することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

■授業計画

授業は概ね以下のとおりに実施しますが、内容によって順序が入れ替わることがあります。

- ①オリエンテーション：簿記の基礎、簿記の目的、簿記の基本用語など
- ②電卓の使い方と操作方法：電卓の機能、運指方法、速度と正確性
- ③商品売買Ⅰ（仕入、売上、掛取引、クレジット売上、商品券）
- ④商品売買Ⅱ（返品、諸掛り、前払金と前受金、消費税、証ひょうの読取り）
- ⑤現金と預金（簿記上の現金、現金過不足、普通預金と当座預金、当座借越、小口現金、証ひょうの読取り）
- ⑥手形と電子記録債権（債務）、貸付と借入、仮払と仮受、立替金と給料の支払
- ⑦貸倒れと貸倒引当金
- ⑧有形固定資産と減価償却
- ⑨株式の発行と増資、その他の取引（収益と費用他）
- ⑩帳簿の記入Ⅰ（仕訳帳と総勘定元帳、現金出納帳と当座預金出納帳、小口現金出納帳）
- ⑪帳簿の記入Ⅱ（仕入帳と売上帳、売掛金元帳と買掛金元帳）
- ⑫伝票制度（伝票の起票、仕訳日計表、元帳への転記）
- ⑬試算表の作成
- ⑭仕訳総合演習
- ⑮授業内考査、振り返り、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①簿記の意義や役割を理解し、適正な会計処理を行うための基本的な知識と技術を習得する。
- ②複式簿記の特徴である「貸借平均の原理」に基づいて、さまざまな取引を記帳できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ① 定期試験 60%
- ② 提出物 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『イメージで攻略 わかる！受かる!!日商簿記3級』株式会社マイナビ出版 滝澤ななみ著

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：次回の授業で行う内容をテキストで確認し、あらかじめ課題となることや簿記に関する用語の意味でわからないところをはっきりさせて授業に臨みましょう。
事後学習：テキスト及び授業で配布された資料等をよく読み返し、必ず復習（問題演習）を行って学習事項の定着を図ること。

【必要な時間】

事前学習、事後学習にそれぞれ1～2時間を目安とします。

■その他

- ※1 この講座の履修にあたって、簿記入門<1>は初めて簿記を学ぶ学生を対象とします。
- ※2 簿記入門<2>は、高校時代に簿記検定（全商・全経）をすでに取得している学生を対象とした講義内容とします。（日商簿記3級受験レベル）

科目名	簿記演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

■講義の目的および概要

本授業では、「日商簿記検定3級」もしくは「全経簿記3級」の検定取得に向けて、検定試験の対策問題を解いて実力養成を図ります。問題演習を行う中で、要点解説や問題の考え方を理解し、簿記検定3級合格のための実力をつけることを目的としています。資格取得を目指した学修をとおして、株式会社会計に関する基本的な知識を習得し、実社会で役立つ会計処理能力を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は、購入した問題集および配布資料に基づき、日商簿記検定3級もしくは全経簿記3級レベルの問題の解き方の解説を行う演習形式にて実施します。問題演習の繰り返しにより、習得した知識の理解と定着を確認しながら授業を展開します。また、授業内容によっては、授業効果を考えてZOOMによる遠隔授業を実施することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するものと、必要に応じて適宜資料を配付します。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施しますが、講義内容の対象となる検定試験によって講義内容を入れ替えることがあります。

- ① オリエンテーション：授業概要の説明、出題傾向の分析、簿記の記帳手順の確認
- ② 仕訳総合演習 その1
- ③ 仕訳総合演習 その2
- ④ 各種帳簿の記帳演習：仕入帳・売上帳、商品有高帳、売掛金・買掛金元帳
- ⑤ 伝票の起票と集計、簿記用語のまとめ
- ⑥ 決算整理事項の確認
(未処理事項の整理、売上原価、貸倒、減価償却、収益・費用の加減処理)
- ⑦ 精算表の作成演習 その1
- ⑧ 精算表の作成演習 その2
- ⑨ 決算整理後試算表の作成演習と英米式決算法
- ⑩ 貸借対照表と損益計算書の作成演習 その1
- ⑪ 貸借対照表と損益計算書の作成演習 その2
- ⑫ 総合問題演習 その1
- ⑬ 総合問題演習 その2
- ⑭ 総合問題演習 その3
- ⑮ 授業内考査、解答と振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①小規模な株式会社の企業活動や会計実務を踏まえて、会計処理で必要となる基礎知識と記帳技術を習得する。

②日商簿記検定3級および全経簿記検定3級レベルに必要な知識、計算等を理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ① 定期試験 60%
- ② 提出物・検定取得状況 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

※ テキストの購入については、講義で指示を受けてから購入してください。

『日商簿記3級 だれでも解ける過去問題集』桑原 知之 著（ネットスクール出版）もしくは

『全経 過去問題シリーズ 簿記能力検定試験』 全国経理教育協会

【参考文献】

適宜、関連資料を配付します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：資料の事前配布がある場合には、しっかりと目を通し、内容を理解した上で、授業に臨んでください。

事後学習：授業で学んだ内容を反復練習して、考え方や仕組みをしっかりと理解し、知識の定着を図ってください。

【必要な時間】

1～2時間程度 ※自分の理解度や定着度に応じて、学修時間は変化します。

■その他

(参考) 日本商工会議所 簿記検定3級(ネット試験方式) 受験料2,850円
全国経理教育協会 簿記検定3級 受験料2,000円

※1 この科目を履修する条件として、簿記入門(短大)を修得している学生を対象とします。

※2 講義内容については、上記のとおり検定の受験対策を行いますので、基本的な内容を取り扱うような講義は行わず、検定の過去問題で演習して検定合格のための実力を身につけます。

※3 講義内容のレベルは、簿記演習<1>が全経簿記3級、簿記演習<2>が日商簿記3級を目指す内容で講義を行います。特に、日商簿記3級を目指すクラスでは日商簿記2級の内容を取り扱うこともあります。

※4 履修にあたっては、原則としてそれぞれの検定受験を必須とします。

※5 希望により、検定受験を授業内考査に換えることができる。(授業ガイダンスで説明)

科目名	食品と栄養
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

私たちは食物を摂取することにより、生命・健康を維持し、活力を生み出し、嗜好を充足させています。本講義では、健康的な食生活の実現に向けて、栄養素の働きと特徴を正しく理解し、各種食品の特性や食の嗜好性など、食品と栄養に関する基礎的な知識の習得を目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
授業は提示したスライドを中心に講義形式で行います。

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答、提出された小レポート、課題等については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション 健康・栄養と栄養素
- ②エネルギー・代謝
- ③3大栄養素
- ④5大栄養素
- ⑤食生活と病気
- ⑥運動と休養
- ⑦おいしさを感じる条件（味覚・嗅覚・食欲）・食事自己評価
- ⑧スローフード・フードマイレージ・食事他者評価
- ⑨食品の働き・分類
- ⑩まとめ 中間試験
- ⑪バランスの取れた食事・食品群-穀類-
- ⑫食品群-野菜類-
- ⑬食品群-肉類-
- ⑭食べ物の比較
- ⑮まとめ・期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
健康に留意した食生活を実現するための基本知識として食品と栄養に関する知識を習得すること、健康の保持増進に必要な栄養素の働きについて理解することを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

中間試験・期末試験：55%
小テスト：15%
提出物（小レポート等）：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
食生活アドバイザー検定を受験する学生は「食生活アドバイザー検定」のテキスト購入を推奨します。

【参考文献】
授業内で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
今回の授業内容について、キーワードを提示するので、調べてノートにまとめてきてください。毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容について小テストを行います。必ず前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べてきてください。

【必要な時間】
各2時間

■その他

15回の授業のうち、数回オンデマンド形式で行う可能性があります。

科目名	英語検定 I
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	石田 麻英子

■講義の目的および概要

実用英語技能検定などの資格取得を目指す。同時に、英語の語彙、文法、会話表現、リーディング、リスニング、英作文などの総合的な運用能力の伸長を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

中学～高校までの英語で学習した内容を実際の検定試験で問われる形式の中で、文法、リーディング、リスニング、英作文を総合的に演習形式で学ぶ。適宜、目指す級の過去問などでの演習も行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

単語課題は授業外で個別練習したものを小テストで確認する。作文課題はフィードバックを記入して返却する。manabaを利用する

■授業計画

- ①オリエンテーション 英語の検定とレベル、計画
- ②オンデマンドMIX 単語の学習について、無料で使える教材の活用
- ③オンデマンドMIX リスニング力をつけよう 1 基礎文法の振り返り 1、作文
- ④リスニング力をつけようオンデマンドMIX 基礎文法の振り返り 2 と作文
- ⑤リスニング力をつけようオンデマンドMIX 基礎文法の振り返り 3 と作文
- ⑥オンデマンド 本番タイプの練習
- ⑦オンデマンド 本番タイプの練習
- ⑧対面中間試験
- ⑨オンデマンド中間試験振り返り
- ⑩オンデマンドMIX 弱点の克服
- ⑪オンデマンドMIX 弱点の克服
- ⑫オンデマンドMIX 面接型試験 1
- ⑬オンデマンドMIX 面接型試験 2
- ⑭対面試験 (期末)
- ⑮オンデマンド まとめとフィードバック

主にオンデマンド形式を用い、受験級に合わせた指導を行います。
オンデマンドは動画の視聴だけではなく、課題を終えて初めて出席となります。
たくさん練習し、試験までに力をつけましょう。
教室で直接指導を受けることも可能です。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現在の実力、取得級よりも一つ上位級を取得する力を身に付ける (英検)
* 希望者はTOEIC Bridge、TOEICを目指す

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

中間テスト 40%、
提出物 作文練習、リスニング課題、文法練習など40%
期末テスト15%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布し、manabaを活用します

【参考文献】

高校までで使った文法書、単語帳など

■授業外学習

【具体的な内容】

学習分の定着を図るための、復習、あらかじめ問題を解いておくなどの予習で1時間程度は必要です。manaba主に使います

【必要な時間】

1時間程度行ってもらいます

■その他

TOEIC 7月実施分まで TOEIC Bridge 5月21日

2023(令和5)年4月1日

英検 6月4日 (5月1日締め切り、2次7月9日)

科目名	英語検定Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	石田 麻英子、竹内 康二

■講義の目的および概要

実用英語技能検定の資格取得を目指しながら、英語の語彙、文法、会話表現、リーディング、リスニングなどの総合的な運用能力の伸長を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

現在取得している英検の級により、レベル別にクラスを分けて行う。語彙、文法、作文、リーディング、リスニングを総合的に演習形式で学ぶ。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は教員から個別にフィードバックとアドバイスを行う。
単語の課題は毎回チェックがある

■授業計画

1. オリエンテーション 目標の確認
2. 必須英単語熟語① リスニング①
3. 必須英単語熟語② 長文読解① リスニング② 作文
4. 必須英単語熟語③ 長文読解② リスニング③ 作文
5. 必須文法① 長文穴埋め① リスニング④ 作文
6. 必須英単語熟語④ 長文穴埋め② リスニング⑤ 作文
7. 必須英単語熟語⑤ 長文穴埋め③ リスニング⑥ 作文
8. 中間試験
9. 必須英単語熟語⑥ リスニング⑦
10. 必須英単語熟語⑦ 長文読解③ リスニング⑧ 作文
11. 必須英単語熟語⑧ 長文読解④ リスニング⑨ 作文
12. 必須英単語熟語⑨ 長文読解⑤ リスニング⑩ 作文
13. 文法総復習と直前対策
14. 期末試験
15. まとめとフィードバック、2次試験に向けて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

英検の現在の取得級よりも一つ上位級を取得すること。
未受験の場合は、プレACEMENTテストをします。
英検2級取得後はTOEIC Bridge、TOEICの学習に移行します（目標150点/450点）

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

定期テスト 40%、中間テスト20%、
提出物・小テスト30%
(希望により、実用英語技能検定またはTOEIC Bridge、TOEICを中間テスト、期末テストに換えることができる場合がある。)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

受験級ごとに授業で指示があります

【参考文献】

受験級ごとに授業で指示があります

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。定期的にまとめて試験問題に取り組み、課題を整理して学習することが必要です。「単語は自己責任！」覚えることは自分にはかできません。リスニングのトレーニングなども含めて授業外学習が必要です。

【必要な時間】

最低でも1時間程度はかかります。

■その他

英検 10月8日(締め切り9月8日 11月12日2次)
1月21日(締め切り12月14日 2次2月25日)
TOEIC 10月29日、11月19日、12月10日、1月28日、2月25日
Bridge 10月1日、

科目名	色彩演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	恩村 比呂子

■講義の目的および概要

文部科学省後援 色彩検定3級合格をめざします。
色のはたらきを理解し、目的をもった配色ができるように学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

検定受験日までの前半は色彩検定3級テキストを使用し講義形式で授業を行います。
検定受験日以降は色彩理論に基づいた配色イメージ演習を行い色彩感覚の向上をめざします。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回講義後にresponを利用して講義内容のまとめを提出してもらいます。
課題については授業内で解説を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス/色彩検定3級について/色のはたらき/光と色
- ②色の表示
- ③色彩心理
- ④色彩調和
- ⑤ファッションと色彩/インテリアと色彩
- ⑥色彩検定解説/色相環演習（課題提出）
- ⑦イメージ配色①（課題提出）
- ⑧イメージ配色②（課題提出）
- ⑨イメージ配色③（課題提出）
- ⑩イメージカラーージュ①（課題提出）
- ⑪イメージカラーージュ②（課題提出）
- ⑫イメージカラーージュ③（課題提出）
- ⑬イメージ表現①（作品提出）
- ⑭イメージ表現②（作品提出）
- ⑮作品発表と講評、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

色彩検定3級の知識を修得し検定に合格する
配色の基本を理解し、意図するイメージ表現が的確にできるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

検定への取り組み：30%
課題提出：30%
作品提出：30%
講義のまとめresponを提出：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「文部科学省後援 色彩検定公式テキスト3級編」2420円（税込み）

「新配色カード199a」935円（税込み）

【参考文献】

「色彩検定過去問題集」

■授業外学習

【具体的な内容】

検定対策用のプリントは授業内で配布しますが、それ以外に各自ノートを用意しテキスト内容をまとめてください。限られた授業回数で合格をめざすので予習復習が重要です。

【必要な時間】

とくに検定日までは予習復習にそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

2023年度冬期色彩検定は11月12日に実施します。秋学期初回講義内で受験申込み用紙に記入してもらい回収します。検定料6000円（税込み）の支払いは数日猶予がありますがあらかじめ用意しておいてください。また、第1回目からテキストを使用して講義するため可能な限り初回までに購入しておいてください。

科目名	医薬・販売
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	時野 香里

■講義の目的および概要

平均寿命が長くなり生活習慣病などが問題となってきた現代、日々をいかに健康に生きるかが問われ「自分自身の健康に責任を持ち軽度の身体の不調は自分で手当てしていこう」と言うセルフメディケーションの意識が高まっている。このような時代の中で注目されるのが登録販売者である。登録販売者はドラッグストアやコンビニエンスストアなどで薬剤師が不在でも一般用医薬品（第2類・3類）の販売ができる専門家のことである。本講義では一般医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律などを学ぶことによりセルフメディケーションの理解を深める。また、薬の副作用が起きた場合の専門家としての義務、国からの保障などの仕組みについても学ぶ。これらの知識は登録販売者資格試験の試験範囲を網羅するものとなっている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

スライドを用いた講義形式で行う。教科書のほか、要点をまとめたプリントを配布するので講義を聞きながらプリントを埋めていくことで授業内容の定着を図る。スマートフォン教材や実際の医薬品を用いる場合、現職薬剤師として実務経験のある教員が、実際に接客するような形で能動的な学習も行う予定である。単元ごとのまとめとして確認チェック問題を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

学習した内容の過去問題を課題とする。次回の授業までに解答、自己採点したものを提出してもらい、次回講義内で疑問点について解説を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に課題が提示され、次の授業で課題の正答を示す。自己採点をし全体解説を聞き必要に応じてテキストチェックを行う。課題は全単元において行われ学びの定着を図る。

■授業計画

- ①オリエンテーション・医薬品に共通する特性と基本的な知識①
- ②医薬品に共通する特性と基本的な知識②
- ③医薬品に共通する特性と基本的な知識③とここまでの確認テスト
- ④人体の構造と働き①
- ⑤人体の構造と働き②
- ⑥人体の構造と働き③
- ⑦人体の構造と働き④とここまでの確認テスト
- ⑧医薬品の適正使用安全対策①
- ⑨医薬品の適正使用安全対策②
- ⑩医薬品の適正使用安全対策③
- ⑪医薬品の適正使用安全対策④とここまでの確認テスト
- ⑫主な医薬品とその作用①
- ⑬主な医薬品とその作用②
- ⑭薬事関係法規、制度①
- ⑮薬事関係法規、制度②とここまでの確認テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①セルフメディケーションについて説明できる、登録販売者資格試験にも対応できる知識(医薬品に共通する特性と基本的な知識、人体の構造と働き、医薬品の適正使用安全対策、一般用医薬品の成分や薬効、薬事関連法規)の知識を見につけることができる。②希望者は登録販売者試験を受験し合格を目指すようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して病気や薬についての正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。この結果、登録販売者を目指し病院薬局やドラッグストアなどの医療の現場で活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

講義内確認テスト40%
課題提出物等60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
登録販売者試験テキスト&要点整理(薬事日報社)改
【参考文献】
厚生労働省(登録販売者試験問題作成に関する手引き)

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習は分野によっては初めて聞く用語なども多いと思うので事前にわからない単語などを調べておくことが望ましい。
事後学習は暗記することが多いので出された課題に取り組み、必要に応じて医薬品成分単語帳やまとめを作るようにする。時間の許す限り予習復習を行うことが望ましい。

【必要な時間】
個人差があるが予習・復習合わせて1時間は必要と考える。

■その他

登録販売者演習を受講予定の学生はこの講義とセットで受講することをお勧めする。
受験可能な検定・試験
薬学検定
登録販売者試験

必要に応じて遠隔もしくはオンデマンドの講義を行う可能性もある。

科目名	メディカル秘書実務
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	時野 香里

■講義の目的および概要

診察を控え不安な患者様に対して、安心して診察や治療を行えるようにサポートするための知識を身につける。病院などの医療機関組織の仕組みやそこで働く人たちの業務、医療に関する専門用語について学ぶ。患者様に寄り添うスキルとして接客対応、電話対応などのマナー、それに加え簡単な手話や英会話を学習する。また一般業務として院内や院外に向けての文書作成、様々な疾病、臨床検査項目、医療に関する法律、保険制度や薬の知識、などを学ぶ。保険制度や薬の知識から調剤報酬についても触れる。調剤薬局での業務についても解説する。これらにより医療秘書に必要な事柄を理解し専門的な知識を得ることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配布プリントとスライドを用いた講義形式で授業を行う。患者様に寄り添うためのスキルを学ぶ際には実際に接客などを行なってもらう参加型の授業を行う予定である。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に復習問題を行う。講義内で解答解説を行うので採点を行い間違い箇所をチェックし、学習の定着を目指す。

■授業計画

- ①オリエンテーションと日本の医学の歩み 貢献した人物
- ②医療機関とは
- ③病院で働く人 コメディカル、チーム医療とは
- ④医療秘書として必要な接遇対応① 病院、調剤薬局の受付
- ⑤医療秘書として必要な接遇対応② 電話接遇
- ⑥医療現場の専門用語、患者心理
- ⑦調剤薬局事務について 処方箋の読み方 薬袋の書き方など
- ⑧調剤薬局事務について 調剤薬局の間診票について
- ⑨日本人の死因について医療秘書として必要な接遇対応③ 手話②
- ⑩医療秘書として必要な接遇対応③ 手話①
- ⑪医療秘書として必要な接遇対応④ 手話②
- ⑫医療秘書として必要な接遇対応④ 英語で対応①
- ⑬医療秘書として必要な接遇対応④ 英語で対応②
- ⑭治験業務CRCとは 医薬品の知識、薬学の歴史
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

医療秘書の立場から医療機関の仕組み、業務、接遇、疾病や薬、関係法規をなどの幅広い知識を学習し理解すること。それらの知識を生かし、患者様に対して、不安を取り除き安心して診察や治療を行えるようにサポートする技術を身につけることを目標とする。また実務演習を行うことでいくつかの指示に対して最優先事項を判断し現場で生かせる力を身につけることを目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して医療機関のしくみや疾患、医療秘書として必要な接遇対応についての正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。この結果、医療機関において実務だけではなく患者様に寄り添うことのできる能力をもつ職業人を養成する。

■成績評価基準と方法

課題提出物等60%
講義内小テスト・実務演習など40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
講義内配布プリント

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

その日の講義で習ったこと に関して課題を出すので、復習を行い提出期限内に提出すること。

【必要な時間】

最低1時間は行う。

■その他

必要に応じて遠隔もしくはオンデマンドの講義を行う可能性もある。

科目名	言葉の力基礎
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	東谷 一彦

■講義の目的および概要

大学での全ての学び、活動の基本であり、社会に出る上で最も重要な力である「日本語力」を高める授業。語彙力をつけ、読み、聞きとり、理解する読解能力、わかりやすく伝える基礎的知識技術を身につけ、総合的に日本語力を高めることを目的とする。社会人にふさわしい日本語を正しく読み、書き、話し、聞けるように漢字や句読法についても学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義、演習形式を併用して授業を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題に対しては授業で総合的なフィードバックを行う。漢字、語彙、文法の小テストの解答・解説は授業で行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション・模擬試験(1)
- ②模擬試験の振り返り・「適切な日本語」について
- ③漢字・表記について(部首・音訓・熟語)
- ④漢字・表記について(仮名遣い・送り仮名)
- ⑤語彙・言葉の意味について(類義語・対義語)
- ⑥語彙・言葉の意味について(コロケーション)
- ⑦文法について(品詞・活用の種類)
- ⑧文法について(ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉)
- ⑨文法について(文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文1)
- ⑩文法について(文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文2)
- ⑪文法について(接続語・指示語と文章)
- ⑫語彙・言葉の意味について(動詞の自他の視点)
- ⑬語彙・言葉の意味について(文体、話し言葉・書き言葉1)
- ⑭語彙・言葉の意味について(文体、話し言葉・書き言葉2)
- ⑮まとめ・テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

様々な表現を理解しそれに対して自らの意見や感想をわかりやすく述べられる。漢字、語彙を豊かにし、表現に生かせる。日本語検定3級程度を目指す。場面、目的に沿った表現を選べるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

提出物(ワークシート、リアクションペーパーなど) 50%
小テスト10%
期末テスト40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『スキルアップ日本語力 大学生のための日本語練習帳』(東京書籍)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

小テストは必ず事前学習し、できなかったところは復習すること。
テキストの予習や復習も毎回行うこと。

【必要な時間】

予習・復習ともに1時間程度。

■その他

科目名	言葉の力応用
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担当者	東谷 一彦

■講義の目的および概要

春学期で修得した、短期大学での諸学習に必要なコミュニケーションにかかせない日本語の基礎能力を、「深く考える力」「文字で表現する力」に発展させる。正しく理解し、わかりやすく表現する活動を繰り返し行い、社会人にふさわしい言葉づかいで、論理的に書く、話すことができるように学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習科目であるが、適宜、講義と演習を併用して行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対しては授業で総合的なフィードバックを行うとともに、個別にフィードバックも行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション・模擬試験(2)
- ②模擬試験の振り返り・敬語について(敬語の種類と使い分け1)
- ③敬語について(敬語の種類と使い分け2)
- ④敬語について(注意すべき敬語1)
- ⑤敬語について(注意すべき敬語2)
- ⑥敬語について(配慮を示す言葉1)
- ⑦敬語について(配慮を示す言葉2)
- ⑧総合問題1
- ⑨総合問題2
- ⑩過去問題1
- ⑪過去問題2
- ⑫模擬問題(テスト)
- ⑬模擬問題(テスト)の振り返り
- ⑭重要語句の確認テスト
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

大学生にふさわしい言葉で、論理的でわかりやすい文章を書けるようになる。課題を解決に導くための考え方を学び、それを適切に表現できるようになる。
日本語検定3級程度の語彙、言語運用能力、読解能力をつける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

提出物(ワークシート、リアクションペーパーなど) 40%
小テスト20%
テスト40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『スキルアップ日本語力 大学生のための日本語練習帳』(東京書籍)

【参考文献】

日本語検定公式3級過去問題集

■授業外学習

【具体的な内容】

小テストは必ず事前学習し、できなかったところは復習すること。
テキストの予習や復習も毎回行うこと。

【必要な時間】

予習・復習ともに1時間程度。

■その他

期末に日本語検定3級公式模擬試験の受験料1900円がかかります。

科目名	現代生活と社会
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石川 智寛

■講義の目的および概要

将来の豊かな生活を作り上げるために、現代社会の現状と問題と向き合い、その解決方法についての必要な知識を身につける。

特に変化の激しい現代社会において、自立した生活に必要な知識（ライフサイクル、働き方とワークバランス、家計など）をもとに、自らの将来をデザインすることを目指す。

また、DXと呼ばれる社会のデジタル化が進む中で、考えるべき「情報倫理」について、過去の事例や実際に起こっている変化をもとに、自らのかわり方を考える。
【「数理・AI・データサイエンス」対応授業】

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で、説明→課題の実施→解答・振り返りを繰り返しながら進める。
課題によってはグループで考える形式や、ディスカッションを用いる。

【課題に対するフィードバックの方法】

個別に返却すると同時に、授業の冒頭において全体への説明を行う。

■授業計画

この授業は、授業の前半・後半でSectionが入れ替わります。

①ガイダンス

Section1 ライフデザインを考える

- ②③ 成人としての常識とは？
- ④⑤ ライフプランの要素
- ⑥⑦ 自立のためのファイナンス その1（収入と支出）
- ⑧⑨ 自立のためのファイナンス その2（リスクへの備え）
- ⑩⑪ ワークライフバランス
- ⑫⑬ ライフデザイン シュミレーション
- ⑭⑮ まとめ・テスト

Section2 情報倫理とDX

- ②③ 情報倫理とはなにか
- ④⑤ ネットワーク社会
- ⑥⑦ メディアとの関わり
- ⑧⑨ セキュリティ
- ⑩⑪ 個人情報とプライバシー
- ⑫⑬ 知的財産権
- ⑭⑮ まとめ・テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①人生設計にかかわる現代社会の特徴や要素について、基礎的な知識を身につける。
- ②自己を取り巻く社会や環境との関連について、共生と自立を目指した心豊かな生活設計の礎を築く。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

この授業は定期試験を行わない。
単元ごとの小テストや、毎回の課題提出で成績を評価する。

各Sectionにて50%
Sectionごとに15%をまとめて充て、提出物等に35%を配分する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「大学生のための人生とお金の知恵」金融広報中央委員会
「家計夢ノート」金融広報中央委員会
「学生生活マネー&キャリア お役立ちハンドブック！」日本FP協会

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

大学生の生活や、情報社会を扱った書籍は多数存在する。図書館や書店等で、各自で探すことを推奨する。

【必要な時間】

宿題や課題の完成のために1時間程度の学習が目安となる。

■その他

科目名	English I
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	デントン ルーカス、石田 麻英子

■講義の目的および概要

文法指導以外はほぼ英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。
Except for the complicated grammar instruction, this class will be in English and focus on developing the student's conversational skills. During lessons, students will learn new vocabulary and use the new words in role plays, short descriptions of daily routines, s, and other conversational activities.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ロールプレイ、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけ、1スピーキング、2リーディング、3リスニングのアクティビティを行う。意欲的に参加することが求められる。

Method: This course will require students to actively communicate with each other during group discussions and pair dialogues. They will also perform role plays of common daily events. In each lesson there will be specific vocabulary to learn and practice through 1) speaking 2) reading 3) listening activities. Students are expected to actively participate in all aspects of the class.

【課題に対するフィードバックの方法】

教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。

Feedback: The instructor will provide constant (general and specific) feedback during lessons and all aspects of the developing activities.

■授業計画

1. Class overview(Unit zero)
2. Asking/Giving personal information Asking about classmates (Unit 1)
3. Following instructions Giving commands (imperatives) (Unit 2)
4. Review
5. Mini-test: Units 1 & 2 + fluency expansion
6. Personal item vocabulary (Unit 3)
7. Asking about existence/prepositions of location (Unit 3)
8. Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4)
9. Review
10. Mini-test: Units 4 & 5 + fluency expansion
11. Family relationship vocabulary Describing one's family (Unit 5)
12. Describing clothing/shopping (Unit 6)
13. Talking about clothing preferences. (Unit 6)
14. Review, mini-test: Units 5 & 6 + fluency expansion
15. Final exam (Unit1-6)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】 Course objectives

- 1) Learning new vocabulary and using it during daily conversational activities.
- 2) Developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English.
 1. 新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする
 2. 意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

Final Exam: 30% 期末30% Unit Test: 20% 小テスト20%
Class Activities (discussions, role-plays, etc): 20%
授業内実演 (ディスカッション、ロールプレイなど) 20%
Homework: 30% 課題宿題30%

■テキスト・参考文献

入手方法は授業で指示します。English 2 も同じ教科書を使います。

■授業外学習

【具体的な内容】 What to do: Students should do the readings and exercises about the material given in class. Review vocabulary learned and use it to prepare for conversations and activities in class.

テキストを読み、授業で指示、配布された練習を行うこと。語いを復習し、授業での会話やアクティビティで使えるようにしておくこと

【必要な時間】 Approximate time:1-2 hours per week 約1-2時間

■その他

It is important that students learn the vocabulary given in every class and prepare to use it during class activities

毎時間覚える語いを学習し、授業で使える準備をすることが大事です。

科目名	English II
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	デントン ルーカス、石田 麻英子

■講義の目的および概要

全て英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。

This class will be held entirely in English and will focus on enhancing and expanding the student's conversational skills and abilities. During the classes, students will learn new vocabulary and expressions, use the new structures in role plays, descriptions of daily routines, discussions and other conversational activities.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ロールプレイやスピーチを録音し、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけ、1スピーキング、2リーディング、3リスニングのアクティビティを行う。意欲的に参加することが求められる。日本人教員とネイティブ教員のTeam Teachingとなる。

This course requires that students actively communicate among each other during pair and group discussions. They will also be required to perform role plays and record speeches. In each lesson there will be specific structures (vocabulary and grammar) to learn and practice through 1) speaking, 2) reading, 3) listening activities. Students are expected to actively participate in all aspects of the class. This class is team-taught by a Japanese teacher and a native speaker teacher.

【課題に対するフィードバックの方法】

教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。

The instructor will provide constant (general and specific) feedback during the lessons for all aspects of the developed activities by e-mails and in the lessons.

■授業計画

- Talking about frequency (Unit 7)
- Talking about weekend activities (Unit 7)
- Food/asking about availability (Unit 8)
- Food/talking about favorites (Unit 8)
- Review, mini-test: Units 7 & 8 + fluency expansion
- Talking about current activities (Unit 9)
- Sports and free-time activities (Unit 9)
- Household rooms and items (Unit 10)
- Prepositions of location/describing rooms and buildings (Unit 10)
- Review, mini-test: Units 9 & 10 + fluency expansion
- Talking about past activities (Unit 11)
- Describing experiences (Unit 11)
- Talking about future events (Unit 12)
- Review, mini-test: Units 11 & 12 + fluency expansion
- Describing long-term and short-term plans (Unit 12)
- Review/reflection/feedback

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする
- 意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる
- ディスカッションや、意見表明のための英語スキルを向上させる
 - learning new vocabulary and using it during daily conversational activities
 - developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English
 - developing the skills to discuss and express own opinions in English

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

Final exam: 40%
Midterm test: 20%
Class participation (discussions, role plays, descriptions): 20%
Homework and weekly short quizzes: 20%
期末 40%
中間 20%
授業内の実演（ディスカッション、ロールプレイ、表現演習）20%
課題とミニテスト 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】English Firsthand Access (Same textbook used in English 1 Same textbook used in English 1)

入手方法は授業で指示します。English 1 と同じ教科書を使います。

■授業外学習

【具体的な内容】

Practice readings concerning the material given in the class. Prepare for discussions by researching topics and reviewing the structures learned
毎時間、次の関連する授業資料を読み、トピックについて調べ、ディスカッションの準備をする。授業後は学んだ文構造を復習する

【必要な時間】

1-2 hours/week
それぞれ1-2時間/週 ずつ

■その他

Students should prepare well before coming to the class. They should research the topics for the discussions and prepare for them.
授業前には準備を行ってこること。特にトピックについてのリサーチは重要である。

科目名	生活と金融
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	亀井 英則

■講義の目的および概要

私たちに深く関わる「金融」について平易に解説し、また、受講生にも考えて頂くことで、金融についての興味と金融基礎力を身に付ける事を目的として授業展開します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行いますが、毎回「講義のポイント」を考え、記入してもらうことで、講義内容を振り返り理解を深めます。また、グループワークを取り入れて能動的な学習を目指します。金融機関幹部の講話も予定しています。

本講義は、銀行に17年間、北海道財務局（財政・金融行政機関）に19年間勤務し、現在は北海道信用組合協会の専務理事に就任している実務家教員が、難解な金融につき身近で実践的な講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

適宜提出して頂く課題等については、個別に、もしくは授業内で全体としてのポイントについて解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス（金融とは）
- ②金融商品の概要（1）～総論
- ③金融商品の概要（2）～預金、債券、株式
- ④金融商品の概要（3）～投資信託
- ⑤運用におけるポイント、注意点
- ⑥外部講師講話（地域金融とは）
- ⑦お金を借りる（個人編・1）～総論
- ⑧お金を借りる（個人編・2）～クレジット、消費者金融、住宅ローン
- ⑨ローン利用におけるポイント、注意点
- ⑩多重債務問題を考える（グループワーク）
- ⑪代表的な金融機関と役割
- ⑫お金を借りる（企業編）
- ⑬企業と銀行
- ⑭金融犯罪、特殊詐欺について
- ⑮総まとめ、授業内期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

金融の基本的な機能、役割、仕組みを理解し金融基礎力を修得するとともに、そういった金融の常識を身に付けることによって、金融犯罪や多重債務から自分自身を守る意識を醸成することを到達目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

平常点（授業内提出物等）50%

授業内期末試験（もしくは期末レポート）50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の進捗に合わせて、プリント（5～6分冊）を配付します。

【参考文献】

お金の基本 丸田 潔著 新星出版社（改訂版2017年）

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストの事前配付は原則的に致しませんので、予習よりも復習に重点を置くようにして下さい。その際、配付されたテキストを繰り返し読むことで、理解を深めるようにして下さい。また、より効果的な復習のためには、授業内でのメモ等の書き込みが大事になります。

【必要な時間】

復習を中心に、毎回2時間程度を目途とします。

■その他

本受講者のうち希望者は北央信用組合の1日インターンシップを優先的に受けられ~~ま~~23(令和5)年4月1日
す。

科目名	調剤薬局事務
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	時野 香里

■講義の目的および概要

医療機関から発行される処方箋を読み取り、処方箋から調剤報酬（調剤料）を正しく算定する方法を理解すること、さらに、保険者に調剤にかかった費用を請求するための調剤録、レセプトの作成の知識と技術を修得することを目的とする。同時に各種保険や医薬品、医療に関する法律についても幅広く学習し、専門家として医療機関などで活躍できるスキルを身につける。また、本講義で得た知識を生かして調剤事務管理士の資格を取得する検定を受験することができる。調剤事務管理士の有資格者は、全国の保険調剤薬局で高く評価され、就職の際に、大きなPRポイントとなる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストやスライドを用いた講義形式で行う。基本的に一斉形式で行うが、実技的な課題では各自で取り組む時間を設け能動的な学習方法を行う。講義は保険制度や医薬品などの基礎知識の習得分野とテキストと処方箋問題集を用いた調剤録、調剤報酬レセプト作成といった実技的な分野の2つで構成されている。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に課題を提示する。講義内で課題の解説、質問対応を行う。課題を通して学習の到達度の確認と定着を図る。

■授業計画

- ①医療保険の概要 保険診療の仕組み
- ②処方せん、医療マナー
- ③医薬品販売について
- ④薬剤料
- ⑤薬剤料と確認試験
- ⑥調剤料
- ⑦調剤料と確認試験
- ⑧調剤基本料
- ⑨調剤料加算
- ⑩調剤料加算と確認試験
- ⑪薬学管理料
- ⑫薬学管理料と確認試験
- ⑬レセプト作成
- ⑭レセプト作成
- ⑮検定対策模試

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

調剤報酬制度とは何かを理解すること、具体的には処方箋の見方を理解し調剤報酬算定ができるようになること、各種保険や医療に関する法律知識を理解できるようになることを目標とする。また、これらの知識を生かして 調剤事務管理士の資格取得検定を受験し合格を目指すことが最終目標である。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して調剤報酬制度の正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。この結果、調剤薬局等での活躍に必要なスキルの獲得を通じ、社会において必要とされる高い実務能力を持つ職業人を養成する。

■成績評価基準と方法

単元ごとの確認テスト40%
課題提出物等60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ひとりで学べる調剤報酬事務&レセプト作成集 青山美智子著 ナツメ社
配布プリント

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

復習を欠かさず行うこと。毎回、講義後には課題を課すので出された課題に取り組むこと。必要と思う箇所は積極的に自習し何度も繰り返し学習することで、正しい調剤録とレセプト作成の力が定着する。

【必要な時間】

復習・課題に最低でも1時間行うことが学力の定着及び向上に繋がる。

■その他

必要に応じて遠隔もしくはオンデマンドの講義を行う可能性もある。

科目名	カレントトピックス
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	山田 英寿

■講義の目的および概要

私たちは日々ニュースに囲まれて生活しています。ニュースや出来事はすべて私たちの日常生活に関連しています。マスクを外せない生活も、物価高やインフレも理由があって、私たちの生活に影響を与えています。本講義では、ニュースや出来事の実態関係を理解し、自分の意見を表現できることを目指します。また事実を理解するための情報入手方法を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テレビや新聞、オンラインでのニュースの収集方法を比較し、それぞれのメディアの特性を調べます。また事前にニュースをチェックし、授業で発表、意見交換をします。さらに新聞記事やTVの録画を視聴し、ディスカッションを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

事前のレポート提出や授業内での発表と、それに対する他者の意見を聞くことで、多様性を理解します。レポートに対する補足もmanabaや授業内で提示します。

■授業計画

- ①学習の進め方、事前準備などのレクチャーとアンケート。
- ②アンテナをはろう（テレビ、新聞、週刊誌、ネットでチェック）
- ③メディアリテラシー（ネットやテレビでのニュース実例）フェイクニュース
- ④メディアリテラシー（ネットニュースの長所短所、テレビのBPO）
- ⑤メディアの特質（週刊誌、テレビ、新聞、ネットの伝達スピードと変化）
- ⑥テレビニュース放送まで（UHBの場合）写真と動画で説明
- ⑦ロシアのウクライナ侵攻（現状まとめ、国連とりくみ）
- ⑧ロシアのウクライナ侵攻（各国の対応、東西直接対決は回避されたか）
- ⑨新型コロナウイルス4年（現状と今後、経済への影響）
- ⑩地球温暖化（台風、豪雨被害、地球温暖化との関連）防ぐには
- ⑪物価上昇と日本のゼロ金利政策、円安の関係
- ⑫原油価格上昇と脱化石燃料
- ⑬プラスチックごみ削減（世界各国の取り組み、日本国内例）
- ⑭デジタル化で社会はどう変わるのか（5Gの恩恵は）
- ⑮発表～カレントトピックスまとめ

大きなニュースがあった場合、それを取り上げ、予定を変更します。都度、説明します。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

新聞やテレビの政治・経済の記事やニュースに興味をもち、説明できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針「教養に関する広い知識を身につけ、人格を磨き、文化の向上に寄与する」ため、世の中の出来事と日常生活の関連性を考える習慣を身につける。

- （DP1）専門知識・技能を活用する力
- （DP3）課題を発見し、解決する力
- （DP6）社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内で小テスト、意見発表（30%）
授業内での発表、レポート提出（40%）
respon記入提出（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。その都度、パワーポイント、OHPやテレビ番組の録画BDを使用します。

【参考文献】

各種新聞など

■授業外学習

【具体的な内容】

日ごろからテレビのニュース番組やSNSでのニュースをチェック。
新聞などに目を通し、世の中の動きに関心を持つ。
次の授業までに、気になるニュースをまとめ、自分なりの意見を考えてくる。

【必要な時間】

毎回の授業に対し、1時間程の授業外学習が必要。

■その他

普段から、ニュースを見聞きする習慣をつけましょう。

科目名	ビジネス実務
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

■講義の目的および概要

ビジネスの世界では、日常的に数字を扱う場面が数多くあり、自社や自分自身が所属する部署の現状を把握するために会計数値をはじめとした数字の意味を理解することが大切です。この授業ではビジネス現場で求められる製品やサービスの収益と原価（コスト）の計算方法、各種差異の分析に関する基本的な考え方を修得します。製品やサービスの原価には、「コントロール（統制）」と「マネジメント（経営管理）」といった側面があり、ビジネスを遂行していく上で、コスト意識（コストカットとコストダウン）を持つ、常に費用対効果を考えて、工夫・改善しようとする意識を育てます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式を基本とした内容解説を行い、その後、受講者に計算や作表・分析をしてもらう演習形式により実施します。また、講義の効果を考えてZOOMIによる遠隔授業を行うこともあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 原価計算の基礎：製造原価の分類と計算
- ③ 利益の計画と統制：変動費と固定費、CVP分析、損益分岐点
- ④ 目標売上高を達成するための売上高、予算実績差異分析
- ⑤ 製造原価の分類と集計（1）
（原価計算の基本的な流れ、材料費・労務費・経費の分類と集計）
- ⑥ 製造原価の分類と集計（2）
（製造直接費と製造間接費、完成品原価と月末仕掛品原価の計算）
- ⑦ 損益計算書の作成：売上総利益・営業利益の計算、損益計算書の作り方
- ⑧ 原価計算初級の仕訳：仕訳の基本、勘定科目
- ⑨ 原価計算初級検定の問題演習（用語問題対策）
- ⑩ 原価計算初級検定の問題演習（計算問題対策）
- ⑪ 原価計算初級検定の問題演習（仕訳問題対策）
- ⑫ 原価計算初級検定 総合演習Ⅰ
- ⑬ 原価計算初級検定 総合演習Ⅱ
- ⑭ 原価計算初級検定 総合演習Ⅲ
- ⑮ 授業内考査：解答確認とフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 製造業における製品の原価計算に関する基本用語や原価と利益の関係を分析・理解し、業務活動に利活用するための基本的な知識とスキルを身につける。
- ② 製品の製造方法に見合った製造原価の計算方法と原価管理の意味を理解し、基本的な差異の分析ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ① 定期試験 60%
- ② 提出物・検定取得状況 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『スッキリわかる日商原価計算初級』滝澤 みなみ 著（TAC出版）

【参考文献】

『合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記』TAC株式会社（TAC出版）

『原価管理 事例でわかるコストマネジメントのツボ!』堀内 智彦 著（秀和システム）

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：次回の講義内容についての指示に沿って予習を行い、課題を明確にすることが大切です。

事後学習：講義で学んだ内容をしっかりと問題演習して、理解と定着を図ることが大切です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は1時間を目安とします。

■その他

日本商工会議所 原価計算初級 検定 受験料2,200円
ビジネススキルの向上のため、上記の検定合格を目指します。

科目名	ビジネス実務総論[総カリ]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	小林 純

■講義の目的および概要

本講義の目的は、ヒトとつながりモノを活かして価値をつけてコトを起こすビジネスに必要な大切なことを理解し、組織や個人による社会の動きを理解することです。就職により社会人になると、多くのヒト・モノ・コトと関わることになります。社会の動きを理解することにより、より実践的なビジネス実務能力の必要性を考えていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業方法は配布するプリントに基づき講義形式で行います。問題意識および参加意欲を高めるため、適宜、授業内課題および提出物を課します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜提示・指示します。

■授業計画

授業は概ね以下のとおり実施します。

- ①ガイダンス～ビジネスとは何か？
- ②ビジネスと社会の関わり（１）企業の責任と意義
- ③ビジネスと社会の関わり（２）企業の目的と貢献
- ④会社の仕組み（１）公企業と私企業
- ⑤会社の仕組み（２）企業の分類
- ⑥会社の仕組み（３）会社内の組織構造
- ⑦ビジネスと会計（企業会計とIR）
- ⑧ビジネスと法律（労働に関わる保険・税）
- ⑨ホワイト企業
- ⑩働き方の改革
- ⑪現代社会におけるビジネス環境（１）情報とマーケティング
- ⑫現代社会におけるビジネス環境（２）人口減少社会
- ⑬グループワークⅠ
- ⑭グループワークⅡ
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①企業組織や企業の状況および、業務の流れや進捗を理解することができる。
- ②ビジネス実務を取り巻く社会・経済的環境の変化を理解することができる。
- ③企業の仕組みや業務の進め方について第三者に説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------|-----|
| ①定期試験 | 50% |
| ②授業内提出物 | 30% |
| ③レポート | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントや資料を提示、配布します。

【参考文献】

「ビジネス実務総論－企業と働き方－」水原道子 編著 樹村房
「ビジネス実務総論 付加価値創造のための基礎実務論 改訂版」
全国大学実務教育協会 紀伊國屋書店

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で扱われる内容に関し、参考文献をはじめとする書籍や新聞記事およびニュースなどに積極的に触れ予備知識をつけ、問題意識を持って臨むこと。授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。

【必要な時間】

予習・復習に1~2時間程度の時間が必要です。

■その他

科目名	情報処理演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

■講義の目的および概要

オフィスソフトウェアであるMicrosoft Officeのうち、文書作成（Word）、表計算（Excel）を使用して、ビジネスにおけるさまざまなコンピュータの利活用の手法を身につけることを目的としています。
また日商PC検定にチャレンジできる程度のスキルを身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で進めます。

毎回の課題の説明を行った後、実際に課題の作成を行います。

その後で、解答を学生間で確認して、完成できるようにします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の完成度等について、個別に評価・コメントを行います。

また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします

■授業計画

進度により、内容・順序を変更する場合があります。

- ①ガイダンス・入力練習
- ②プロジェクト体制図を作る
- ③ビジネス文書を作成する
- ④ポスターの作成
- ⑤Wordによる表の作成
- ⑥差し込み印刷と宛名印刷
- ⑦中間まとめ
- ⑧Excelでの表作成とグラフ作成
- ⑨Excelでの計算と関数の使用（1）
- ⑩Excelでの表示形式とクロス表の作成
- ⑪表からの分析
- ⑫VLOOKUP関数を用いたマスタ表の使用
- ⑬Excelの集計機能
- ⑭総合実践—WordとExcelを用いた作業の実践
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① オフィスソフトを使い、文書作成・データの活用ができる知識と技術を身につける。
- ② 場面に応じた文書作成のスキルや、データからの推察力を身につける。
- ③ PC検定（実技）に対応できる知識と技術を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

課題の提出と完成度 80%

まとめ問題 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

よくわかるMicrosoft Word 2019&Microsoft Excel 2019スキルアップ問題集
ビジネス実践編
FOM出版

■授業外学習

【具体的な内容】

課題は常に次回の授業までに完成させておくことが重要です。

そのためには、授業以外の空き時間を利用しましょう。

【必要な時間】

宿題の完成のためには、1時間程度の学習時間が目安となります。

■その他

コンピュータリテラシー、情報処理などの情報系科目の履修をしていることが望ま2023(令和5)年4月1日
いです。
文字入力などの基礎的スキルはできていることを前提に授業を進めます。

科目名	サービスの心理学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

サービスの付加価値を追求し、顧客満足を提供し続けることは企業にとって大きなテーマであり、組織で働く上で、言語化されない顧客のニーズ・ウオンツを把握し、サービスの実践をすることは職業人として求められる能力である。本講義では、サービスとは何か、顧客心理とは何かを学び、顧客とのよりよいコミュニケーション、並びに職場内でのコミュニケーション、クレーム対応など、具体的でかつ、現場で有益となるサービス創出のための実践的な学習と体験をし、将来に活用できることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式でサービスの基本的な知識を学ぶとともに、顧客心理を深く学ぶための実践的ワークも実施する。また、自分自身のコミュニケーションのパターンを把握できるようなワークシートを活用する。さらに、学んだことを共有化し、自分達で考察を深めるためのグループワークも実施。テーマによるグループディスカッションとプレゼンテーションにより、学んだことを職業人としても有益に活用できるようにアウトプットしていく。

エアラインでの実務経験と産業カウンセラーとしての現場経験から、より具体的にサービスの心理学の知識を理解できるよう実践的に授業展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては随時、授業内でフィードバック。レポートなどの課題については精査後にフィードバックする。

■授業計画

- ① サービスとは何か
- ② サービスとホスピタリティ
- ③ ホスピタリティと共感的理解
- ④ サービスのマインドとスキル
- ⑤ サービスとコミュニケーション（顧客のニーズやウオンツの察知）
- ⑥ サービスの品質管理
- ⑦ 顧客心理とその事例検討
- ⑧ お客様の心理状態に基づいたクレーム対応
- ⑨ 顧客満足と社員満足
- ⑩ ロイヤルカスタマー獲得のマインド
- ⑪ ロイヤルカスタマー獲得のスキル
- ⑫ 顧客満足に繋げる具体的方策
- ⑬ 具体的方策の提案
- ⑭ サービスプロフィットチェーン
- ⑮ 総括とテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

サービスについての知識を深め、顧客心理を理解できるようになる。
様々な状況において、より適切なサービス提供に必要な現場での判断力・コミュニケーション能力が発揮できるようになる。
顧客のみならず、組織内の人間関係構築に有益となる他者への察知力を高め、他者への配慮ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するという学位授与方針に基づき、変化の激しい社会において多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身につける。自分自身のコミュニケーションのパターンを理解した上で、他者とのよりよい関係構築ができるようになり、自立した職業人に求められる基礎力を修得する。

■成績評価基準と方法

対面授業の場合はグループディスカッション・プレゼンテーション30%
テスト70%
オンライン授業となった場合は提出物50% テスト50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」
中里のぞみ・紺野猷邦著 株式会社パレード

【参考文献】
「コミュニケーション学」末田清子・福田浩子 株式会社松柏社
「対話でみがくことばの力」宇都宮裕章 カニシヤ出版
「人間尊重の心理学」カール・ロジャーズ 創元社
「ワークショップ心理学」藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子
橋本尚子・東正訓 カニシヤ出版

■授業外学習

【具体的な内容】

配布レジュメには各自でメモを取り、授業後には見直して振り返りを行うこと。小レポートでは、その授業で学んだことや気づきを自分の言葉でまとめるようにしてください。グループディスカッションの際は事前学習として必要な情報などを収集しておくようにしましょう。

【必要な時間】

事前・事後学習には各講義前後に2時間程度費やすようにしてください。

■その他

提出物の期限は厳守です。
またマナバのお知らせやメールはしっかり内容を理解すること。

科目名	現代生活と経済
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小林 純

■講義の目的および概要

現代の生活では、さまざまな経済活動が関わっています。日常生活には関連がないような経済指標も、実際には生活に大きく関わることが多いのです。経済のしくみが理解できれば、政府の政策や市場の動きが見えてきます。社会人として知っておくべき経済の基礎知識を、かみ砕いて解説していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

原則として講義形式で行いますが、受講者からの発表やディスカッションも取り入れて進めます。毎回提出物などで、講義内容の振り返りを行います。また次回講義の準備となる宿題も出す予定です。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出物については、個別にコメントを加えて返却します。また、解答の傾向について、授業内で全体にフィードバックを行います。

■授業計画

およそ以下のような展開を計画しています。1回ごとに区切るのではなく、複数回にまたがって行われる内容もあります、

- ① 経済とは (1) 消費と生産・資本
- ② 経済とは (2) 貨幣と所得
- ③ ミクロ経済学 (1) 消費者と生産者の行動原理
- ④ ミクロ経済学 (2) 価格の決定
- ⑤ ミクロ経済学 (3) 外部経済と外部不経済
- ⑥ ミクロ経済学 (4) 公共財と独占
- ⑦ マクロ経済学 (1) 国の豊かさ
- ⑧ マクロ経済学 (2) GDPと三面等価の原理
- ⑨ マクロ経済学 (3) 物価と経済
- ⑩ マクロ経済学 (4) 為替レート
- ⑪ 経済政策 (1) 政府の役割
- ⑫ 経済政策 (2) 財政政策
- ⑬ 経済政策 (3) 租税政策と日本の債務
- ⑭ 経済政策 (4) 日本銀行の役割
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 報道や経済情報などの内容を理解し、経済が生活にどのような影響を与えているかを考えられる。
- ② 経済分野の幅広い情報に興味・関心を持つ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験を実施します。また以下の配分で総合的に成績評価を行います。

- 定期試験 50%
- 小テスト 30%
- 提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞やニュースを見て、経済の知識を得ることはもちろん、市販の経済入門書などを読んで、経済用語などの知識を得ておくことで、理解の助けとしてください。興味を持ったことは、授業後に積極的に調べておきましょう。

【必要な時間】

宿題等を含めて、予習、復習にそれぞれ1時間程度の学習が目安となります。

科目名	オフィス実務 I
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

ビジネスの場で求められるコミュニケーション力やマナーを身につけることを目的に、オフィスに必要な対応能力を実践的に学びます。特に、敬語等の言語による表現に加え、他人に与える印象など非言語表現についても多面的に考えてみます。好感獲得力と仕事の処理能力を意識下に、正確性と迅速性を意識しながら、実際に起こるオフィスでの現実課題を教材に、どのような仕事についても生かせる職務遂行能力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習を交互に行いません。挨拶から始まり、敬語の使い方、来客対応の仕方、電話対応など、オフィスルームを活用しながら、学生参加型の演習を展開します。秘書の実務経験のある教員が、ロールプレイング中にアドバイスをいたします。小テストは毎回採点し、満点で次のステップに進みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、札幌国際大学生のマナー
- ②敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）
- ③第一印象とノンバーバルコミュニケーション
- ④改まった場面やビジネスシーンにおける敬語
- ⑤好感度をアップする話し方
- ⑥敬語確認テスト
- ⑦来客対応1（受付から応接室まで）
- ⑧来客対応2（～見送りまで、席次、名刺交換）
- ⑨来客対応3（応対演習）
- ⑩来客対応実技試験
- ⑪電話対応1（受け方・伝言メモ）
- ⑫電話対応2（かけ方・携帯電話）
- ⑬電話対応演習
- ⑭電話対応実技試験
- ⑮まとめ、試験対策

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①尊敬語、謙譲語、丁寧語の敬語表現ができる。
- ②来客対応、電話対応、訪問のマナーを理解し、表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

■成績評価基準と方法

筆記試験 30%
 実技試験 40%
 敬語総合テスト 20%
 提出物 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「成功する仕事の基本とビジネスマナー」 寿郎社

【参考文献】

「秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会

■授業外学習

2023(令和5)年4月1日

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、敬語を暗記してノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	オフィス実務Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

ビジネスの場で求められるコミュニケーション力やマナーを身につけることを目的に、オフィスに必要な対応能力を実践的に学びます。特に、敬語等の言語による表現に加え、他人に与える印象など非言語表現についても多面的に考えてみます。好感獲得力と仕事の処理能力を意識下に、正確性と迅速性を意識しながら、実際に起こるオフィスでの現実課題を教材に、どのような仕事についても生かせる職務遂行能力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習を交互に行ないます。挨拶から始まり、敬語の使い方、来客対応の仕方、電話対応など、オフィスルームを活用しながら、学生参加型の演習を展開します。秘書の実務経験のある教員が、ロールプレイング中にアドバイスをいたします。小テストは毎回採点し、満点で次のステップに進みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、サービス接遇検定準1級とは
- ②仕事の基本（ハウレンソウ）
- ③コミュニケーションのための自己理解・自己表現
- ④会議の参加の仕方、顧客満足クレーム対応、笑顔で変わるV
- ⑤ビジネス文書
- ⑥茶菓接待演習（入れ方）
- ⑦茶菓接待演習（出し方）
- ⑧茶菓接待実技試験
- ⑨サービス接遇検定準1級基本言動
- ⑩ " 接客応答
- ⑪ " 接客対応
- ⑫サービス接遇検定準1級実技試験
- ⑬就職活動に伴う文書のマナー
- ⑭慶弔のマナー
- ⑮試験と解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①相手に感じが良いという態度や言葉遣いができる。
- ②会社の即戦力となれるよう、仕事の基本が理解できる。
- ③サービス接遇検定準1級の資格を取得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

■成績評価基準と方法

筆記試験40%
 実技試験30%
 電話対応総合テスト20%
 その他提出物10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「成功する仕事の基本とビジネスマナー」寿郎社（春学期と同じテキスト）

【参考文献】

「サービス接遇検定受験ガイド準1級」
 「秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、電話対応の言葉遣いを暗記してノートにまとめてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	キャリア演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代、小林 純、石川 智寛

■講義の目的および概要

「キャリア形成」で立案した学修と学生生活の計画が実行されているかを確認しながら授業を進めます。「働く」ことについて、個人の視点と企業や社会の視点の双方から理解し、キャリアプランを設計します。そのため、社会の動向と産業・職業・労働について幅広く理解し、働く意義を踏まえながら就活への準備を整えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

職種研究や自己分析などをおして、将来就きたい職業を見つけて就職するための準備を講義と演習で行ないます。授業は、企業で総務の実務経験のある教員らが担当し、キャリア支援センター職員や人事担当者より、個別にアドバイスいたします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜指示・配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、就職活動の全体像 KB…キャリアハンドブック
- ②履歴書の構成、インターンシップ、チャレンジ3 KB
- ③自己分析 KB
- ④職務適性テスト検査
- ⑤札幌国際大学を取り巻く「業界」
- ⑥【講話】就活を知る、採用スケジュール、今すべきこと
- ⑦札幌国際大学を取り巻く「職種」
- ⑧職務適性テスト検査結果&解説
- ⑨社会人としてのメールの書き方 PC
- ⑩履歴書・エントリーシートの書き方 PC
- ⑪履歴書・エントリーシートの作成と添削 PC
- ⑫送付状・封筒の書き方 PC
- ⑬自立するということ
- ⑭面接の基本、自己紹介
- ⑮試験とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①社会の出来事に潜む問題点を見つけることができる。
- ②他者の考えを受け入れ、自分の考えを伝えることができる。
- ③社会に出る準備課題をこなすことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業内課題70%
 実技試験20%
 その他提出物10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回教材シートを配布します。

【参考文献】

キャリアハンドブック
 女子学生のためのキャリアデザイン

■授業外学習

【具体的な内容】

- 社会を知るため、新聞、ニュースには毎日触れアンテナを張ること。
- 宿題として出されたものは必ず取り組んで来ること。

【必要な時間】

課題の完成、疑問点の整理などのため、授業前後に、1-2時間の時間外学習が必要です。

■その他

科目名	TOEIC
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	竹内 康二

■講義の目的および概要

英語のコミュニケーション能力を測定するTOEIC Listening & Reading 試験を目指して、ビジネスに場面おける「話す、聞く、読む、書く」英語の4技能の運用能力を伸長することを目的とする科目です。問題の内容や形式に習熟することのみではなく、その場面にふさわしい語彙・文法・表現などを多様な演習活動により総合的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

リスニング問題では、場面に応じた特徴的な表現のパターンを確認しながら、会話表現や説明文をペアワークやグループワークを活用して練習します。また、リーディング問題では、リーディング文の目的を明確にし、その目的に沿って必要な情報を把握することを主たる活動とします。語彙・表現はその場面や目的と結びつけて学習します。

【課題に対するフィードバックの方法】

TOEICの実践問題を課題として、授業後の学習時間も確保しながら問題演習を行い、課題の確認を次の授業で行い、復習をします。また、授業の最初には前回の授業の振り返り演習を行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション TOEIC試験の構成とストラテジー
- ②1stクール Listening Part1&2 Reading Part5 / Topic: Food & Restaurant
- ③Listening Part2&3 Reading Part 5&6 / Topic: Entertainment
- ④Listening Part3&4 Reading Part6 / Topic: Travel
- ⑤Listening Part4 Reading Part7 / Topic: Advertisement
- ⑥2nd クール Listening Part1&2 Reading Part5 / Topic: Purchasing
- ⑦Listening Part2&3 Reading Part 5&6 / Topic: Office Work(1)
- ⑧Review: Mid-term Test
- ⑨Listening Part3&4 Reading Part6 / Topic:Office Work(2)
- ⑩Listening Part4 Reading Part7 / Topic: Employment
- ⑪3rd クール Listening Part1&2 Reading Part5 / Topic: Business Affairs(1)
- ⑫Listening Part2&3 Reading Part 5&6 / Topic: Business Affairs(2)
- ⑬Listening Part3&4 Reading Part6 / Topic: Business Affairs(3)
- ⑭Listening Part4 Reading Part7 / Topic: Lectures & Presentations
- ⑮Review: Final Exam

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

TOEIC Listening & Reading 試験において、450~500点のスコアを取得するのに十分な総合的な英語コミュニケーション能力を持ち、問題解決のためのスキルを発揮できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (D01) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業内期末テスト50%
 中間テスト30%
 小テスト・課題20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

公式TOEIC Listening&ReadingトレーニングListening編、Reading編等
 (上級クラスのみ)

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業後にTOEICの実践問題を課題とします。解答と解説は次回の授業の初めに行います。また、授業の最初に前回の授業の復習を行いますので、トピックごとに語彙や表現をノートにまとめておく必要があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

コアをあげることを目標とするのではなく、英語のコミュニケーション能力全体を高めるよう、幅広く楽しく学習することが大切です。

クラス分けは英検準2レベル、2級以上レベルの2クラスです。

科目名	健康・医学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	時野 香里

■講義の目的および概要

人々の健康は個々が暮らしている環境から大きな影響を受けている。それは社会、自然、職場、学習などの状況が考えられる。本講義ではストレスの多い現代において健康を維持するために重要な要素である栄養、運動、休養等について日常生活に即した身近な話題を取り上げ、健康の維持増進に必要な基礎知識の習得を目標とする。また、学生が現在興味を持っている疾患についても取り上げ、学ぶ。また講義内において足浴のリラックス効果を唾液アミラーゼ活性の測定を用いて検証する（フィールドワーク）。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室内での講義形式とし、パワーポイントやプリントを用いて資料を視覚的に呈示する。適宜出された課題を提出し、そのテーマについて必要な場合はディスカッションを行う。

また講義内において行ったフィールドワークについてのレポートまとめを発表する（グループ単位）。

【課題に対するフィードバックの方法】

試験・実験後にはレポートを課す。次回の講義時にレポートに記載された質問、課題等に関してディスカッションを行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション 授業の説明
- ② 保健機能食品・サプリメントビタミンについて
- ③ ビタミンについて 日焼け アンチエイジング
- ④ 身近なものに含まれるビタミンGの測定実験
- ⑤ 入浴・睡眠について（温泉効果）
- ⑥ カフェインについて
- ⑦ カフェインの集中力に与える影響の実験（コーヒーの試飲あり）
- ⑧ 身近な疾患 インフルエンザ・コロナ
- ⑨ 手洗いチェッカーを用いた手洗いの重要性
- ⑩ 身近な疾患 花粉症・アレルギー アルコールパッチテスト
- ⑪ 身近な疾患 生活習慣病や様々なワクチン 学生から要望のあった疾患について
- ⑫ フィールドワークについての事前学習
- ⑬ フィールドワーク
- ⑭ フィールドワーク
- ⑮ フィールドワーク

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

健康の維持・増進のために必要な栄養・運動・保養の重要性について理解できる。
日常生活における病気における予防の方策について理解できる。
身近な疾患について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して栄養・運動・保養・疾患についての正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。

■成績評価基準と方法

講義内レポート 40%
ディスカッション力 20%
フィールドワーク課題 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配布する

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

次回講義の該当内容の参考資料等を自ら調べ読んで予習しておくこと。
各回の授業に対し 課題を出すのでそれに回答すること。また授業後の復習を行うこと。

【必要な時間】

1時間程度。

■その他

薬剤師による実務経験に基づいた講義も含まれる。
講義内において授業3コマを用いてフィールドワークを行う予定である。フィールドワークは費用として実費がかかる場合もある。今年度の時期、場所は未定であるが初回の授業で連絡する。

必要に応じて遠隔もしくはオンデマンドの講義を行う可能性もある。

科目名	調理実習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義を持ちます。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得すること、応用可能な調理手法について実習を通して実践的に学ぶことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業はプリントを中心に講義と実習形式で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②衛生管理とレシピ考案
- ③調理の知識 I
- ④調理実習 I
- ⑤調理実習 II
- ⑥調理の知識 II
- ⑦調理実習 III
- ⑧調理実習 IV
- ⑨調理の知識 III
- ⑩調理実習 V
- ⑪調理実習 VI
- ⑫調理の知識 IV
- ⑬調理実習 VII
- ⑭調理実習 VIII
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各種食品を用いて、目的に応じた料理構成や調理手法を学び、食卓の演出等が的確に行える知識と技術について習得することを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」「能動的に学び続ける力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

実習記録ノート 50%
小レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください。

【必要な時間】

各2時間程度

■その他

施設設備、安全確保の観点から履修人数は24名を上限とする。
15回の授業のうち、数回オンデマンド形式で行う可能性があります。

科目名	生活と銀行
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	亀井 英則

■講義の目的および概要

私たちに深く関わる「金融」について平易に解説し、また、受講生にも考えて頂くことで、金融についての興味と金融基礎力を身に付ける事を目的として授業展開します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行いますが、毎回「講義のポイント」を考え、記入してもらうことで、講義内容を振り返り理解を深めます。また、グループワークを取り入れて能動的な学習を目指します。金融機関幹部の講話も予定しています。

本講義は、銀行に17年間、北海道財務局（財政・金融行政機関）に19年間勤務し、現在は北海道信用組合協会の専務理事に就任している実務家教員が、難解な金融につき身近で実践的な講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

適宜提出して頂く課題等については、個別に、もしくは授業内で全体としてのポイントについて解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス（金融とは）
- ②金融商品の概要（1）～総論
- ③金融商品の概要（2）～預金、債券、株式
- ④金融商品の概要（3）～投資信託
- ⑤運用におけるポイント、注意点
- ⑥外部講師講話（地域金融とは）
- ⑦お金を借りる（個人編・1）～総論
- ⑧お金を借りる（個人編・2）～クレジット、消費者金融、住宅ローン
- ⑨ローン利用におけるポイント、注意点
- ⑩多重債務問題を考える（グループワーク）
- ⑪代表的な金融機関と役割
- ⑫お金を借りる（企業編）
- ⑬企業と銀行
- ⑭金融犯罪、特殊詐欺について
- ⑮総まとめ、授業内期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

金融の基本的な機能、役割、仕組みを理解し金融基礎力を修得するとともに、そういった金融の常識を身に付けることによって、金融犯罪や多重債務から自分自身を守る意識を醸成することを到達目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

平常点（授業内提出物等）50%
授業内期末試験（もしくは期末レポート）50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の進捗に合わせて、プリント（5～6分冊）を配付します。

【参考文献】

お金の基本 丸田 潔著 新星出版社（改訂版2017年）

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストの事前配付は原則的に致しませんので、予習よりも復習に重点を置くようにして下さい。その際、配付されたテキストを繰り返し読むことで、理解を深めるようにして下さい。また、より効果的な復習のためには、授業内でのメモ等の書き込みが大事になります。

【必要な時間】

復習を中心に、毎回2時間程度を目途とします。

■その他

本受講者のうち希望者は北央信用組合の1日インターンシップを優先的に受けられ~~ま~~23(令和5)年4月1日
す。

科目名	情報特別演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

■講義の目的および概要

IT社会で活躍する人材に求められる、IT技術の基礎的な知識を問う「ITパスポート試験」の問題を中心に演習を行い、ITパスポート試験の受験準備を行うことを目的とします。

基本的にパソコンを使用する授業ではありません。コンピュータ操作能力を伸ばすための授業ではありません。IT、コンピュータに関わる社会・企業の知識や、ITの基礎知識を得るための授業です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

分野に関する知識・トピックを説明し、そのあと演習問題にチャレンジします。コンピュータを利用した試験受験を模すために、manabaを利用します。

【課題に対するフィードバックの方法】

問題の回答については、その場で答えが出ます。成績状況や、間違いやすい問題などのフィードバックを教員から行います。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 基礎理論／アルゴリズム
- ③ システム／ハードウェア
- ④ ソフトウェア
- ⑤ データベース
- ⑥ ネットワーク
- ⑦ セキュリティ
- ⑧ 企業活動
- ⑨ 法務
- ⑩ 経営戦略マネジメント
- ⑪ 技術戦略マネジメント
- ⑫ システム戦略
- ⑬ システム開発
- ⑭ プロジェクトマネジメント
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 社会で用いられているIT技術や、関連業務で必要となる知識を身につける。
- ② ITパスポート試験を受験するために必要な基礎知識を身につけ、自主的な学習につなげることができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

小テスト・課題 70%
まとめ（模擬試験） 30%

ITパスポート試験を受験、さらに合格した場合は成績評価を考慮します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

みんなが欲しかった!ITパスポートの教科書&問題集 2023年度版
TAC出版情報処理試験研究会【編著】 TAC出版

【参考文献】

この分野の出版物は他にも数多くあります。関心がある人はぜひ参考にしてください。

■授業外学習

【具体的な内容】
試験範囲が広範囲に及ぶため、授業のみで全範囲をカバーすることは不可能です。
そのため、一部範囲については自主的な学習が求められます。

【必要な時間】
およそ授業に対して1時間の学習が目安となるでしょう。

■その他

ITパスポート試験受験は学外の試験会場にて受験することになります。

科目名	ブライダル演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ウェディングプランナーとして結婚式をプランニング・プロデュースする為に必要な知識・技能を学修し、実際に結婚式を創り上げることを実習・体感する。ブライダルに関する知識や興味を深め、それにまつわる発想力とプレゼンテーション能力およびその発想をかたちにする行動力の向上を目指す。またグループワークにおける発信力やコミュニケーション能力の向上も目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

担当教員からの配布資料とプロジェクターを用い講義形式にて基礎知識を学修後、フィールドワークとなる「模擬ウェディングパーティ」実施へ向けグループワークを進めます。

各グループごとに、パーティのコンセプト決めプレゼンテーションやパーティ実施に向けた準備作業を行います。

なお、フィールドワークの「模擬ウェディングパーティ」は新郎新婦役として学生モデルをたて、実際のパーティ会場(某ホテル)を使用し全員で会場セッティングを行い、婚礼料理を楽しみながら本格的なパーティを実習、体感できます。ウェディングプランナーとして実務経験豊富な教員が知識と経験を活かし実例をあげながらプランニングの指導を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題や実習内容については授業内またはmanabaを通じて、随時指示します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②プランニングの基本
- ③演出やコーディネートの考え方
- ④チーム結成とプレゼンテーション準備①
- ⑤チームごとにプレゼンテーション準備②
- ⑥プレゼンテーション
- ⑦プレゼンテーションの結果発表とその後の作業分担
- ⑧～⑩チームごとに制作作業やプランニング
- ⑪～⑬フィールドワーク「模擬ウェディングパーティ」の施行
- ⑭まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

プランニングの基本知識を習得し、履修生全員が協力し合い一つのテーマに沿ったウェディングシーンを創りあげingことを目標とし、それを達成する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP 2)【コミュニケーション能力】
 (DP 3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP 4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP 5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

各授業の課題への取組や発言状況 70%
 期末レポート提出 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやテレビ、雑誌等々からウェディングシーンに触れイメージを膨らませ、参考になりそうな材料を集めておく。

【必要な時間】

平均して事前事後で1時間程度

■その他

フィールドワーク(模擬ウェディングパーティ)の実施は2023年7月の土日祝日を予定しています。
またパーティ実施の際、飲食代金として一人5,500円～6,000円程度の自己負担金があります。

科目名	English Presentation
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	デントン ルーカス

■講義の目的および概要

Students will learn how to plan and give an effective presentation in English by practicing. (speaking techniques such as effective use of voice pitch and gestures.) Students will gain confidence in their ability to give a presentation and refine their skills in relaxed presentation exercises where they can enjoy sharing about themselves.

本講義では、印象的なプレゼンテーションを英語で行う方法を練習を通して学ぶ。(効果的な声やジェスチャーの使い方など) リラックスした状態でプレゼンテーションを行って自信をつけ、楽しく語り合ってプレゼンテーションしあひながらスキルを高めていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

The course will involve both individual and pair/group work. Students will make a presentation on the themes covered. Students will prepare and practice their presentation, and the teacher will give them feedback. Students are expected to listen to the others' presentation and participate in Q&A sessions.

個人ワークの他、ペアやグループのワークを行います。テーマに対して1つプレゼンテーションを作成し、練習し、先生のチェックを受けます。他人のプレゼンテーションを聞いて、Q&Aセッションにも参加します。

【課題に対するフィードバックの方法】

The lecturer will provide feedback on presentation planning, on the class's presentation performances in general, and also give individual feedback on student presentations during practise exercises and after theme presentations. Students will also receive advice from their partners and group members.

プレゼンテーション計画、クラス全体のプレゼンテーションのパフォーマンス、個別のパフォーマンスにフィードバックを行う。学生はペア、グループのメンバーからもフィードバックを得られる。

■授業計画

- ① Class Orientation - Course purpose, activities.
- ② Unit 1 Topic1 My hometown
- ③ Unit 1 Topic2 My Interest
- ④ Unit 1 Topic 4 My favorite season
- ⑤ First Presentation Talk about yourself (using the topics)
- ⑥ Unit 2 Topic 6 A person I respect
- ⑦ Unit 2 Topic 7 What I want
- ⑧ Unit 2 Topic 7 What I want
- ⑨ Unit 2 Topic 8 Place I want to visit
- ⑩ Second Presentation Choose 1 from Unit 2 and have 3 minutes presentation
- ⑪ Second Presentation Choose 1 from Unit 2 and have 3 minutes presentation
- ⑫ Unit 3 Express your opinion
- ⑬ Unit 3 Express your opinion
- ⑭ Unit 3 Express your opinio
- ⑮ Final Presentation

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① Learn and put into practise techniques for good presentation
- ② Gain confidence in one's ability to speak English in public
- ③ Learn how to plan and organise a presentation on various topics

- ① 印象的なプレゼンテーションに必要な様々な技術を学び、生かす
- ② 人前で英語を話す自信を得る
- ③ テーマに沿ったプレゼンテーションの計画、作成、整理する方法を学ぶ

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ① Preparation homework 30%
- ② Presentation x3 60%
- ③ Peer feedback 10%

- ① 準備宿題 30%
- ② プレゼンテーション 3回で60%
- ③ 他人へのフィードバック 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

改訂版 ハーバード式 5行エッセイ英語学習帳

【参考文献】

Handouts and other materials will be provided in the lessons.
授業で配布するプリントや資料を配ります。

■授業外学習

【具体的な内容】

Students are expected to do all homework before coming to the class.
Homework will include preparing presentations, and researching about topics of interest.

授業前に宿題（プレゼンテーション準備、話題研究等）を終わらせること。

【必要な時間】

Approximately 1-2 hours preparation per week.

予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

科目名	哲学[総カリ]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	大小田 重夫

■講義の目的および概要

「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レベルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行う。講義ごとにプリントを配布し、そのプリントに従って様々な哲学の問題を紹介し、それらに対する哲学者の代表的な見解を解説する。また講義後、アンケートの機会を設け質問や意見を求め、次回講義時にフィードバックし共有を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

アンケートや中間テストを実施した際は、次回の講義内で解説、解答します。

■授業計画

- ①イントロダクション — 哲学とは何か
- ②西洋哲学の歴史（1）— 古代哲学の歴史
- ③西洋哲学の歴史（2）— 合理主義哲学の歴史
- ④「心」とは何か — 心身問題について
- ⑤西洋哲学の歴史（3）— イギリス経験論哲学とその言語観
- ⑥言葉と意味 — 現代哲学における言語論的転回について
- ⑦言葉と行為 — 言語行為論について
- ⑧「時間」とは何か — ベルクソンの時間論について
- ⑨「時間」と自由 — 自由であるとはどういうことか
- ⑩「私」とは何か — アイデンティティについて
- ⑪「他者」とは何か — 私たちにとって<他者>とはどのような存在か
- ⑫「行為」とは何か — カントの倫理学について
- ⑬「美」とは何か — カント哲学における「美」について
- ⑭「身体」とは何か — 心身問題について
- ⑮西洋哲学の歴史（4）— 反合理主義の哲学

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

以下の3点を目標とする。

1. 哲学の代表的な問題について知る。
2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。
3. 考えたことを理論的に文章化できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験：60%

授業期間内試験：30%

提出物（講義のアンケート）：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用しない。プリントを配布します。

【参考文献】

授業内で紹介し、参考資料等は適宜、配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけて読んでみる。また毎回の講義後、書き留めたノートや資料を見返すこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講にあたって哲学の予備知識はいっさい必要ありませんが、積極的な授業参加を希望します。

科目名	キャリア特別講義
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	樋原 智恵

■講義の目的および概要

少子高齢化やグローバル化、ジェンダーレスなど、日々私たちを取り巻く環境は、急速に変化しているため、多様な価値観や考え方を理解することが重要です。多様性を理解し長期的な視野を持ち、自分らしく生きるための対人対応力・発想力・考え方を学ぶことが目的です。また、これからの職業人生を前向きに描くことを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義形式とグループディスカッション、グループワークを織り交ぜながら進めます。
- ・特別講師による講演。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料を適宜提示・配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション（講義内容、進行、評価などの説明）
- ②集団と個人Ⅰ（仕事の種類とさまざまな働き方、協働と職人）
- ③集団と個人Ⅱ（組織とは、組織の中の個人と個性）
- ④集団と個人Ⅲ（集団における葛藤と解決策、企業で求められる人材）
- ⑤対人関係の形成と維持Ⅰ（印象形成、第一印象）
- ⑥対人関係の形成と維持Ⅱ（社会人の魅力と信頼形成、ストレス・メンタルヘルス）
- ⑦対人関係の形成と維持Ⅲ（関係の発展・維持・崩壊、失業と転職）
- ⑧女性のキャリアⅠ（トークセッション）
*外部講師をお招きします。
- ⑨女性のキャリアⅡ（トークセッション）
*外部講師をお招きします。
- ⑩ジェンダーと社会Ⅰ（教育、雇用における性差、自立とお金）
- ⑪ジェンダーと社会Ⅱ（仕事、子育て、社会における性差）
- ⑫ジェンダーと社会Ⅲ（恋愛と家族、「家内」と「主人」、「配偶者」→「パートナー」）
- ⑬課題発見・課題解決、クリティカルシンキング
- ⑭ソーシャルスキル（良い人付き合いのための対人対応力）
- ⑮これまでのふりかえりと最終レポート作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①社会で働くために必要な情報や仕組みを理解する
- ②社会人として必要な能力を理解し、それを身に付ける
- ③自分らしい働き方を考え、自分自身の職業生活をデザインできる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の小レポート50%
- ②グループディスカッション・プレゼンテーション 20%
- ③最終レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストなし。

適宜、プリントや参考資料を提示・配布します。

講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

■授業外学習

2023(令和5)年4月1日

【具体的な内容】

日頃から新聞を読み文章力を身に付けてください。また、世の中の出来事・ニュースに関心を示してください。必要に応じてテーマに関する理解を深めるために、次回のテーマに関して示唆を与えます。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ1～2時間程度を目安とします。

■その他

実践キャリア実務士必修科目で、キャリア教育の仕上科目です。

科目名	職場のコミュニケーション
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

サービススタッフとしての、サービス接遇の考え方、行動の仕方、話し方の技術を学び、接遇者としてのマナーを発揮できるようになる。また、サービス接遇検定2級の資格をめざし、1年秋学期「オフィス実務Ⅱ」で準1級ロールプレイング合格の者は、この2級合格により、2級・準1級の資格が取得できる。受験の順序は逆でも構わない。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

秘書の実務経験のある教員が、職場内外におけるコミュニケーションについて事例を紹介しながら講義します。サービス接遇検定2級のテキストを使用し、資格取得を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

検定の課題は、毎回採点します。課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、サービス接遇検定の説明
- ②過去問の解説
- ③2級検定講座1（サービススタッフの資質）(1)
- ④ " (2)
- ⑤検定講座2（専門知識）(1)
- ⑥ " (2)
- ⑦検定講座3（一般知識）(1)
- ⑧ " (2)
- ⑨検定講座4（対人技能）(1)
- ⑩ " (2)
- ⑪検定講座5（実技技能）(1)
- ⑫ " (2)
- ⑬総復習
- ⑭サービス接遇検定模擬試験、接遇用語テスト
- ⑮サービス接遇解答速報・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

職場環境に対応して即戦力となるために、対人心理を理解し、自らがホスピタリティを発揮して、相手や状況に合わせて対応ができること。また、サービス接遇検定2級を取得すること。さらに準1級の取得も目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

筆記試験70%
 接遇用語テスト20%
 その他提出物10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実務技能検定協会「サービス接遇検定公式テキスト2級」1200円

【参考文献】

実務技能検定協会「サービス接遇検定実問題集」

■授業外学習

【具体的な内容】

今回の授業範囲について、専門用語の意味などをノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

サービス接遇検定2級は、本学を会場に6月に実施予定です。

科目名	課題解決演習 I
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	和田 早代、和久田 紗恵子、石田 麻英子、石川 智寛

■講義の目的および概要

学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習 I では、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決 I 終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークが中心 情報収集、ディスカッションをする
活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う

【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員を上司に見立て、チームの活動＝仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる。

■授業計画

- ①オリエンテーション、今までつけてきた力について
プロジェクト活動とは グループワーク振り返り
- ②グループでプロジェクトを進めるための基礎の確認
- ③グループワーク振り返りのまとめ、エントリー
- ④@ディスカッションプロジェクト開始（プロジェクトごとの実施）目的の共有
- ⑤@グループワークプロジェクトの運営上使える知識スキル
- ⑥ハウレンソウとチームワーク、効果検証の方法
- ⑦@グループワーク プロジェクト活動
- ⑧@グループワーク プロジェクト活動
- ⑨@グループワーク プロジェクト活動
- ⑩@グループワーク プロジェクト活動
- ⑪@グループワーク プロジェクト活動
- ⑫@グループワーク プロジェクト活動
- ⑬@グループワーク 中間報告に向けたまとめ
- ⑭中間報告とフィードバック
- ⑮@グループワーク、ディスカッション ピア評価と秋学期に向けて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

チームでの自分の役割を意識し貢献できる
プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する
テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる
スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP 2)【コミュニケーション能力】
(DP 3)【課題を発見し、解決する力】
(DP 4)【多様性の理解と協働する力】
(DP 5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

個人提出物（アクション記録、個人レポート他） 50%
グループ提出物（中間報告、提出物、ピア評価他） 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは設定しません。配布物や重要書類を格納するためのファイルなど個人で用意してください。配布資料、アクションシートなどはA4 2つ穴あきの状態でお渡しします。

【参考文献】

プロジェクトごとに指示があります。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。

【必要な時間】

事前事後、最低でも1時間以上の時間がかかります。

■その他

社会は目まぐるしく変化しています。自分たちの力で、社会にどんなプラスの貢献ができるか考え、自分達以外の関係する周囲の状況と合わせながら、変化に対応できる準備をするのがこの授業です。プロジェクト活動は苦勞しただけ力がつくものです。苦勞、失敗をたくさん経験してください。

科目名	課題解決演習Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・必修 1単位・演習
担当者	和田 早代、和久田 紗恵子、石田 麻英子、石川 智寛

■講義の目的および概要

課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。チームでの活動をとおして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。活動をとおして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワーク、ディスカッション、発表を行う。
フィールドワークを行い記録を残す
まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行う。

■授業計画

概ね、以下のように進めます。

1. @グループワーク 課題解決演習Ⅰでの内容、スケジュールの再確認
2. @グループワーク 個人スケジュールを勘案した実行計画の整理
3. @アクティビティ プロジェクト活動
4. @アクティビティプロジェクト活動
5. @アクティビティプロジェクト活動
6. @アクティビティプロジェクトの実行・運営
7. @アクティビティプロジェクトの実行・運営
8. @アクティビティプロジェクトの実行・運営
9. @アクティビティプロジェクトの実行・運営
10. 効果検証
11. 効果検証
12. @グループワーク 成果発表に向けた準備
13. @グループワーク 成果発表に向けてのポスター完成
14. 成果発表
15. 全体振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる
- ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける
- ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる
- ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

個人提出物（アクション記録、最終レポートなど） 50%
グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など） 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは設定しません。配布物や重要書類を格納するためのファイルなど個人で用意してください。

配布資料、アクションシートなどはA4・2穴あきの状態でお渡しするかmanabaを使用して配布保存します

【参考文献】

プロジェクトごとに指示があります

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業前に、授業時間以外でプロジェクトの情報収集や、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、授業外にその完成作業をしてもらうことになります。

【必要な時間】

授業時間では間に合いませんので、前後に最低でも1時間以上の準備時間は必要です。

■その他

長期休暇中に継続してプロジェクトを進めておくことで、後で時間に追われず、満足いく成果を上げることができるでしょう。

科目名	北海道のフードビジネス
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

フードビジネスの世界は日々、専門性や高度化を増し、競争が激化している。本講義の目的は、フードビジネスの意義・歴史・環境変化などを学び、豊かな大地で育まれる北海道食材に関する基本知識を学習し、フードビジネスに対する理解を深めることです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は配布するプリントを中心に講義形式で行うが、学習内容への理解を深め問題意識を高めるために、演習形式でグループワークやディスカッションも取り入れて実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおりに実施します。

- ①オリエンテーション：授業の概要説明
- ②フードビジネスの意義
- ③フードビジネスの歴史Ⅰ（消費者の食ニーズ）
- ④フードビジネスの歴史Ⅱ（外食ビジネスの成立と特徴）
- ⑤グループワーク1（北海道の魅力ある食材研究 ディスカッション）
- ⑥グループワーク2（北海道の魅力ある食材研究 プレゼンテーション）
- ⑦北海道が育む食文化
- ⑧北海道の魅力ある加工食品
- ⑨食による地域振興
- ⑩宿泊産業におけるフードビジネス、小テスト
- ⑪食品衛生とマネジメント
- ⑫グループワーク3（北海道の魅力あるフードビジネス研究 ディスカッション）
- ⑬グループワーク4（北海道の魅力あるフードビジネス研究 調査）
- ⑭グループワーク5（北海道の魅力あるフードビジネス研究 プレゼンテーション）
- ⑮授業内試験、振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①北海道の食材や加工品に対して、基本的な内容を理解できるようになる。
- ②多様化する消費者の食に関するニーズやウオントを理解できるようになる。
- ③専門化、高度化するフードビジネスの現状を理解することができるようになる。
- ④今後の課題や可能性を考察し、自分の考えを第三者に伝えることができるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------------|-----|
| ①授業内試験 | 50% |
| ②小テスト | 20% |
| ③授業内プレゼンテーション | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を提示・配布します。

【参考文献】

必要に応じて適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- <予習> 授業で取り扱う内容に関し、毎回事前に新聞やニュース番組などを利用して、自ら積極的に触れておくこと。
- <復習> 各回の授業で取り扱った内容に関し、講義内容をしっかりと復習するとともに、図書館の関連書籍やインターネットなどを活用して深く調べ、それぞれの内容をまとめておくこと。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ1時間必要になります。

■その他

科目名	レシピ研究と実践
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

様々な料理レシピ情報が簡単に手に入る現代社会の中で、レシピについて正しく理解し、実践できる力は健康的な食生活を形成する上でとても大切です。本科目では調理実習を通して、食材が調理を経て料理になるまでの手順を理解しながら、テーマに沿ったレシピを考え、オリジナルレシピを作成します。調理実習を行いながら、より良いレシピ作成のためにレシピを活用する人の立場になり考え研究するとともに、レシピ通りに調理する実践力を育む科目です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義と実習形式で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション・レシピの成り立ち・テーマについて
- ②メニュー考案
- ③レシピ案作成
- ④試作準備
- ⑤食材の調達
- ⑥試作
- ⑦試作
- ⑧レシピ案修正・栄養価計算・価格計算
- ⑨試食会準備
- ⑩試食会準備・レシピ用写真撮影
- ⑪試食会と評価
- ⑫レシピ修正
- ⑬レシピ仕上げ・完成
- ⑭発表
- ⑮印刷・製本

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

食材が料理になるまでの手順を理解することができる。レシピを活用し、正しく料理できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」「課題を発見し、解決する力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

レポート：20%

レシピ：60%

発表：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト・参考文献】

レシピや食材、調味料に関する書籍等。

■授業外学習

【具体的な内容】

レシピ研究の過程をまとめ、復習してきてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、「こんなレシピがあったら良いな」とレシピに興味を持ち、料理を見て調理過程を想像して生活してみましょう。

【必要な時間】

各1時間程度

■その他

調理実習（基本）を受講していることが望ましいです。

科目名	オフィス演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

一人の社会人として、ビジネス全般についての知識やビジネスマナーを身に付けることを目的としています。ビジネス現場全般についての理解と、人と情報のネットワークを良く知り、一人のビジネスワーカーとして活躍するための知識と技能を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

理論に対する実務的アプローチを、一人の秘書の事例を中心にストーリーを構成し、それをもとに学習します。秘書の実務経験のある教員が、事例を豊富に提供しながら理論と実務で進めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。
学生からの質問については、授業の始めに全体へ向けて答えます。

■授業計画

- ①ガイダンス、敬語ドリルについて
- ②人生に求めるあなたの価値観1
- ③人生に求めるあなたの価値観2
- ④ストレス対応・エゴグラム
- ⑤チームワークを養う(宇宙)
- ⑥コミュニケーションの女子力アップ
- ⑦自己啓発について考える
- ⑧コミュニケーション能力を養う
- ⑨ワークライフバランス
- ⑩会社の序列(会社合併)
- ⑪労働意識の変化と迷い
- ⑫ホスピタリティあふれるお客様対応
- ⑬仕事のシチュエーション・ロールプレイング「ハウレンソウ」
- ⑭オフィス業務実践演習
- ⑮試験と解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①上司や社内・社外とのコミュニケーションを実践できる。
- ②人と情報のコーディネートができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

レポート30%
敬語ドリル総合テスト20%
オフィス業務実践演習20%
その他提出物30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

社会人の敬語ドリル

■授業外学習

【具体的な内容】

学科での学びを保証するためビジネススキル等の目標バーを越えることを目的としています。目標をクリアするために、事前事後で1時間以上の授業外学習が必要です。テストをクリアするまで何度も挑戦します。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	調理実習(基本)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義を持ちます。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業はプリントを中心に講義と実習形式で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②調理の基本知識 I
- ③調理手法の基礎知識 I
- ④調理手法の基礎知識 II
- ⑤調理実習 I
- ⑥献立作成の基礎知識
- ⑦献立作成
- ⑧調理実習 II
- ⑨振り返り
- ⑩献立作成
- ⑪調理実習 II
- ⑫振り返り
- ⑬献立作成
- ⑭調理実習 IV
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

調理時に大切な衛生管理を理解すること。調理器具の種類や取り扱い方について理解すること。料理構成や調理手法を学び、献立作成ができるようになることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」「能動的に学び続ける力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

実習記録ノート 50%
小レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください。

【事前事後学習 必要な時間】

各2時間程度

■その他

施設設備、安全確保の観点から履修人数は24名を上限とする。
15回の授業のうち、数回オンデマンド形式で行う可能性があります。

科目名	生活文化
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

私たちの生活環境、社会環境はめまぐるしく変化しているが、長い歴史の中で培われてきた日本の伝統的な生活文化について知識を深めることはとても大切です。本科目では、社会生活を送る上で必要な生活文化に関する基礎知識と歴史的由来について学習し、自らが文化の作り手、担い手であることを意識できるようになることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式と演習形式を適宜組み合わせて行います。課題に基づいたグループワーク、ディスカッション等も取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートや課題については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②日本の食文化～和菓子～講義・演習
- ③日本の食文化～和菓子～発表
- ④生活と仕事～ライフワークとライスワーク～
- ⑤日本の衣文化～着物～
- ⑥日本の衣文化～私の衣生活～
- ⑦日本の住文化
- ⑧日本の食文化～どこから来て、どこへ行くのか～
- ⑨日本の食文化～和食～
- ⑩日本の食文化～語り継ぎたい、家の味～
- ⑪日本の文化～行事と花～
- ⑫振り返り
- ⑬ポスター作成
- ⑭ポスター作成
- ⑮ポスター発表とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

より豊かな生活を送るために日本の生活文化に関する基本的な知識と特徴を理解すること、日常生活の中にある「生活文化」を知り、その在り方について、考察することを目標とする。生活文化について学び、今後の自分たちが新たな生活文化を作っていくという意識をもって生活できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「専門知識・技能を活用する力」「課題を発見し、解決する力」「社会に貢献する姿勢」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

提出物：60%

ポスター発表：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

日本の伝統文化、年中行事に関する書籍等

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業内容をまとめ、復習をしてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、自分の送りたい生活、日常の中の「文化」を意識して生活してみましょう。また、異文化生活の授業の学びを振り返っておくと良いでしょう。

【必要な時間】

各1時間程度

■その他

15回の授業のうち、数回オンデマンド形式で行う可能性があります。

科目名	異文化生活
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	石田 麻英子

■講義の目的および概要

本講義では、海外の生活文化を知ることを通して、日本と異なることに関して理解を深めながら、他文化を理解し、秋学期の「生活文化」に向けて、自国の文化を客観的に見直すことも目指します。異文化について学び、視野を広げることのほかに、伝統として守られている価値観に気づくことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主に講義スタイルだが演習形式も取り入れる。
導入やまとめとしてグループワークを行う。
学生は毎回の授業に関して短いコメントを書く。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業中は学生がコメントを書き、数回教員がチェック・評価してから学生に戻す。基本的にmanabaを使用する

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 生活の中の異文化
- ③ 「残す」ということ「残る」ということ
- ④ 異文化と宗教、神話
- ⑤ 世界の祝祭
- ⑥ 世界の祝祭
- ⑦ 世界の食文化
- ⑧ 世界の食文化
- ⑨ 異文化需要と衝突
- ⑩ 世界の中の日本文化
- ⑪ 中間課題（試験）
- ⑫ 課題テーマの設定
- ⑬ 課題に取り組む
- ⑭ 成果の発表
- ⑮ まとめとフィードバック

必要に応じて数回のオンライン、オンデマンドでの指導があります

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①異文化の芸術や自然に対する考え方を学ぶ
- ②過去と現在を結ぶ文化的要素に気づく
- ③考える力とコミュニケーションスキルを伸ばす

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

毎回ノート、コメントシート 40%
中間課題 30%
期末課題とフィードバック 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教員による資料・プリントの配布

【参考文献】

授業で適宜指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で配布された資料、教員にチェックを受けた自分のコメントやレポート読み、復習を行って中間課題の準備をしていくこと。各回の授業で紹介されたトピックスについて記事は参考文献でさらに深く調べ、期末テーマを決める参考資料を作ること

【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

信憑性の高い資料を読むこと。データならソースをはっきりわけて、他と比較できるもの。ニュースや教育番組の観賞。雑誌やガイドブックの一部を使うことができる。

科目名	女性と人生
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	石田 麻英子

■講義の目的および概要

女性という立場を選んで生きるうえで、ライフイベントなどにより、人生は大きく揺れ、その都度、迷い、選択することが発生します。自身の人生において、短大生活2年間が持つ意味を考え、様々な生き方について学び、現実の社会について知り、既成概念にとらわれず、自分で考え選択することについて考察します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で授業を進めますが、質問を向けたりして双方向授業になります。また、課題についてグループを作りディスカッションをしてより掘り下げて考察をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。
学生からの質問については、授業の始めに全体へ向けて答えます。

■授業計画

1. オリエンテーション：幸福とは。
2. なぜ女性だけ？
3. 歴史、文化と女性：自己肯定や美、財産や地位
4. 海外と日本の女性たちの違い
5. 現実社会に照らしたディスカッションと意見形成
6. ヒロインたちと女性の生き方の変遷
7. ヒロインたちと女性の生き方の変遷
8. 現代の社会と女性の人生
9. 予期せぬシナリオ、それでも前を向いて生きるために
10. 私たちの今までとこれから 発表課題の決定
11. 私たちの今までとこれから 調査と発表準備
12. 私たちの今までとこれから 調査と発表準備
13. 発表リハーサルと意見共有
14. 幼児教育保育学科とのコラボ授業
15. 幼児教育保育学科とのコラボ授業

必要に応じて、数回のオンデマンド、オンラインの授業があります

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①女性として生きることについて自分の意見を確立する。
- ②仕事と生活のバランスのとり方について自分なりのポリシーを確立する。
- ③経済的自立と精神の自立の関係を理解できる。
- ④自分の人生を振り返り、未来に向けて自信をつける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 【専門知識・技能を活用する力】
DP3 【課題を発見し、解決する力】
DP4 【多様性と協働する力】

■成績評価基準と方法

提出物（毎回の提出シート）・・・40%
最終課題・・・40%
アクティビティ（ワークシートで判断）20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回、資料を配布します。

【参考文献】

授業内で適宜紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 前回の授業内容の復習、確認。提出物で指摘されたところの訂正。
- ・ 次週の課題が出るので、必ず取り組んでくること。
- ・ 課題のために、授業外で映画を見たり、本を読んだりしていただくことがある。

【必要な時間】

事前・事後学習の時間は2時間を目安とします。

■その他

科目名	現代生活と福祉
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	鈴木 道代

■講義の目的および概要

本講義の目的は

- ①現代生活における社会福祉の役割を理解する
- ②社会福祉の制度・サービスを必要とする生活（現状）を理解する
- ③社会福祉の考え方、様々な社会福祉法制の仕組み、サービス体系について理解する以上を通して、受講生の生活における社会福祉の考え方、その必要性等について受講生自身の考えを持つことを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義形式(パワーポイントスライド)で展開(撮影禁止)
- ・DVD視聴
- ・学生に意見を求めディスカッション形式(可能な範囲で)

【課題に対するフィードバックの方法】

講義開始時に、学生が取り組んだ事前学習課題の内容やリアクションペーパーに対してコメントをし、学生と意見を共有する。

■授業計画

- ①オリエンテーション、社会福祉とは何か
- ②社会福祉の対象・利用形態と基本理念
- ③生活概念と社会福祉の関係
- ④社会福祉の援助方法1～社会福祉の専門職と視点
- ⑤社会福祉の援助方法2～社会福祉で活用する技術
- ⑥現代社会の変化
- ⑦第1回から第6回のまとめ・中間テスト
- ⑧児童家庭福祉1～児童福祉の理念、児童虐待の現状と児童養護施設
- ⑨児童家庭福祉2～ひとり親家庭の現状、特別養子縁組
- ⑩障害児・障害者福祉～障害、ノーマライゼーション、合理的配慮
- ⑪低所得者福祉1～貧困概念、貧困の連鎖、子どもの貧困
- ⑫低所得者福祉2～生活困窮者自立支援制度、生活保護制度
- ⑬高齢者福祉1～介護保険制度
- ⑭高齢者福祉2～高齢者の身体的・精神的特性
- ⑮第8回から第14回のまとめ・授業内期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①社会福祉に関する知識を理解し、説明することができる。
- ②社会福祉を必要とする対象者の生活状況を理解し、説明することができる。
- ③現代生活における社会福祉の必要性について説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ①事前学習課題、リアクションペーパー等の提出状況、授業への取り組み方(20%)
- ※授業への取組方：授業内私語で注意された場合、氏名を確認の上マイナス1点とする。
- ※合理的配慮(修学支援)の申請がない学生によるスクリーンの撮影：氏名と理由を確認の上、合理的配慮に該当しない場合はマイナス10点
- ②中間テスト(30%)
- ③授業内期末テスト(50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。毎回プリント配布(各自で保存すること)。

【参考文献】

山縣文治ら編(2013)『社会福祉用語辞典第9版』ミネルヴァ書房。
鈴木幸雄編(2012)『現代の社会福祉』中央法規。
鶴 幸一郎、藤田 孝典、石川 久展ほか(2019)『福祉は誰のために—ソーシャルワークの未来図』へるす出版。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前学習（予習）：毎週提示するキーワードを調べ、理解する。
- ・事後学習（復習）：事前学習で調べたキーワードの内容と講義内の内容、日常的に見聞する社会福祉の事象を関連づけられることが望ましい。

【必要な時間】

- ・事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・講義内で意見を求められた場合には積極的に答えてください。
- ・携帯電話の使用を禁じます。
- ・私語等授業妨害とみなす行為をした学生には退出してもらいます。
- ・合理的配慮（修学支援）の申請がない学生によるスクリーンの撮影は禁じます。
- ・講義の展開上、席の移動を求められた場合には、速やかに行動してください。
- ・出欠確認はresponで行います。
- ・事前学習課題とリアクションペーパーの提出はmanabaとなります。
- ・「出席」：responの入力とmanabaへの課題等の提出の両方がされている場合、「出席」とします。課題等の提出遅れは認めません。

科目名	ベーシックスキルズ
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石川 智寛

■講義の目的および概要

将来の豊かな生活を作り上げるために、現代社会の現状と問題と向き合い、その解決方法についての必要な知識を身につける。

特に変化の激しい現代社会において、自立した生活に必要な知識（ライフサイクル、働き方とワークバランス、家計など）をもとに、自らの将来をデザインすることを目指す。

また、DXと呼ばれる社会のデジタル化が進む中で、考えるべき「情報倫理」について、過去の事例や実際に起こっている変化をもとに、自らのかわり方を考える。
【「数理・AI・データサイエンス」対応授業】

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で、説明→課題の実施→解答・振り返りを繰り返しながら進める。
課題によってはグループで考える形式や、ディスカッションを用いる。

【課題に対するフィードバックの方法】

個別に返却すると同時に、授業の冒頭において全体への説明を行う。

■授業計画

この授業は、授業の前半・後半でSectionが入れ替わります。

①ガイダンス

Section1 ライフデザインを考える

- ②③ 成人としての常識とは？
- ④⑤ ライフプランの要素
- ⑥⑦ 自立のためのファイナンス その1（収入と支出）
- ⑧⑨ 自立のためのファイナンス その2（リスクへの備え）
- ⑩⑪ ワークライフバランス
- ⑫⑬ ライフデザイン シュミレーション
- ⑭⑮ まとめ・テスト

Section2 情報倫理とDX

- ②③ 情報倫理とはなにか
- ④⑤ ネットワーク社会
- ⑥⑦ メディアとの関わり
- ⑧⑨ セキュリティ
- ⑩⑪ 個人情報とプライバシー
- ⑫⑬ 知的財産権
- ⑭⑮ まとめ・テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①人生設計にかかわる現代社会の特徴や要素について、基礎的な知識を身につける。
- ②自己を取り巻く社会や環境との関連について、共生と自立を目指した心豊かな生活設計の礎を築く。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

この授業は定期試験を行わない。
単元ごとの小テストや、毎回の課題提出で成績を評価する。

各Sectionにて50%
Sectionごとに15%をまとめて充て、提出物等に35%を配分する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- 「大学生のための人生とお金の知恵」金融広報中央委員会
- 「家計夢ノート」金融広報中央委員会
- 「学生生活マネー&キャリア お役立ちハンドブック！」日本FP協会

■授業外学習

【具体的な内容】

大学生の生活や、情報社会を扱った書籍は多数存在する。図書館や書店等で、各自で探すことを推奨する。

【必要な時間】

宿題や課題の完成のために1時間程度の学習が目安となる。

■その他

科目名	Basic Conversation
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	デントン ルーカス、石田 麻英子

■講義の目的および概要

文法指導以外はほぼ英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。Except for the complicated grammar instruction, this class will be in English and focus on developing the student's conversational skills. During lessons, students will learn new vocabulary and use the new words in role plays, short descriptions of daily routines, s, and other conversational activities.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ロールプレイ、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけ、1スピーキング、2リーディング、3リスニングのアクティビティを行う。意欲的に参加することが求められる。

Method: This course will require students to actively communicate with each other during group discussions and pair dialogues. They will also perform role plays of common daily events. In each lesson there will be specific vocabulary to learn and practice through 1) speaking 2) reading 3) listening activities. Students are expected to actively participate in all aspects of the class.

【課題に対するフィードバックの方法】

教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。

Feedback: The instructor will provide constant (general and specific) feedback during lessons and all aspects of the developing activities.

■授業計画

1. Class overview(Unit zero)
2. Asking/Giving personal information Asking about classmates (Unit 1)
3. Following instructions Giving commands (imperatives) (Unit 2)
4. Review
5. Mini-test: Units 1 & 2 + fluency expansion
6. Personal item vocabulary (Unit 3)
7. Asking about existence/prepositions of location (Unit 3)
8. Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4)
9. Review
10. Mini-test: Units 4 & 5 + fluency expansion
11. Family relationship vocabulary Describing one's family (Unit 5)
12. Describing clothing/shopping (Unit 6)
13. Talking about clothing preferences. (Unit 6)
14. Review, mini-test: Units 5 & 6 + fluency expansion
15. Final exam (Unit1-6)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】 Course objectives

- 1) Learning new vocabulary and using it during daily conversational activities.
 - 2) Developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English.
1. 新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする
 2. 意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

Final Exam: 30% 期末30% Unit Test: 20% 小テスト20%
Class Activities (discussions, role-plays, etc): 20%
授業内実演 (ディスカッション、ロールプレイなど) 20%
Homework: 30% 課題宿題30%

■テキスト・参考文献

入手方法は授業で指示します。English 2 も同じ教科書を使います。

■授業外学習

【具体的な内容】 What to do: Students should do the readings and exercises about the material given in class. Review vocabulary learned and use it to prepare for conversations and activities in class.

テキストを読み、授業で指示、配布された練習を行うこと。語いを復習し、授業での会話やアクティビティで使えるようにしておくこと

【必要な時間】 Approximate time:1-2 hours per week 約1-2時間

■その他

It is important that students learn the vocabulary given in every class and prepare to use it during class activities

毎時間覚える語いを学習し、授業で使える準備をすることが大事です。

科目名	Conversation
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	デントン ルーカス、石田 麻英子

■講義の目的および概要

全て英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。

This class will be held entirely in English and will focus on enhancing and expanding the student's conversational skills and abilities. During the classes, students will learn new vocabulary and expressions, use the new structures in role plays, descriptions of daily routines, discussions and other conversational activities.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ロールプレイやスピーチを録音し、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけ、1スピーキング、2リーディング、3リスニングのアクティビティを行う。意欲的に参加することが求められる。日本人教員とネイティブ教員のTeam Teachingとなる。

This course requires that students actively communicate among each other during pair and group discussions. They will also be required to perform role plays and record speeches. In each lesson there will be specific structures (vocabulary and grammar) to learn and practice through 1) speaking, 2) reading, 3) listening activities. Students are expected to actively participate in all aspects of the class. This class is team-taught by a Japanese teacher and a native speaker teacher.

【課題に対するフィードバックの方法】

教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。

The instructor will provide constant (general and specific) feedback during the lessons for all aspects of the developed activities by e-mails and in the lessons.

■授業計画

1. Talking about frequency (Unit 7)
2. Talking about weekend activities (Unit 7)
3. Food/asking about availability (Unit 8)
4. Food/talking about favorites (Unit 8)
5. Review, mini-test: Units 7 & 8 + fluency expansion
6. Talking about current activities (Unit 9)
7. Sports and free-time activities (Unit 9)
8. Household rooms and items (Unit 10)
9. Prepositions of location/describing rooms and buildings (Unit 10)
10. Review, mini-test: Units 9 & 10 + fluency expansion
11. Talking about past activities (Unit 11)
12. Describing experiences (Unit 11)
13. Talking about future events (Unit 12)
14. Review, mini-test: Units 11 & 12 + fluency expansion
15. Final test

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連【到達目標】

1. 新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする
2. 意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる
3. ディスカッションや、意見表明のための英語スキルを向上させる
 - 1) learning new vocabulary and using it during daily conversational activities
 - 2) developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English
 - 3) developing the skills to discuss and express own opinions in English

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

Final Exam: 30% 期末30% Unit Test: 20% 小テスト20%
Class Activities (discussions, role-plays, etc): 20%
授業内実演 (ディスカッション、ロールプレイなど) 20%
Homework: 30% 課題宿題30%

2023(令和5)年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】English Firsthand Access (Same as English 1)

入手方法は授業で指示します。English 2 も同じ教科書を使います。

■授業外学習

【具体的な内容】What to do: Students should do the readings and exercises about the material given in class. Review vocabulary learned and use it to prepare for conversations and activities in class.

テキストを読み、授業で指示、配布された練習を行うこと。語いを復習し、授業での会話やアクティビティで使えるようにしておくこと

【必要な時間】Approximate time:1-2 hours per week 約1-2時間

■その他

It is important that students learn the vocabulary given in every class and prepare to use it during class activities

毎時間覚える語いを学習し、授業で使える準備をすることが大事です。

科目名	Office English
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	竹内 康二

■講義の目的および概要

実際の職場で発揮できる英語運用力を高めることを目的とします。具体的には、同僚との打ち合わせ、顧客への対応や電話での応答、またスケジュール管理など、職場での様々な場面を想定して、円滑なコミュニケーションができるように、英語の表現を身に付けます。そのため、ペアワークやグループワークなどに積極的に参加しようとする意欲が大切です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に演習形式で行います。授業毎に職場の場面を設定し、その場面に適した会話表現の演習をしていきます。Procedureは①会話表現・語彙演習②リスニング③ペアワーク・グループワーク④リーディング⑤ライティング⑥まとめとなります。教科書の表現をただ暗記するのではなく、場面に即して表現の範囲を広げていくことが大切です。

【課題に対するフィードバックの方法】

manabaによって毎授業毎小テストを課し、その注意点は次の授業で振り返ります。また、中間テスト、期末テストでは口頭で英語表現を発表し、互いにその成果を確認します。

■授業計画

- ①オリエンテーション 学習方法と内容 Unit 1 Introduction
- ②Unit2 Telephone Calls
- ③Unit3 Making an Inquiry
- ④Unit4 Making an Appointment
- ⑤Unit5 Receiving a Visitor
- ⑥Unit6 Invitations
- ⑦Unit7 Presentations 1
- ⑧Review & Mid-term Test Oral Test: Telephone Calls/Schedule Management
- ⑨Unit 8 Presentations 2
- ⑩Unit 9 Presentations 3
- ⑪Review: Presentations
- ⑫Unit10 Online Meetings
- ⑬Unit11 Negotiations
- ⑭Unit12 Placing an Order
- ⑮Final Review & Final Exam Oral Test: Presentation

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

職場で英語による基本的なコミュニケーションを運用できる。グローバルな時代に適応した、顧客への対応、電話の受け答え、メールのやりとりなどの基本的な会話表現を適切に使用できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内期末試験50%、中間試験30%、小テスト20%。なお、期末、中間試験には会話実技を含む。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Tae Kudo. Successful Office English. Cengage Learning. ISBN:978-86312-343-4

【参考文献】

公式TOEIC L&Rトレーニング リスニング編・リーディング編など

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時間、授業終了後にmanaba により小テストを行います。授業中にポイントとなる英語表現や語彙を場面ごとにまとめておきましょう。また毎授業の冒頭に前回の授業で学んだ会話表現を確認し、練習をしますので、しっかりノートにまとめておくことが必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中にペアワークやグループワークを行いますので、学習の効果が上がるように積極的に主体的な学習活動に参加しましょう。

科目名	Customer Service English[2年]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	エレナ フォルトゥナート、石田 麻英子

■講義の目的および概要

国際化する社会において、外国人のお客様にとっさに対応できるように、必要な英語を学び、準備をするための科目です。基本的な表現を身につけ、場面や状況に応じて応用できるように、実際に練習を重ね、「職場に一人は欲しい英語を使えるスタッフ」として自信をもって積極的に接客できる人材を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を挟みつつ、演習形式をメインで行います。場面を想定し、自分たちが必要な表現を集め、実際に実演してみるロールプレイ（グループ）を重ね、指導を受けながら自分専用の表現集を完成させてもらいます。自分で作った試験問題で自分をテストしてもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

ロールプレイ後に個別にコメントアドバイスを行う

■授業計画

- 1 オリエンテーション 外国人のお客様
- 2 @ロールプレイ 基本的な表現 来店からお見送りまで
- 3 @ロールプレイ 場面の想定 想定されるお問い合わせ洗い出し
- 4 @ロールプレイ パターンの設定と流れの確認
- 5 基本ストーリーの作成と原稿の完成
- 6 実演とフィードバック
- 7 あらかじめ準備しておくこと 楽なこと メニュー、説明書、看板
- 8 あらかじめ準備しておくこと 楽なこと 販促POP チラシ
- 9 @アクティビティ 場面別 POPや説明書き、メニュー等の作成
- 10 私の職場で使う表現
- 11 ツールの作成と単語帳の完成
- 12 テスト問題を作ってみよう ストーリーの設定
- 13 @ロールプレイ あったら便利、自分専用マニュアル完成に向けて
- 14 実演試験と筆記試験
- 15 フィードバックとマニュアルの完成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

職場に外国人の方が来た時にうろたえず対応できる準備をする。
自分が仕事をするフィールドにおいてよく使われる表現を確認し、すぐに使えるように準備をしておく。自分専用のマニュアルを作る

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
- DP2 コミュニケーション能力
- DP5 能動的に学び続ける力
- DP6 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

フィードバックフォーム 30%
積み上げ式期末課題（自分マニュアル）40%
実演 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

みんなの接客英語 広瀬直子 アルク

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。

【必要な時間】

予習復習合わせて、最低でも1時間はかかります

■その他

何より、英語を「声に出す事」に慣れていてください。メモを見ながらも、熱心☎23(令和5)年4月1日
伝えることが重要です。

科目名	Travel English
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	エレナ フォルトゥナート

■講義の目的および概要

街歩きを通して英語を話すことに慣れる。
 インバウンドの観光客を案内するうえで必要な技能を上達させる。
 異文化への理解を深め、コミュニケーション方法を学ぶ。
 To practice speaking English through some field trips.
 To improve the skills necessary to guide inbound tourists.
 To deepen the purpose and outline of cross-cultural lectures and learn communication methods.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習のための準備学習を通して実用的な観光英会話や実践力を身につける。ワークシートやグループワークなどのアクティビティを通して外国人向けツアープランの作成をしながら文化を学ぶ。

Learn practical tourism English conversation and practical skills. Through activities such as worksheets and group work, learns how to make plans for foreigners to learn the towns and cities.

【課題に対するフィードバックの方法】

学生はミニプレゼンテーションの準備のため、講義内容や課題を復習する。講師がそれぞれの課題についてフィードバックを行う

Students review lecture content and assignments to prepare for a mini-presentation. Teachers give feedback on their assignments.

■授業計画

1. Orientation, Introductions
2. Basic Questions about Travel Plans
3. Thinking about Travel Destination
4. Research about a spot and planning field trip1
5. Script Writing Check
6. Mini Presentation Practice
7. Field Trip1 Guiding Practice
8. Research about a spot and planning field trip2
9. Script Writing Check 10. Script Writing Check
10. Mini Presentation Practice
11. Field Trip2 Guiding Practice
12. Research about a spot and planning field trip3
13. Script Writing Check
14. Mini Presentation Practice
15. Field Trip 3 Guiding Practice

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日常生活や将来の仕事に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、継続的にスピーキング練習やテーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。

Acquire English knowledge and abilities so that you can use them in your daily life and future work, and continuously improve your basic English skills through speaking practice and thematic activities.

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

課題:20% リサーチ:20% スクリプト: 30% 町の案内: 30%
 Assignment ?20% Research ? 20% Script ? 30%
 Guide practice ? 30%

■テキスト・参考文献

No text book. Materials will be provided by the teacher.

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、1時間の復習をして授業を受けてください。宿題とミニプレゼンテーションの練習も含め、復習を1時間程度行ってください。

At the beginning of each lesson, we will review the question as a review of the previous lesson, so please review and study for 1 hour before the lesson.

【必要な時間】

Please do the review for about 1 hour, including homework and mini-presentation lessons.

■その他

予習をすることで学習効果が上がりますので、しっかり予習をすることをお勧めします。

It is recommended that you prepare well, as the learning effect will increase by preparing for it.

科目名	ビジネスマネジメント
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	河田 真清

■講義の目的および概要

- ・ 中小企業診断士として、数多くの企業の経営課題解決に当たった実務経験のある教員による実践的な授業です。企業支援の事例や経験を授業に反映させながら進めます。
- ・ 経営資源（人、物、金、情報）やリスクを管理し経営効率を最大化するビジネスマネジメントに必要な具体的基礎理論（経営学）や手法について身近な事例により皆さんと一緒に考えていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・ 講義方式を展開しますが、適宜皆さんに質問し、色々な意見を聞きながら一方的にならない様に留意します。
- ・ 毎回、講義の最後に課題を出しますので取り組んでもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 提出して頂いた課題により講義の理解度をチェックし、次の講義に反映させていきます。課題は次回の講義で、講師から総評させていただきます。

■授業計画

- ① ビジネスマネジメントとは～ガイダンス～
- ② 企業とは何か、企業の中でどんな仕事をしているか
- ③ いろいろな企業形態、株式会社とは何か
- ④ 経営を数字から見てみよう（1）経営数字の基礎
- ⑤ 経営を数字から見てみよう（2）資金を集めるには
- ⑥ 企業の中で人の管理（1）人事労務管理とは
- ⑦ 企業の中で人の管理（2）人から組織へ
- ⑧ ものづくりの基本（1）生産管理とは
- ⑨ ものづくりの基本（2）仕事のカイゼン
- ⑩ 売れる仕組みをつくろう（1）マーケティングの基本
- ⑪ 売れる仕組みをつくろう（2）マーケティング戦略のいろいろ
- ⑫ 経営者の役割（1）経営戦略と経営計画
- ⑬ 経営者の役割（2）持続する企業経営①～事業承継とは
- ⑭ 経営者の役割（3）持続する企業経営②～いろいろなリスクとBCP
- ⑮ まとめ、最終課題策定

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ ビジネスマネジメントとは何かを自分の言葉で語れ、他の教員や企業関係者とも共通の言葉で会話ができるようになることを目標とします。
- ・ 自分の身近なアルバイトや部活、ゼミ活動の中で「ビジネスマネジメント」の手法で体系的に組織を見て、課題解決に使えるようにすることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・ 社会に出たとき、会社に入ったとき、創業するときなど、多様な場で自立した職業人として活躍できる実務能力を身につけるために「ビジネスマネジメント」の専門知識や考えを修得します。

■成績評価基準と方法

- 毎回授業時の課題提出 20%
 中間課題 30%
 定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回、プリントを配布します。

【参考文献】

周佐喜和 他『経営学 I 企業の本質』（実教出版）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容につき指名して質問しますので、必ず前回の授業内容を復習しておいて下さい。
- ・日常生活の中でも最近の企業の動き、情報をニュースや新聞、ネット等から授業に関係する言葉や情報などを調べる習慣をつけるよう心掛けてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	医薬・販売
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	時野 香里

■講義の目的および概要

平均寿命が長くなり生活習慣病などが問題となってきた現代、日々をいかに健康に生きるかが問われ「自分自身の健康に責任を持ち軽度の身体の不調は自分で手当てしていこう」と言うセルフメディケーションの意識が高まっている。このような時代の中で注目されるのが登録販売者である。登録販売者はドラッグストアやコンビニエンスストアなどで薬剤師が不在でも一般用医薬品（第2類・3類）の販売ができる専門家のことである。本講義では一般医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律などを学ぶことによりセルフメディケーションの理解を深める。また、薬の副作用が起きた場合の専門家としての義務、国からの保障などの仕組みについても学ぶ。これらの知識は登録販売者資格試験の試験範囲を網羅するものとなっている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

スライドを用いた講義形式で行う。教科書のほか、要点をまとめたプリントを配布するので講義を聞きながらプリントを埋めていくことで授業内容の定着を図る。スマートフォン教材や実際の医薬品を用いる場合、現職薬剤師として実務経験のある教員が、実際に接客するような形で能動的な学習も行う予定である。単元ごとのまとめとして確認チェック問題を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

学習した内容の過去問題を課題とする。次回の授業までに解答、自己採点したものを提出してもらい、次回講義内で疑問点について解説を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に課題が提示され、次の授業で課題の正答を示す。自己採点をし全体解説を聞き必要に応じてテキストチェックを行う。課題は全単元において行われ学びの定着を図る。

■授業計画

- ①オリエンテーション・医薬品に共通する特性と基本的な知識①
- ②医薬品に共通する特性と基本的な知識②
- ③医薬品に共通する特性と基本的な知識③とここまでの確認テスト
- ④人体の構造と働き①
- ⑤人体の構造と働き②
- ⑥人体の構造と働き③
- ⑦人体の構造と働き④とここまでの確認テスト
- ⑧医薬品の適正使用安全対策①
- ⑨医薬品の適正使用安全対策②
- ⑩医薬品の適正使用安全対策③
- ⑪医薬品の適正使用安全対策④とここまでの確認テスト
- ⑫主な医薬品とその作用①
- ⑬主な医薬品とその作用②
- ⑭薬事関係法規、制度①
- ⑮薬事関係法規、制度②とここまでの確認テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①セルフメディケーションについて説明できる、登録販売者資格試験にも対応できる知識(医薬品に共通する特性と基本的な知識、人体の構造と働き、医薬品の適正使用安全対策、一般用医薬品の成分や薬効、薬事関連法規)の知識を見につけることができる。②希望者は登録販売者試験を受験し合格を目指すようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して病気や薬についての正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。この結果、登録販売者を目指し病院薬局やドラッグストアなどの医療の現場で活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

講義内確認テスト40%
課題提出物等60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
登録販売者試験テキスト&要点整理(薬事日報社)改
【参考文献】
厚生労働省(登録販売者試験問題作成に関する手引き)

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習は分野によっては初めて聞く用語なども多いと思うので事前にわからない単語などを調べておくことが望ましい。
事後学習は暗記することが多いので出された課題に取り組み、必要に応じて医薬品成分単語帳やまとめを作るようにする。時間の許す限り予習復習を行うことが望ましい。

【必要な時間】
個人差があるが予習・復習合わせて1時間は必要と考える。

■その他

登録販売者演習を受講予定の学生はこの講義とセットで受講することをお勧めする。
受験可能な検定・試験
薬学検定
登録販売者試験

必要に応じて遠隔もしくはオンデマンドの講義を行う可能性もある。

科目名	登録販売者演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	時野 香里

■講義の目的および概要

平均寿命の延伸により高齢化が進む現代日本。しかし、日々をいかに健康で過ごすかという健康寿命の延伸こそが目指すべき課題である。そのためには「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てしていこう」というセルフメディケーションへの取り組みが重要となっている。この担い手として注目されてきたのが登録販売者である。登録販売者は病気やくすりについての正しい知識を持ち、一般医薬品（第2類・3類）を薬剤師が不在でも販売ができる専門家のことである。登録販売者の資格は各都道府県で実施されている試験を受験し、合格することで取得することができる。

本講義では医薬・販売の講義で学習した知識を生かして登録販売者の資格取得試験受験対策を行うことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

スライドを用いた講義形式で行う。医薬・販売の講義と同様に穴埋めプリントも使用する。前年度の各都道府県の登録販売者資格試験過去問題を模擬試験形式で行い学習の到達度を確認する。講義内で解答解説を行う。模擬試験を通して試験合格に向けて実践的な取り組みを行なっていく。

【課題に対するフィードバックの方法】

各都道府県の登録販売者資格試験過去問題で誤答した箇所を次回の講義までに解き直し、提出する。授業内に疑問点について解説を行う。

■授業計画

- ①薬事関係法規・制度①
- ②主な医薬品とその作用①
- ③登録販売者過去試験問題①（模試形式）
- ④薬事関係法規・制度②
- ⑤主な医薬品とその作用②
- ⑥薬事関係法規・制度③
- ⑦主な医薬品とその作用③
- ⑧主な医薬品とその作用④
- ⑨登録販売者過去試験問題②（模試形式）
- ⑩主な医薬品とその作用⑤
- ⑪主な医薬品とその作用⑥
- ⑫主な医薬品とその作用⑦
- ⑬登録販売者過去試験問題③（模試形式）
- ⑭登録販売者過去試験問題④（模試形式）
- ⑮登録販売者過去試験問題⑤（模試形式）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

登録販売者資格試験にも対応できる知識（一般用医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律等）を生かして登録販売者資格試験で合格点を目指すようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身に付けるとともに、自ら課題を見つけ解決する、多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」というポリシーに基づきこの講義を通して病気やくすりについての正しい知識を得ることで登録販売者を目指し、合格し、病院、薬局やドラッグストアなどの医療の現場で活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

講義内模擬テスト 5回 40%
課題提出物など60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義内で提示

【参考文献】

厚生労働省 「登録販売者 試験問題作成に関する手引き」

■授業外学習

【具体的な内容】

模擬試験などで間違えた箇所は書き直しを行い、必要に応じてノートにまとめる。暗記を必要とすることが多いので予習復習はできる限り時間を見つけて取り組むようにする。

【必要な時間】

国家資格の試験合格を目指す講座である。合格に向けて学習時間をできるだけ確保することが望ましい。
授業の理解、模擬テストに向けては1から2時間程度の学習時間は必要。

■その他

必要に応じて遠隔もしくはオンデマンドの講義を行う可能性もある。

科目名	基本演習[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、小岩 季之、山内 太郎、神林 裕子

■講義の目的および概要

講義やグループワークを通して大学生生活を送るために必要な知識について学ぶとともに、自己の能力や個性を發揮するための方法や、主体的、能動的な学びの態度を身につけていくことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

内容に応じて、講義形式や演習形式（グループワーク、プレゼンテーション）で授業を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説し、他者からの意見や考えを聞いたり、成果を全体で共有したりすることを通して学びを深めます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②建学の礎・教育の基本的な考え方、学び方について（学長講話）
- ③学内施設の活用（学内探検）
- ④安全な学生生活のために（インターネット、SNS、勧誘等について）
- ⑤子どもの広場企画①
- ⑥子どもの広場企画②
- ⑦グループワーク①～情報の整理
- ⑧グループワーク②～意見の集約
- ⑨グループワーク③～発表、質疑応答
- ⑩子どもの広場企画③
- ⑪ミュージカル鑑賞
- ⑫子どもの広場企画④
- ⑬子どもの広場振り返り／外部講師による「危機対応について」
- ⑭試験に向けて（学び方や心構えについて）／キャリアパスノートとはなにか
- ⑮まとめレポート／履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

大学生生活に必要な基本的な知識を身につける。グループワークを通して、考え方の異なる人とも意見を交換し調整しながら進めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

毎時の取り組み（振り返りシート）：30%
 グループワーク等の課題・提出物：50%
 まとめレポート：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜配布

■授業外学習

【具体的な内容】

事前に配布される資料を熟読し、次回の授業範囲のポイントについて予習し、ノートにまとめてください。グループワーク実施時の課題となります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とします。

■その他

科目名	教育原理[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	平野 良明

■講義の目的および概要

教育の本質や意義について思想や歴史に学び、特に幼児期の教育についての本質的な理解を深める。また幼児教育経営の視点から組織論、評価論への理解も深める。時代の流れの中で豊かな青年期への育ちを支える幼児期の教育について、新教育要領解説を通して、理解を深めながら実践的な理解を図る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを主たる教材とし、講義中心に授業を進める。適宜文献や新聞などから資料を用意、配布し講義内容の理解を助ける。

パワーポイントで講義内容を解説したり、映像資料も活用する。

コロナ感染等の状況次第で遠隔授業になる場合もある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内容の理解を計るために毎回到manabaアンケートを実施し、折々の小テストを活用し不明な点に応えながら進める。

■授業計画

- ①オリエンテーション 自己実現・可能性・根っこ育て
- ②教育とは何か プラトン ルソー
- ③教育とは何か ルソー、コメニウス
- ④「教室のピグマリオン」や「ルサンチマン」
- ⑤大切な原則
- ⑥生涯学習の中の幼児教育－1
- ⑦幼稚園・保育所・認定子ども園
- ⑧幼稚園・保育所・認定子ども園の違いや共通する保育の本質
- ⑨教育課程－1 幼稚園教育要領
- ⑩教育課程－2 意義と編成
- ⑪子どもにとっての遊びの意義
- ⑫幼児教育経営の意義と役割
- ⑬組織における人材育成と人間関係
- ⑭評価論 教育評価・経営評価と改善
- ⑮これからの幼児教育

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

教育の本質を理解しそれに伴って、乳幼児期からの教育の意義と役割について理解を深め、理解した内容を自分の言葉で語り、書き表すことができるようになることを目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP3) 課題を発見し、解決する力

(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

毎回のmanabaアンケート (20%)

小テスト1回 (10%)

定期試験 (50%)

最終回にノート提出 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『幼児教育の原理』（同文書院）

『幼稚園教育要領解説』（他の教科で購入していればそれを使用）

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】授業後には教科書や配布資料の関連内容を読み込み、ノート整理をしながら学習内容の理解を深める。解らないことは図書館等で調べたり教員に質問すること。幼稚園・保育園・施設・子育て支援等ボランティア体験で感じ考えたことを理論と重ねながら学びを進める。

【必要な時間】教科書、配布資料等での予習と授業後のノート整理に2時間以上。

■その他

全時間、対面授業を前提に実施するが、コロナ等の状況によっては遠隔もある。また、これらの状況によって授業計画の一部が変更になることもある。

科目名	日本国憲法[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	姫嶋 瑞穂

■講義の目的および概要

すでに中学・高校で「日本国憲法」を学習しているため、「日本国憲法」については簡単なイメージをもっていると思うが、大学で学ぶ「憲法」は社会科の延長ではない。憲法の条文などを『覚える』のではなく、さまざまな憲法上の問題に対して「何が問題なのか?」「解決するためにどう対処すべきなのか?」を『考える』ことが重要になる。講義では、できる限り身近な具体的事例から憲法の本質に迫るように配慮し、保育者を目指している学生のみでなく、就職して教育・保育の現場に立った後にも役立つよう日本国憲法の基本的知識と考え方について学ぶことに重点をおく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配布したレジュメに沿って、憲法の基本的知識とそれに関連する具体的な憲法問題について講義形式で解説する。さらに、講義に関連した小課題を提出してもらう。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の返却は行わないが、講義内で解説講評する。最終試験については、単位確定日以降、希望する学生には、採点結果を開示説明する。

■授業計画

- ①保育者と日本国憲法
- ②日本国憲法の成立と特徴
- ③基本的人権とは何か
- ④子どもの人権と教育を受ける権利
- ⑤個人の尊重と幸福追求権 Part1
- ⑥個人の尊重と幸福追求権 Part2
- ⑦法の下での平等
- ⑧思想・良心の自由
- ⑨自由に学び表現する権利
- ⑩罪と罰の果てー死刑制度ー
- ⑪裁判員制度
- ⑫社会権
- ⑬平和主義が危ない!
- ⑭憲法の変身ー改憲の可能性ー
- ⑮まとめと筆記試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①日本国憲法の人権規定の意義とそれぞれの規定が抱える問題点について理解すること
- ②基本的知識の習得を目指すだけでなく、国家や社会のあり方について関心を持ち、
自分の考えを表現できるようになること

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

講義内に提出してもらう複数回の課題で40%、日本国憲法の基本的知識を問う論述形式の最終試験で60%の評価を行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用せずに毎回レジュメを配布する

【参考文献】

『新時代の法学・憲法』 建帛社

■授業外学習

2023(令和5)年4月1日

【具体的な内容】

予習の必要はないが、講義ノートを活用し、ポイントを整理してまとめておくこと。わからないことや疑問に思ったことは、次回の講義に質問して確認すること。

【必要な時間】

復習に2時間を目安とする

■その他

身近な憲法問題に関心を持つためにも、新聞に目を通す習慣を身につけてもらいたい。

科目名	保育原理[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

保育についての基礎的な知識について学ぶ。保育の理念や意義を制度や歴史を踏まえて理解する。また現代社会における保育者の役割についても広く学んでいく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式でおこなう。レジュメにそって学習を進め、必要に応じて資料や視覚的教材も使用する。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生からの質問には適宜講義内で回答するので、積極的な質問を期待する。提出した課題については、返却後解説を加える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②保育の意義と理念 保育とはなにか
- ③保育制度と法令① 保育制度の概略
- ④保育制度と法令② 保育にまつわる法令
- ⑤保育制度と法令③ 子どもの権利
- ⑥保育の思想と歴史の変遷① コメニウス、ペスタロッチ、ルソー、オーエン
- ⑦保育の思想と歴史の変遷② フレーベル、モンテッソーリ、エレン・ケイ
- ⑧保育の思想と歴史の変遷③ 東京女子師範学校附属幼稚園と守孤扶独幼稚児保護会
- ⑨保育の思想と歴史の変遷④ 倉橋惣三、戦争と保育
- ⑩保育所保育指針の概要
- ⑪諸外国の保育システム①スウェーデンを例に
- ⑫諸外国の保育システム②ニュージーランドを例に
- ⑬保育の現状と課題①待機児童等概観
- ⑭保育の現状と課題②保育士不足等概観
- ⑮まとめ、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育者の仕事を理解し、保育者になりたいという意識を定着させる。また、保育についての基本的な知識を理解する。特に保育士試験に例年出題されるような基本的な事項について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

日々の確認テスト30%
 定期テスト50%
 コメントシート20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

中坪史典他編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房
 大豆生田啓友他編『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房
 『保育所保育指針解説』

以上のテキストは本講義で使用するほか、常に携帯し他の講義や日々の学修でも活用することを期待する。

【参考文献】

講義内で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業をおこなう前に、必ずテキストの指定箇所を読んでおくこと。
 不明な点、理解が難しい点は必ず質問し、疑問を解消すること。
 質問は授業中、授業外のほか、コメントシートやメール等でも随時受け付ける。

【必要な時間】

事前、事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

■その他

科目名	保育内容(環境)[幼教1年]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小川 久恵

■講義の目的および概要

幼稚園教育要領や保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容「環境」のねらい及び内容について学び、乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解します。また乳幼児を取り巻く「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付けることを目的とします。学生自らが身近な自然・社会環境について興味・関心を持ち、それらを保育の環境づくりに活用できることを目指し、要領・指針の確認や実践事例の紹介、体験活動などを取り入れながら講義をすすめます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

専門事項については講義形式、その他演習、グループワーク、環境づくりの体験などを行います。

本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション：教育・保育における「環境」とは、子どもの育ちと領域「環境」
- ②乳児、1～2歳児の世界と環境
- ③自然に親しみ、植物や生き物に触れる（演習）
- ④自然に親しみ、植物や生き物に触れる（まとめ）
- ⑤ものや道具に関わって遊ぶ（演習）
- ⑥ものや道具に関わって遊ぶ（まとめ）
- ⑦文字や標識、数量や図形に関心を持つ（演習）
- ⑧文字や標識、数量や図形に関心を持つ（まとめ）
- ⑨遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ①（遊びの空間、道具や場所の空間、季節感のある素材・活動）（演習）
- ⑩遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ①（遊びの空間、道具や場所の空間、季節感のある素材・活動）（まとめ）
- ⑪遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ②（生活体験、異年齢の交流）（演習）
- ⑫遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ②（生活体験、異年齢の交流）（まとめ）
- ⑬遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ③（地域に親しむ、日本文化・国際理解）（演習）
- ⑭遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ③（地域に親しむ、日本文化・国際理解）（まとめ）
- ⑮現代の保育の課題と領域「環境」のまとめ／履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・領域「環境」のねらい及び内容について理解する。
- ・乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解し説明できる。
- ・乳幼児の身近な環境に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- （DP1）専門知識・技能を活用する力
- （DP3）課題を発見し、解決する力
- （DP5）能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・小テスト・筆記試験（40%）
- ・グループワークへの取り組み・まとめ（30%）
- ・授業毎の課題レポート・提出物（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『事例で学ぶ保育内容 領域環境』 無藤隆監修 萌文書林

【参考文献】
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・（事前学習）次回の学習内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であればアイデアを考えておきましょう。
- ・（事後学習）テキストや配布資料を振り返り、学習の内容をまとめ整理しておきましょう。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とする。

■その他

- ・日ごろから身近な自然・社会環境に興味・関心をもち、自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣を付けましょう

科目名	保育内容(健康)[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士

■講義の目的および概要

幼稚園指導要領や保育所保育指針の領域「健康」における、乳幼児期の健康の考え方や、ねらいと内容について学ぶとともに、幼児の健康づくりに関わる、心身の発達、生活習慣、安全な生活、運動の発達について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・専門事項については講義形式、その他は演習、グループワーク、指導実践を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 健康とは 健康の概念
- ③ WHOの健康の定義・ヘルスプロモーションの理解
- ④ 子どもの健康をめぐる現状と課題 子どもの健康保育内容〈領域〉健康のねらいと内容
- ⑤ 子どものからだの発達・身体の発育と発達・運動の発達
- ⑥ 子どものこころの発達・心の発達・情緒の発達
- ⑦ 子どものこころの発達・社会性の発達・自己肯定感
- ⑧ 子どもの生活習慣・生活習慣の援助や保育者の役割
- ⑨ 子どもの健康と安全教育と安全への配慮
- ⑩ 子どもの健康と遊び? 幼児期の運動の意義やあり方
- ⑪ 子どもの健康と遊び? 乳児期の運動と遊び 基本的動作の獲得
- ⑫ 運動遊びの展開と体験
- ⑬ 運動遊びの意義と実践? 計画と環境構成
- ⑭ 運動遊びの意義と実践? 実践と評価
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・領域「健康」のねらい及び内容について理解する。
- ・幼児の健康づくりに関わる専門事項について、理解し説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 - ・幼児の健康に関わる専門事項を理解し、それに関わる具体的な指導場面を想定し実践を行うなかで、「子どもの安全を守るための適切な配慮」や「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術」を学ぶことができる。
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
 - ・具体的な指導場面を想定し実践を行うグループワークでは、目標達成のために同僚と協働する機会となる。

■成績評価基準と方法

- ・小テスト・筆記試験 (40%)
- ・保育実践 (30%)
- ・レポート課題・提出物 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康

【参考文献】

- ・ACPガイドブック (日本スポーツ協会)
- ・幼児期運動指針実践ガイドブック (文部科学省)

■授業外学習

【事前学習】 (2時間)

・次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であれば指導のアイデアを考えておく。

【事後学習】 (2時間)

- ・講義や演習後はテキストや配布資料を振り返り小テストに備える。
- ・指導実践後は、自他の指導内容を振り返り考察する。

■その他

日ごろから「子ども(幼児)の健康」に関する出来事や情報に関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣をつけましょう。

科目名	保育内容(言葉)[幼教1年]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	武井 昭也

■講義の目的および概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型の認定こども園・保育要領」に示された「保育内容(言葉)」のねらい及び内容について学ぶとともに、子どもの言語能力獲得過程と保育者に必要な言語表現能力の育成、児童文化財の知識・技法、設定保育指導案作成、社会人としての接遇など保育者としての日本語能力向上を目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストの分担発表を補足する展開で「保育内容(言葉)」の理解を深める。また、絵本の紹介と読み聞かせの実践発表により、発表・コミュニケーション能力を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

分担発表を共有し補足する。
読み聞かせ発表を評価し確認する。

■授業計画

- ①ガイダンス、自己紹介、発表分担
- ②絵本の読み聞かせ、絵本の魅力、読み聞かせ技術
- ③言語とは、日本語の音と機能
- ④言語発達概観
- ⑤身体、人間関係、環境、表現能力とことば
- ⑥子どもと保育者のかかわり(0歳児・1?2歳児)
- ⑦子どもと保育者のかかわり(3?4歳児・5?6歳児)
- ⑧保育課程と保育内容(言葉)、週案、日案
- ⑨特別な配慮が必要な子どものかかわり
- ⑩現代社会と保育(子育て支援、多文化共生社会、情報社会)
- ⑪保育者の役割(保育者のことば、接し方、援助)
- ⑫ことばの環境と文化財
- ⑬絵本を選ぶ、児童文学へ
- ⑭ごっこ遊びとことば
- ⑮確認試験・解説・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 子どもの言語能力獲得過程を説明することができる。
2. 保育者の必要な言語表現運用能力を獲得し実践することができる。
3. 児童文化財と「保育内容(言葉)」領域との関係を意識し設定保育の指導案を作成することができる。
4. 日本語表現能力を向上させ、社会人としての立ち居振る舞いを意識できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)

DP3【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)

■成績評価基準と方法

テキスト分担発表	20%	説明・提示資料・姿勢・感想
絵本紹介・読み聞かせ	20%	絵本の選択・持ち方・声・間合い
意見・感想・質問	15%	
学修内容確認試験	45%	

■テキスト・参考文献

【テキスト】

今井和子『子どもとことばの世界』ミネルヴァ書房

【参考文献】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型の認定こども園・保育要領」

■授業外学習

【具体的な内容】
テキスト分担発表準備
絵本読み聞かせ準備
学修内容確認試験に向けた整理

【必要な時間】
40時間

■その他

積極的な発言・質問・提案を歓迎します。楽しく言葉を学び表現力を豊かにしましょう。

科目名	保育内容(人間関係)[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

乳幼児の保育・教育において育みたい資質・能力を理解し、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等に示された当該領域の及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育者の視点を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
講義形式とグループワークを織り交ぜながら行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説する。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指す。

■授業計画

- 第1回：オリエンテーション、幼児教育の目的と領域人間関係
- 第2回：幼児教育の基本と保育者の役割
- 第3回：領域人間関係と他領域の関係
- 第4回：乳幼児期の発達を踏まえた人間関係
- 第5回：子どもと保育者の関わり
- 第6回：保育内容の理解指導法 ①遊びの中の人との関わり
- 第7回：保育内容の理解指導法 ②生活を通して育つ人との関わり
- 第8回：保育内容の理解指導法 ③個と集団の育ち
- 第9回：人との関わりを見る視点
- 第10回：指導案の構成と指導案作成のポイント
- 第11回：遊びを豊かにする教材の活用法
- 第12回：遊びを豊かにする教材の活用法のグループワーク
- 第13回：領域人間関係を育む保育
- 第14回：保育の評価と改善
- 第15回：幼児教育の現代的課題と領域人間関係、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
・幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域のねらい及び内容を理解する。
・幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定したうえで領域「人間関係」の視点と意義を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・小レポート (10%)
- ・グループワーク (20%)
- ・ワークシート (30%)
- ・まとめのテスト (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

事例で学ぶ保育内容「領域 人間関係」 萌文書林
無藤 隆：監修 岩立 京子：編者代表

【参考文献】
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 次回の授業範囲を事前学習すること。
- ・ 授業後は、復習をすること

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とする。

■その他

科目名	保育臨床
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小岩 季之

■講義の目的および概要

保育の場における様々な出来事、子どもの問題行動、保育者間の連携、保護者との関係などの事例を、保育実務の観点等を応用して読み解く中で、保育者の専門性について考察し、実践的な対応について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習方式で行います。事例や実際の認定こども園での観察から検討します。グループワーク、ディスカッションなどを通して理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業内に行い、場合に応じて次回授業にて補足や情報共有を行う。

■授業計画

- ①保育現場における基礎知識
- ②保育現場における実態把握
- ③保育現場での実態把握と援助の実際
- ④子どもの実態把握と支援計画(1)
- ⑤保育者間の連携
- ⑥保護者支援
- ⑦発達課題をもつ子どもと家庭の支援
- ⑧保育者における専門性の基礎知識
- ⑨保育における遊びと生活
- ⑩保育の生活場面に着目した保育者の専門性
- ⑪保育の遊び場面に着目した保育者の専門性
- ⑫子どもの実態把握と支援計画(2)
- ⑬認定こども園での観察一気になる子の観察
- ⑭認定こども園での観察一保育の実際
- ⑮まとめのレポートと解説・履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

事例を読み解く中で、保育実践の視点や保育者の専門性、保育現場の役割について理解を深め、保育現場で遭遇する問題、保護者との関係に対応する力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

まとめのレポート50%、振り返りシート50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
- 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・保育に関する情報を収集し、現状を確認すること。
- ・授業後は、レジュメを復習し理解を深めること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は各2時間程度。

■その他

授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めるので、事前に学習をした上で2023(令和5)年4月1日
授業に参加をすること。

科目名	保育内容(表現)[幼教1年]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	朝地 信介、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解を深める。子どもの表現を引き出す知識・技術を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

子ども、表現、遊び、保育、保育者などの観点を取り入れながら、図工・造形・音楽・身体等の表現活動に関わる演習（および講義）をオムニバス形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業での活動の成果物・提出物について、教員がコメント等で応える。

■授業計画

- ①オリエンテーション：保育内容（表現）の目的（朝地・田村）
- ②幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」、「表現」の構成要素（朝地）
- ③保育技術の基本（音楽表現・身体表現）（田村）
- ④保育技術の基本（図画工作・造形表現）（朝地）
- ⑤「表現」の指導の実際（音楽表現）（田村）
- ⑥「表現」の指導の実際（図画工作）（朝地）
- ⑦「表現」の指導の実際（身体表現）（田村）
- ⑧「表現」の指導の実際（造形表現）（朝地）
- ⑨「表現」の指導の実際（保育現場での取り組み）（田村）
- ⑩領域「表現」の実践的理解 準備（朝地）
- ⑪領域「表現」の実践的理解（田村）
- ⑫領域「表現」の実践的理解（朝地）
- ⑬領域「表現」の実践的理解（田村）
- ⑭領域「表現」の実践的理解（朝地）
- ⑮授業内レポート、履修カルテ記入（田村・朝地）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。
- ②表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる。
- ③実践の内容を学生が相互に評価し合うことで、各自の保育技術の課題を見つけ、領域「表現」の理解を実践的に深めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①授業内レポート+授業メモ（60点）
第1回課題「表現について」10点、最終レポート30点、授業メモ20点
- ②表現活動実践成果物（40点）
図工・造形（朝地）／音楽・身体（田村）各20点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・新版 遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）※1年生時に購入済

【参考文献】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説書」
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
- ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・制作に必要な資料や図案、材料、音楽・身体表現に必要な資料や歌、楽譜、手遊び、絵本、遊びのレパートリー等を準備する。
- ・配布される教材以外に必要なものは各自で用意する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

■その他

- ・制作や音楽、身体表現の練習に関わる費用は、教員と相談の上可能な限り学科で用意する。
- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。
- ・スマートフォン（もしくはタブレット・パソコン）を使用するので持参する。

科目名	乳児保育 I [幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	岡田 由子

■講義の目的および概要

0・1・2歳児の基本的な発達段階や育ちの特性について学ぶと共に、子どもを取り巻く様々な状況から乳児保育の意義や役割を理解し、子どもや保護者を支えるための保育者の役割や保育の在り方などについて学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、必要に応じて課題に取り組みます。また、映像や保育事例などを活用し、発達の理解が深められるように進めます。

毎回、小レポートや小テストなどで学びの振り返りを行います。

本講義は、保育所等の実務経験のある教員が乳児保育に携わった経験を活かし、保育者としての専門的な視点から乳児保育の理解が深められるようにします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業内で解説したり、返却時にコメントを添えます。

小レポートに質問等の項目を設け、個別回答や全体への解説を適宜行います。

■授業計画

- ①ガイダンス 乳児保育とは
- ②乳児保育の意義と役割
- ③乳児保育の現状と課題
- ④乳児保育の一日の流れと配慮
- ⑤乳児保育の保育内容
- ⑥0歳児の発達と保育①
- ⑦0歳児の発達と保育②
- ⑧1歳児の発達と保育①
- ⑨1歳児の発達と保育②
- ⑩2歳児の発達と保育①
- ⑪2歳児の発達と保育②
- ⑫発達と保育のまとめと振り返り
- ⑬乳児保育の環境①
- ⑭乳児保育の環境②
- ⑮乳児保育における連携

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・0～2歳児の発育や発達を理解し、子どもの姿を捉えることができる。
- ・乳児保育の現状や意義、役割について理解することができる。
- ・乳児保育に求められる保育者の役割や協働の大切さを理解することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

小レポートと小テスト 30%

課題ワーク 20%

定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『やさしい乳児保育』神蔵幸子 金允貞編著 青踏社

【参考文献】

『保育所保育指針』厚生労働省編 フレーベル館

『脳は抱っこで育つ』山口創著 廣済堂出版

『0.1.2歳児の遊びとくらし』鈴木八郎編著 汐見稔幸監修 メイト

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に必ずテキストを読み、疑問点は授業の中で確認したり質問などで解消するようにしてください。

授業後はテキストや講義資料などを基に復習し、学びを深めてください。

子育てや保育に関する様々な情報に関心を持ち、日頃から乳児保育に意識を向けるように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習は、それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

授業計画は、必要に応じて内容の入れ替えや変更を行うことがあります。

科目名	乳児保育Ⅱ[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担当者	岡田 由子

■講義の目的および概要

乳児保育Ⅰで学んだ0～2歳児の発達や特性を踏まえて、生活や遊びの具体的な援助や関わりについて学ぶと共に、健康や安全への配慮、子育て支援の理解を深め、実践力を高めることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習とし、グループワークやディスカッションなどを交えて行います。資料や映像などを参考に具体的な援助の方法を実技を通して学んだり、遊びや製作なども取り入れながら、乳児保育がより身近に感じられるように進めます。毎回、小レポートや小テストなどで学びの振り返りを行います。本講義は、保育所等の実務経験のある教員が乳児保育に携わった経験を活かし、保育者としての専門的な視点から乳児保育の理解を深められるようにします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業内で解説したり、返却時にコメントを添えます。小レポートに質問等の項目を設け、個別回答や全体への解説を適宜行います。

■授業計画

- ①ガイダンス 乳児保育の援助の基本
- ②生活の援助と配慮①
- ③生活の援助と配慮②
- ④生活の援助と配慮③
- ⑤生活の援助と配慮④
- ⑥乳児保育の遊びと環境①
- ⑦乳児保育の遊びと環境②
- ⑧乳児保育の遊びと環境③
- ⑨乳児保育における保健と安全①
- ⑩乳児保育における保健と安全②
- ⑪乳児保育における安全管理
- ⑫乳児保育における子育て支援①
- ⑬乳児保育における子育て支援②
- ⑭乳児保育における保育の計画
- ⑮振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・0～2歳児の発達理解を深め、子どもや保護者への具体的な援助の方法や配慮について理解できる
- ・乳児保育の健康や安全の大切さを理解し、保育者としての役割や適切な行動が理解できる
- ・習得した知識や技術を、保育の場でどのように活用し展開するかを考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

小レポートと小テスト 30%
課題ワーク 30%
期末試験 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『やさしい乳児保育』神蔵幸子 金允貞編著 青踏社

【参考文献】

『保育所保育指針解説』厚生労働省編 フレーベル館
『0.1.2歳児の遊びとくらし』鈴木八郎編著 汐見稔幸監修 メイト

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に指定箇所を読み、疑問点は授業の中で確認したり質問などで解消するようにしてください。
授業後はテキストや講義資料などを基に復習し、学びを深めてください。演習等で得た他者の考えも含めて振り返ることが大切です。
子育てや保育に関する様々な情報に関心を持ち、日頃から乳児保育に意識を向けるように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習は、それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

授業計画は、必要に応じて内容の入れ替えや変更を行うことがあります。

科目名	学びの技法[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	東谷 一彦、森岡 毅

■講義の目的および概要

この科目は、次の2点を主な目的とする。

- ①2年間の短期大学での学習方法などを学び、一人ひとりが短期大学での学びの意味と方法、目標を考え理解すること。
- ②大学で課せられるレポートや実習日誌、指導案、専門職に就いてからのお便りや報告書など、様々な文書を作成できるようになるための考え方と文章力を身につけること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習が中心となる。テーマに沿った課題をおこない、提出する。

提出された課題（提出物等）は点検をしたうえで返却し、不足している点について解説を加え、修正をほどこす。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題はチェックした上で返却し、講義内で解説を加える。

■授業計画

- ①ガイダンス『学びの技法とは』
- ②「学び」のバリエーション：高校までの学びと大学からの学び
- ③図書館がイグニス 図書館の活用
- ④著作権について知る
- ⑤「入学前課題」振り返り①日本語系①
- ⑥「入学前課題」振り返り②日本語系②
- ⑦「入学前課題」振り返り③日本語系③
- ⑧「入学前課題」振り返り④算数・数学・論理系①
- ⑨「入学前課題」振り返り⑤算数・数学・論理系②
- ⑩「入学前課題」振り返り⑥算数・数学・論理系③
- ⑪伝わる文章を書く
- ⑫思考の整理
- ⑬「入学前課題」振り返り⑦読書レポート
- ⑭「入学前課題」振り返り⑧推敲
- ⑮まとめ・履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

大学での学びを身に付ける。

資料から適切な引用をして、論理的に文章を書くことができる。

自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 課題を発見し、解決する力

(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

各回の課題（提出物等）：80点

最終レポート：20点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「入学前課題」

【参考文献】

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』

■授業外学習

【具体的な内容】

入学前課題について振り返りをしておくこと。
社会情勢の変化に伴い、子どもを取り巻く環境も変化する。いろいろな事柄に興味や関心を持ち、自分たちが学ぶべき内容との関わりを知ってほしい。そのために、新聞などを日頃から読んでおくこと。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ1時間程度の学習を必要とする。

■その他

授業での配布物などを整理するため、ファイル（A4版）を用意すること。

科目名	キャリア形成[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担当者	小岩 季之、山内 太郎、森岡 毅、神林 裕子、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

本講義では社会人・保育者になるための学びにはどのような種類や体系があるか、どのような資質・能力が求められるかを理解します。また、社会人・保育者を目指すための指標や課題を自分自身で具体的に考えられることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッション、プレゼンテーション等の演習、発表を中心としながら、講義を織り交ぜます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッション等を通して他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②自分を知る（自己分析：エゴグラム、MBTI診断等）
- ③自分を知る（GW・他者から見た自分）
- ④働くとは（ジェンダーバイアス、「専業主婦志向と男女共同参画」等）
- ⑤自分に必要な資質・ビジネスマナー
- ⑥外部講師：保育職
- ⑦先輩の活動にみる協働性（わくフェス鑑賞）：補講
- ⑧外部講師：社会人・保育者の役割と多様なキャリア
- ⑨社会人・保育者になるための課題GW
- ⑩総キャリア交流授業：準備（全体構想）
- ⑪総キャリア交流授業：準備（発表内容の検討）
- ⑫総キャリア交流授業：準備（発表資料の作成）
- ⑬総キャリア交流授業：発表
- ⑭総キャリア交流授業：総キャリア発表
- ⑮キャリアパスノート・履修カルテ記入

※2回オンデマンド実施予定。

※総キャリアとの交流授業は、総キャリア担当教員と時期を調整する。3回準備、幼教の発表に1回、総キャリアの発表に1回を想定。

※外部講師は2回を想定。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・自分が目指す社会人像、保育者像を具体的に描き、その実現に必要な自己課題を定めることができる。
- ・自分のライフプラン・キャリアプランを描き、目標を定めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP2【コミュニケーション能力】
 DP3【課題を発見し、解決する能力】
 DP4【多様性の理解と協働する力】
 DP5【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ・提出物：計60%
- ・プレゼンテーション：10%
- ・活動での実践報告：10%
- ・キャリアパスノート作成：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

次回授業内容について自分の考えをまとめたり、発表準備をしたりするなどの予習をし、ノート、ファイルにまとめてください。

毎回の授業内容を振り返り、ポイントをノート、ファイルにまとめてください。

【必要な時間】

予習復習はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

- ・総合生活キャリア学科との交流授業を予定しています。
- ・各活動は総合生活キャリア学科や本学科2年生とのスケジュール調整によって前後することがあります。変更がある際は授業内及びmanabaにおいてお知らせしますので、連絡には充分注意をしてください。

科目名	外国語コミュニケーション(基礎)[保育英語]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。また、英語を使う楽しさを実感できるような資料等を適宜配布し、演習形式で学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリント等にまとめて提供する。

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 1 Introductions
- ③ Unit 2 Daily Life
- ④ Unit 3 Weekend Events
- ⑤ Review of Units 1-3
- ⑥ Unit 4 Small Talk
- ⑦ Unit 5 Likes and Dislikes
- ⑧ Unit 6 Student Life
- ⑨ Review of Units 4-6
- ⑩ 確認テスト1 / フィードバック
- ⑪ Unit 7 Family
- ⑫ Unit 8 Friends
- ⑬ Unit 9 Going Out
- ⑭ Review of Units 7-9
- ⑮ 確認テスト2 / フィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ① 毎回の課題等 (40%)
- ② 確認テスト1 (30%)
- ③ 確認テスト2 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・Free Talking, by Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist, Yuki Hasegawa, 出版社：Cengage Learning

【参考文献】

- ・しゃべる英文法, 監修・著 白井恭弘, 出版社：コスモピア株式会社
- ・究極の英語学習法K/Hシステム① 基本編 著 国井信一／橋本敬子, 出版社：アルク
- ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers), by Raymond Murphy, 出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	外国語コミュニケーション(応用)[保育英語]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	デントン ルーカス

■講義の目的および概要

本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。また、英語を使う楽しさを実感できるような資料等を適宜配布し、演習形式で学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリント等にまとめて提供する。

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 10 Restaurants
- ③ Unit 11 Shopping
- ④ Unit 12 Strengths and Weaknesses
- ⑤ Review of Units 10-12
- ⑥ Unit 13 Places
- ⑦ Unit 14 Vacations
- ⑧ Unit 15 Experiences
- ⑨ Review of Units 13-15
- ⑩ 確認テスト1 / フィードバック
- ⑪ Unit 16 Opinions
- ⑫ Unit 17 Health and Illness
- ⑬ Unit 18 The Future
- ⑭ Review of Units 16-18
- ⑮ 確認テスト2 / フィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP2 【コミュニケーション能力】
 DP4 【多様性の理解と協働する力】
 DP5 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等 (20%)
- ②授業内の活動 (20%)
- ③確認テスト1 (40%)
- ④確認テスト2 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Free Talking, by Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist, Yuki Hasegawa,
 出版社 : Cengage Learning

【参考文献】

・しゃべる英文法, 監修・著 白井恭弘、出版社 : コスモピア株式会社
 ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English, with answers), by Raymond Murphy, 出版社 : Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	体育実技(基礎)[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士、柴田 良子

■講義の目的および概要

様々な運動を通し、体を動かす楽しさを体験し、保育者として求められる基礎体力や運動能力、運動の基礎知識を身につけることを目的とする。また生涯にわたる自らの健康づくりに必要な資質や能力を育成する。また、子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの身体活動や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・ 2名の教員によるオムニバス形式で実技を中心に理論を交えて演習を行う。
- ・ 1～8回目(担当教員:林) 9～15回目(担当教員:柴田)
- ・ 講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

- ? ガイダンス 幼児の身体活動や運動の意義
- ? 乳幼児期の運動の発達
- ③ 3歳児の動きの発達と運動遊び
- ④ 4歳児の動きの発達と運動遊び
- ⑤ 5歳児の動きの発達と運動遊び
- ⑥ 「多様な動き」を導き出す運動遊び
- ⑦ 「ボール」を使った運動遊び
- ⑧ 「縄・フープ」を通した運動遊び
- ⑨ 身体表現の意義とその方法
- ⑩ 身体表現における多様な動きの展開①
- ⑪ 身体表現における多様な動きの展開②
- ⑫ グループワーク(創作ダンスの構成)
- ⑬ グループワーク(創作ダンスの振付)
- ⑭ グループワーク(創作ダンスの中間発表)
- ⑮ グループ発表 振り返りと意見交換 レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す。
- ・ 子どもの運動の発達を理解し、運動の基礎知識を身につける。
- ・ チームプレイやグループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める。
- ・ 自らの健康づくりに必要な知識や態度を選択し行動できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 - ・ 子どもの運動の発達や運動の基礎知識を理解することで「子どもの発達段階にあった保育」ができる
- (DP2) コミュニケーション能力
 - ・ グループワークなどの主体的・協働的な集団的活動を通して「社会人として責任ある行動」を学ぶことができる。

■成績評価基準と方法

- ・ 実技試験 30%
- ・ 指導技術達成度 30%
- ・ レポート課題 20%
- ・ 毎回の提出物 20%

■テキスト・参考文献

【使用テキスト】

- ・ ACPガイドブック(日本スポーツ協会)

【参考文献】

- ・ 幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)
- ・ 小学校学習指導要領・体育編(文部科学省)

■授業外学習

【事前学習】(2時間)

・基礎体力向上を意識し、日常の生活の中で体を動かすこと(階段での移動、徒歩での移動など)や、運動やスポーツすることを心がける。

・授業の前日は食事・睡眠をしっかり取り、体調管理を心がける。

【事後学習】(2時間)

・授業で学んだストレッチ、動きや技術を復習する。

・授業を振り返り、疑問や不明な点があれば自分で調べる。

■その他

・運動に適した服装(運動着、運動靴)や準備(タオル、水分、気持ち)をする。

・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。

・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

・幼児や児童と関わる場所(教室やボランティアなど)に積極的に参加し、子どもと触れ合う機会をつくる。

科目名	子どもの音楽(基礎)
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、河口 しほり

■講義の目的および概要

保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と表現を知り、これらを自ら学び続けるための方法を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回の冒頭20分程度を使い、「スキルアップタイム（発声、読譜、リズム等）」をおこないます。

【課題に対するフィードバックの方法】

スキルアップタイムでは実技レベルの確認を行い、その都度学生のレベルに合った適切な助言を行います。また、授業終了時に提出するコミュニケーションシート（一言感想）を基に、次の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。

■授業計画

- ①オリエンテーション：今持っている音楽の力を把握し、今後の授業の受け方に役立てます。
- ②音と音楽の基礎～楽譜の読み方などの基本を知ります。
- ③声の重要性について
- ④声の重要性について(2)
- ⑤子どもの発達と音楽
- ⑥子どもの発達と音楽(2)
- ⑦子どもの発達に合わせた音楽あそび
- ⑧子どもの発達に合わせた音楽あそび(2)
- ⑨コードの仕組み
- ⑩コードの仕組み(2)
- ⑪コードの違いを感じ取る音楽作り
- ⑫コードの違いを感じ取る音楽作り(2)
- ⑬子どもに聴かせる歌（グループワーク）
- ⑭わらべうた・うたあそび
- ⑮授業内試験（実技試験）・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- ①子どもの発達を踏まえた音楽表現のための基礎的な知識について理解している。
- ②子どもの音楽表現の支援に必要な基礎的な音楽知識について理解している。
- ③子どもの音楽表現に必要なピアノの使い方や歌唱についての基本的な技術が身についている。
- ④保育に必要なピアノや歌唱の技能を向上させるための基本的な方法が身についている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

実技試験 50%
レポート 30%
毎時の取り組み 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・子どもの歌200（チャイルド本社） ※複数科目共用
- ・ゆびトレ（本学オリジナル教材）

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

スキルアップタイムの課題は、事前の練習が必要です。毎回指名しますので、必ず練習してきてください。また、事後は扱った教材について演奏や演習の復習が必要です。

【必要な時間】

- ・スキルアップ課題については30分程度、授業内容の下調べに30分程度、合計1時間程度の事前学習が必要です。
- ・事後の復習については、実技的な内容について30分程度、理論的な内容については30分程度の時間を要します。

■その他

音楽用の五線譜ノートを必ず用意してください。
【関連免許資格】幼稚園教諭、保育士、こども音楽療育士

2023(令和5)年4月1日

科目名	幼稚園実習(基礎)
開講期・単位	1年 通年・選択 2単位・実習
担当者	伊藤 桂子、小岩 季之、小川 久恵、朝地 信介、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

本講義では付属認定こども園での実習を通して、保育者としての在り方や子どものかかわり方について課題意識を持って取り組み、保育者に求められる態度・姿勢、資質・能力について知ることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

付属認定こども園での実習と、学内研修をローテーションで行います。学内研修では制作や指導案作成等のグループワーク、また、弾き歌いや模擬保育等の演習、発表を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

本講義は教員・幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークや演習、発表等を通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション・授業計画と学内研修説明、個人票・日誌などの配布
- ②学内研修(名札作成)
- ③学内研修(名札作成、手遊びのローテーション)
- ④学内研修(名札作成、手遊びのローテーション)
- ⑤学内研修(弾き歌い、制作、日誌の書き方、読み聞かせのローテーション)
- ⑥学内研修(弾き歌い、制作、日誌の書き方、読み聞かせのローテーション)
- ⑦学内研修(弾き歌い、制作、日誌の書き方、読み聞かせのローテーション)
- ⑧学内研修(弾き歌い、制作、日誌の書き方、読み聞かせのローテーション)
- ⑨学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑩学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑪学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑫学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑬付属認定こども園実習事前指導
- ⑭付属認定こども園実習①(観察実習)、学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑮付属認定こども園実習①(観察実習)、学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑯学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑰学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑱付属認定こども園実習②(参加実習)、学内研修(弾き歌い、制作、読み聞かせ、指導案のローテーション)
- ⑲付属認定こども園実習②(参加実習)、学内研修(弾き歌い、制作、読み聞かせ、指導案のローテーション)
- ⑳学内研修(弾き歌い、制作、指導案、読み聞かせのローテーション)
- ㉑学内研修(弾き歌い、制作、指導案、読み聞かせのローテーション)
- ㉒付属認定こども園実習③(参加・部分実習)、学内研修(弾き歌い、制作、保育準備のローテーション)
- ㉓付属認定こども園実習③(参加・部分実習)、学内研修(弾き歌い、制作、保育準備のローテーション)
- ㉔学内研修(弾き歌い、制作、指導案、部分実習リハのローテーション)
- ㉕学内研修(弾き歌い、制作、指導案、部分実習リハのローテーション)
- ㉖付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答
- ㉗付属認定こども園一日実習④(指導案による保育の観察、参加・部分実習)
- ㉘付属認定こども園実習⑤(運動会観察)
- ㉙付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答
- 30振り返りとまとめ、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・子どもとかかわることへの関心や意欲をもつことができる。
- ・仲間と意見交換したり、協働で作業したりすることを大切にできる態度が身につく。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

- ・ 付属認定こども園の実習評価（日誌を含む） 30%
- ・ 学内研修(各活動)における提出物・発表等 70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『幼稚園実習（基礎）付属認定こども園実習ハンドブック』
『実習ハンドブック』

【参考文献】

『こどものうた200』（チャイルド社）

■授業外学習

【具体的な内容】

『幼稚園実習(基礎)付属認定こども園実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノートにまとめてください。実習目標の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。
また、学内研修の内容を振り返り、付属認定こども園での実習に向けて知識・技能の向上を目指して復習に取り組んでください

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

- ・ 実習時は指定の実習着(指定ポロシャツ)を着用します。
- ・ 証明写真(付属、保育実習で使用)が必要になります。
- ・ 付属認定こども園での実習の際に昼食が必要になる日があります。
- ・ 制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	保育者論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	田村 めぐみ、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

本講義は、保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけを理解し、保育者の専門性について考察することを目的とする。
また、保育者の協働及び専門的成長について理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いながら、授業の中では、テキストの要点を捉える、学習したことに基づき、自らの考えに重ねて施行する、考えたことを発現する、文章としてまとめる等、グループワークやディスカッションを織り交ぜながら能動的な学修を目指す。
本講義は幼稚園教諭の実務経験のある教員等が、保育者の役割や倫理、制度的な位置づけ等にかかわる視点・知識などを活かして、保育者の専門性とは何かを保育者の視点から理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説をする。またグループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びにつなげていくことを目指す。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②保育者の仕事と役割
- ③保育者の制度的位置づけ
- ④保育者になるための学び（資格・要件）
- ⑤保育者に求められる資質とは
- ⑥職場で学び合う専門家として
- ⑦保育者の資質とは
- ⑧子どもの育ちの危機
- ⑨現代社会の変化と保育者の仕事や課題
- ⑩保育者の専門性
- ⑪保育者の職務
- ⑫地域の中のととの連携・協働
- ⑬保育者になるために必要な経験
- ⑭保育者の実態、諸外国の保育者
- ⑮保育者の仕事や課題、これまでのまとめ、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育者の役割や意義、制度、歴史等に関する基本的知識について、理解することができる。
- ・自分が目指す保育者像を具体的に描くことができる。
- ・保育者として求められるモラル、考え方、マナー、所作について理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、活用する力

■成績評価基準と方法

- ・試験 40%
- ・レポート 30%
- ・授業内提出物 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・秋田喜代美編集代表『今に生きる保育者論』株式会社みらい

【参考文献】

- ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
- ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・春学期で学んだ「保育原理」や「教育原理」などを参考に、保育者の役割や保育・幼児教育の制度などのポイント、また、次回の授業範囲について専門用語の意味などを予習し、ノートにまとめてください。
- ・授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。
- ・付属認定こども園実習や学外保育実習を通して、保育者の子どもや保護者への対応、保育者同士のかわり、保育時間外の仕事などを観察するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習時間はそれぞれ2時間、計4時間を目安とします。

■その他

科目名	子どもの食と栄養(基礎)[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	加藤 聖子

■講義の目的および概要

乳児期、幼児期、学童期の各ライフステージにおける心身の発達と食生活、および生涯発達と食生活の関連についての基本的知識の習得を目指す。また、学んだ知識や理論をふまえて演習を行い、実際の保育現場で実践し発展させることができる力を養うことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式中心で進める。

数回グループワークを行う。

テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料を配布する。

動画教材を利用する。

毎回ミニテストの実施、またはミニレポートの提出を求める。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニテストの採点結果の返却、またミニレポート返却時にコメントすることでフィードバックを行う。

■授業計画

- ① 子どもの心身の健康と食生活の現状と課題
- ② 栄養の基本的知識 (1) 栄養素の種類と機能 (炭水化物・脂質・たんぱく質)
- ③ 栄養の基本的知識 (2) 栄養素の種類と機能 (ミネラル・ビタミン)
- ④ 栄養の基本的知識 (3) 日本人の食事摂取基準
- ⑤ 栄養の基本的知識 (4) 献立と調理の基本
- ⑥ 乳児期の授乳の意義と食生活 (1) 母乳栄養・人工栄養
- ⑦ 乳児期の離乳の意義と食生活 (2) 離乳食の進め方の実際
- ⑧ 幼児期の心身の発達と食生活 (1) 幼児期の食生活 (1~2歳) の特徴とその実践
- ⑨ 幼児期の心身の発達と食生活 (2) 幼児期の食生活 (3~5歳) の特徴とその実践
- ⑩ 幼児期の心身の発達と食生活 (3) 偏食児への対応・間食の意義
- ⑪ 幼児期の心身の発達と食生活 (4) お弁当の献立作成
- ⑫ 幼児期の心身の発達と食生活 (5) 作成した献立に基づいたお弁当作り
- ⑬ 学童期・思春期の心身の発達と食生活
- ⑭ 生涯発達と食生活
- ⑮ 子どもの食と栄養 (基礎) のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 学んだ知識や理論をふまえてライフステージごとに演習を行うことで、実践力を養う。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

筆記試験 (50%) ・ ミニテスト (30%) ・ ミニレポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『最新 保育士養成講座 第8巻 子ども食と栄養』最新保育士養成講座総括編纂委員会編、全国社会福祉協議会、2019

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

講義時に配布した資料等を熟読すること。子どもの食生活の現状と問題点について普段から関心を持ち、ニュース、新聞等により情報を得るように心がけること。

【必要な時間】

予習・復習合わせて45分を目安とする

■その他

11月上旬の保育実習期間中の講義はオンデマンド形式で実施いたします。

科目名	保育内容総論[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小川 久恵

■講義の目的および概要

本講義では保育において育みたい資質・能力を理解し、各領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いながら、授業の中ではテキストの要点を捉える、学習したことに基づき自らの経験に重ねて思考する、考えたことを発言する、文章としてまとめる等、グループワークやディスカッションを織り交ぜながら能動的な学修を目指します。

本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション、保育内容の総合的把握
- ②各領域のねらい及び内容並びに全体構造の理解（保育内容5領域のとらえ方）
- ③幼稚園・保育所・認定こども園の一日の流れと保育内容
- ④子どもの発達特性と保育内容 0・1歳児
- ⑤子どもの発達特性と保育内容 2・3歳児
- ⑥子どもの発達特性と保育内容 4・5歳児
- ⑦保育内容の展開(養護と教育、環境、遊び)
- ⑧保育内容の展開(生活や発達の連続性、家庭・地域・小学校との連携)
- ⑨保育内容と保育の計画・観察・記録・評価 授業内試験
- ⑩模擬保育①各領域のねらい及び内容の理解
- ⑪模擬保育②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法
- ⑫模擬保育③幼児の認識や思考、動きを考慮した指導案作成
- ⑬模擬保育④模擬保育と振り返り
- ⑭多様な保育の展開と保育内容
- ⑮保育内容の歴史的変遷と今後の課題／履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の5領域を全体的な構造として理解し、各領域のねらい及び内容を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・試験・・・30%
- ・授業の振り返り(コメントシート等)・・・20%
- ・模擬保育・・・20%
- ・成果物(レポート)・・・30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

編著 咲間まり子 『コンパス 保育内容総論 第2版』 建帛社

【参考文献】

『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 フレーベル館
『幼稚園教育要領解説書』 文部科学省編 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習しノートにまとめてください。
- ・ 授業内で前回の授業内容の復習をしますので、授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。
- ・ 付属認定こども園実習や身近な子どもとのかかわりなどを通して、子どもの発達段階や保育者の対応を観察するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は合わせて1時間を目安とします。

■その他

科目名	保育実習 I [幼教]
開講期・単位	1年 通年・選択 4単位・実習
担当者	小岩 季之、山内 太郎、朝地 信介、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

保育所・各種児童福祉施設での実習を通して保育士として必要な知識・技能を身につけ、学内における学習と関連付けて学ぶ。特に実習後の学習への動機づけをする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

内容は、実習先によって異なる。

【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目において振り返りを行う。

■授業計画

保育所 10日間、施設 10日間の実習を行う。

保育所、施設理解から始まり、子どもや施設の利用者とのかかわりを通して、参加、部分的な責任実習を行う。実習の内容については実習先によって多少異なる。

- ・事前訪問（オリエンテーション）・・・スケジュールの確認、実習のための諸注意
- ・観察参加実習・・・子どもたち、利用者とともに生活しながら観察・援助をする。
- ・部分実習・・・絵本の読み聞かせ、ゲーム、制作など保育のなかの一部分を責任をもって担う。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育所・施設での実習が終了することで単位の認定が行われる。それぞれの実習先で充実した実習を行うことが最大の目標であるが、さらに2年次での発展学習への課題を明確にすることが求められる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業への取り組み 20%

提出物 30%

評価表 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『実習ハンドブック』

【参考文献】

適宜提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

健康管理をしっかりとる。

挨拶など基本的な対人関係のマナーをしっかりと身につけておく。

【必要な時間】

事前・事後の学修は合わせて1時間を目安とする。

■その他

5月頃に実習費29,000円（2021年度実績）の納入が必要になります。

科目名	保育実習指導 I [幼教]
開講期・単位	1年 通年・選択 2単位・演習
担当者	小岩 季之、山内 太郎、朝地 信介、深浦 尚子、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

保育所・各種福祉施設での実習を有意義なものにするために、事前及び事後の指導として必要な知識、技術を習得するとともに、必要な諸手続きについて理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式でおこなう。また、重要事項等の確認や演習等で必要な場合はグループにわかれて演習形式でおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の冒頭に適宜小テストを行い、理解度を確認する。

■授業計画

<全体事前指導>

- ①オリエンテーション（保育実習とは何か・全体のスケジュール／実習費のことなど）
- ②実習生としての心得
- ③免疫について

<施設実習事前指導>

- ④実習に向けた準備①（書類作成）
- ⑤実習施設種別ごとの理解①（養護系）
- ⑥実習施設種別ごとの理解②（障害児系）
- ⑦実習施設種別ごとの理解③（障害者支援施設）
- ⑧実習先の発表／日誌等配布
- ⑨実習における記録について①（言葉の使い方）
- ⑩実習における記録について②（施設実習日誌の書き方）
- ⑪実習に向けた準備②（実習事前事後の流れ確認／礼状の書き方・電話のかけ方など）
- ⑫実習課題の検討（Q&A準備）／巡回教員発表
- ⑬実習直前Q&A

<施設実習事後指導>

- ⑭実習報告会

<保育所実習事前指導>

- ⑮実習に向けた準備③（保育所実習の事前事後の流れ）／日誌等配布／実習先発表
- ⑯保育所の日
- ⑰実習における記録について①（保育所実習日誌の書き方）／オリエンテーション確認
- ⑱実習における記録について②（指導案の書き方）／巡回教員発表
- ⑲実習グッズ紹介
- ⑳実習課題の検討
- ㉑実習直前Q&A

<保育所実習事後指導>

- 22実習の振り返り／実習コースについて

<全体事後指導>

- 23実習報告書作成／履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

【到達目標】

実習を円滑に行うために、必要な知識・技術を身につける。
実習を開始するための諸手続きと実習終了後の諸手続きの必要性を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し解決する力

■成績評価基準と方法

提出物：50%

課題：20%

小テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『実習ハンドブック』
『これからの時代の保育者養成・実習ガイド：学生・養成校・実習園がともに学ぶ』
大豆生田啓友ほか編著 中央法規

【参考文献】
保育所保育指針

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習として実習ハンドブックの毎回のテーマに該当する箇所を目を通しておくこと
事後学習として配布資料等を読み返しておくこと

【必要な時間】
事前・事後、それぞれ1時間程度で合計2時間を目安とする。

■その他

科目名	子どもの遊び演習
開講期・単位	1年 通年・必修 1単位・演習
担当者	小岩 季之、山内 太郎、神林 裕子、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

学生自身が遊びを体験し、楽しむことで保育者としての基礎をつくることを目的とする。幼児教育における遊びの重要性を理解し、子どもにとってより楽しく、意義のある遊びについて考えていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
実践を重視し、学生自身が授業構築に直接関わり、遊びについて検討していく。

【課題に対するフィードバックの方法】
学生から提示された疑問等には講義内で対応していく。

■授業計画

- ①ガイダンス：科目の意義、遊びについて
 - ②運動あそび
 - ③伝統遊び：けん玉
 - ④伝統遊び：コマ
 - ⑤想像力・妄想力をふくらませる
 - ⑥手遊び・わらべうた
 - ⑦ダンス
 - ⑧子どもの広場：企画
 - ⑨子どもの広場：作業
 - ⑩子どもの広場：確認
 - ⑪子どもの広場：実践①
 - ⑫子どもの広場：実践②
 - ⑬伝統遊び：竹馬
 - ⑭まとめ・履修カルテの記入
 - ⑮（冬開講）雪で遊ぼう
- なお、天候等による順番が前後することがある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
子どもの遊びを自分自身が体験し、その楽しさ、難しさを実感する。
子どもが楽しめる遊びを考え、実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

授業各回の実践レポート 70%
まとめのレポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『新版遊びの指導 乳・幼児編』幼少年教育研究所編、同文書院

【参考文献】
必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】
子どもの頃に体験した遊びを思い出しておく。また、保護者や身近な大人に、子どもの頃の遊び経験を聞いておくと良い。
また、授業で体験して終わるのではなく、継続的に実践し続けることを望む。

【必要な時間】
授業後、1時間以上の振り返りを求める。

■その他

※15回目は2月におこなう。
※実際に身体を動かすことが多いため、原則として動きやすい服装で参加すること。
その他、必要な準備は授業内で指示する。

科目名	ことばの基礎
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	東谷 一彦、森岡 毅

■講義の目的および概要

ことばには様々な働きや役割がある。この授業では、ことばの様々な働きや役割について具体的に理解し、「読む・聞く・書く・話す」といった現実的な場面でことばを使いこなすための基礎を身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ことばについての理解とともに、「読む・聞く・書く・話す」といった領域の演習を盛り込み、例えばグループワークなど、知識・技能を活用する能力を育てるための実践的な内容も取り入れる。また、漢字の知識や保育に関する語彙力を高めるために、小テストを毎回実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、資料を配付する。

■授業計画

- ①オリエンテーション・話しことばと書きことばの違いについて(1)
- ②話しことばと書きことばの違いについて(2)
- ③正しい文章表現について(1)
- ④正しい文章表現について(2)
- ⑤要約文
- ⑥意見文(1)
- ⑦意見文(2)
- ⑧意見文(3)
- ⑨敬語について(1)
- ⑩敬語について(2)
- ⑪敬語について(3)
- ⑫敬語について(4)
- ⑬通信文について(1)
- ⑭通信文について(2)
- ⑮メール文について・表現活動についてのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ことばの様々な働きや役割について具体的に理解し、幼児教育に関わる者として必要な知識・技能としてのことばの基礎を身に付け、適切な表現ができること。例えば、保育・幼稚園等における実習での日誌の作成などで学習したことが発揮できること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

定期試験50%

提出物等40%

- ①自己紹介文、要約文、手紙文、メール文、意見文などの提出
- ②ワークシート・振り返りシートの提出

小テスト10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。適宜、プリントを配布。

【参考文献】

保育所保育指針(H29)
ポケット国語辞典(三省堂)

■授業外学習

【具体的な内容】

漢字やことばの知識を身に付けるための学習も行うが、日頃から新聞や本を読むなど、活字に親しみ、「ことば」について意識すること。また、授業内容については、しっかり振り返りを行うことが必要である。

【必要な時間】

予習・復習として、それぞれ2時間程度の学習を目安とする。

■その他

授業での配布物等を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。

科目名	ことばの力
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	東谷 一彦

■講義の目的および概要

春学期に受講した「ことばの基礎」の授業内容を踏まえ、ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、保育者として社会で役立つことのできる生きたことばの使い手になることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、知識の活用を促すための応用的な内容を中心として授業を行う。例えば、絵本や紙芝居について深く学び、絵本の「読み聞かせ」や「紙芝居」の制作と実演などを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、資料を配付する。

■授業計画

- ①オリエンテーション・「絵本」について
- ②「絵本」の書評について
- ③「絵本」の書評〔実作〕
- ④「絵本」の読み聞かせについて
- ⑤「絵本」の読み聞かせ〔実演〕
- ⑥子どもの発達と「絵本」
- ⑦「紙芝居」について
- ⑧「紙芝居」づくり〔構想〕
- ⑨「紙芝居」づくり〔作画〕
- ⑩「紙芝居」づくり〔台本〕
- ⑪「紙芝居」づくり〔演出〕
- ⑫「紙芝居」発表
- ⑬「敬語」について（1）
- ⑭「敬語」について（2）
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、幼児教育に関わる者として、十分に現場で生かすことのできる知識・技能を身に付ける。例えば、絵本の読み聞かせや紙芝居ができる、正しい言葉遣いができる、など。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

創作（書評、紙芝居創作など） 30%
発表（読み聞かせ、紙芝居実演など） 30%
小テスト・提出物等 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

保育・教育ネオシリーズ20「保育内容・言葉」太田光洋編著（同文書院）
※このテキストは2年次の「保育内容（言葉）」でも使用する。その他、適宜プリントを配布。

【参考文献】

「保育の基本用語」（わかば社）

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から新聞や本などで活字に親しみ、「ことば」について意識すること。授業内容について、家庭でしっかりと振り返りを行うこと。課題が授業内で完成しなかった場合は、授業外学習で完成させ、提出すること。

【必要な時間】

- ・小テストの準備などを含めて、予習・復習にそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

授業での配布物等を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。

科目名	ピアノ基礎演習 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	二口 英恵、伊藤 桂子、佐々木 沙織、小杉 恵、竹田 有希、長谷部 祥子

■講義の目的および概要

保育現場で必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

- オリエンテーション（グループ分け）
- ～13. 下記の①～⑬の指導項目をテキストに関連させて指導します。
 - 読譜（拍子）
 - 読譜（リズム）
 - 読譜（ト音譜表）
 - 読譜（ヘ音譜表）
 - ハ長調の和音
 - ヘ長調の和音
 - ト長調の和音
 - 分散和音など様々な伴奏型
 - 初見視奏
 - 簡易な即興演奏
 - 自由曲による表現
 - 子どもの歌の弾き歌い
 - 生活の歌、行事の歌、季節の歌
- 授業内試験
- 春学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- 簡単なメロディを初見で弾くことができる。
- 簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（初見視奏、伴奏付け：20%）：合計70%
 B: 毎時の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- 『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- 『こどものうた200（チャイルド本社）』
- 『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科目名	ピアノ基礎演習 I [再履修]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子

■講義の目的および概要

保育現場で必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

1. オリエンテーション（グループ分け）
2. ～13. 下記の①～⑬の指導項目をテキストに関連させて指導します。
 - ①読譜（拍子）
 - ②読譜（リズム）
 - ③読譜（ト音譜表）
 - ④読譜（ヘ音譜表）
 - ⑤ハ長調の和音
 - ⑥ヘ長調の和音
 - ⑦ト長調の和音
 - ⑧分散和音など様々な伴奏型
 - ⑨初見視奏
 - ⑩簡易な即興演奏
 - ⑪自由曲による表現
 - ⑫子どもの歌の弾き歌い
 - ⑬生活の歌、行事の歌、季節の歌
14. 授業内試験
15. 春学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。
- ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（初見視奏、伴奏付け：20%）：合計70%
 B: 毎時の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科目名	ピアノ基礎演習Ⅱ
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	二口 英恵、伊藤 桂子、佐々木 沙織、小杉 恵、竹田 有希、長谷部 祥子

■講義の目的および概要

「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身に付けます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々の経験や習熟度に応じてそれぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で、細やかに指導を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

1. オリエンテーション（習熟度と秋学期の目標の確認）
2. ～13. 下記の①～⑩の課題を習熟度に応じて指導します。
- ①ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の主要和音
- ②ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の和音の変奏
- ③子どもの歌の弾き歌い
- ④初見視奏
- ⑤伴奏付け
- ⑥移調
- ⑦小品の演奏
- ⑧保育実践のための即興
- ⑨就職試験対応曲
- ⑩様々な演奏表現について
14. 授業内試験
15. 秋学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- ②子どもの歌に伴奏を付けたり、移調したり、アレンジすることができる。
- ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（移調演奏、伴奏付け：20%）：合計70%
 B: 毎時の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。
幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科目名	子どもの図画工作
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	朝地 信介

■講義の目的および概要

作品制作を通してつくってあそぶ楽しさを感じると共に、保育者として必要な図画工作の基礎的技術と実践法を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された図画工作の学習内容の理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

資料・参考作品を基に課題の説明を行い、主に制作実習室と学内、大学敷地内をフィールドとして作品を制作・鑑賞する。また作品や配布物を綴じてポートフォリオを作成し、授業内容の振り返りと学生個人の資料とする。授業冒頭には学生相互の制作実践（折り紙等・プレゼンテーション方式）を行う。

日本画家・美術教諭としての実務経験を元にした内容を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

制作した作品の鑑賞や制作実践での学生同士の相互評価と教員からのアドバイスを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。

■授業計画

- ①オリエンテーション／子どもの表現、自分の表現
- ②素材を見る、感じる（いろいろな紙とあそび）
- ③素材を見る、感じる（いろいろな描画用具とあそび）
- ④基礎技法の造形あそび（絵具）
- ⑤基礎技法の造形あそび（クレヨン）
- ⑥基礎技法の造形あそび（鉛筆・色鉛筆）
- ⑦基礎技法の造形あそび（色紙）
- ⑧基礎技法の造形あそび（様々な材料）
- ⑨造形のための素材活用（折り紙・装飾）
- ⑩造形のための素材活用（自然素材）
- ⑪技法・素材を生かした作品制作（自分を表現お面づくり／制作）
- ⑫技法・素材を生かした作品制作（自分を表現お面づくり／展示・鑑賞）
- ⑬技法・素材を生かした作品制作（おもしろ架空生物をつくる／調べ・構想）
- ⑭技法・素材を生かした作品制作（おもしろ架空生物をつくる／下絵）
- ⑮技法・素材を生かした作品制作（おもしろ架空生物をつくる／着彩）／履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①作品制作を通して自分なりに感じたことや考えたことを表現することができる。
- ②制作した作品や発表を互いに鑑賞することで様々な感性や表現を知り、理解することができる。
- ③造形の基本を学び、作品制作に必要な技術を身に付けることができる。
- ④作品制作を振り返り、自らの表現や制作方法の課題を見つけ把握することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：70%
- ・毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説書」
- ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品を提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・制作に必要な資料や図案、モチーフを準備する。
- ・配布される材料以外に必要なものは各自で用意する。
- ・折り紙のレパートリーを調べる。
- ・期日までに提出できるよう各自で制作を進める。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

■その他

- ・図画工作、造形表現、その他演習や実習で使用するための教材を受講年度初めに全員購入する。(絵の具、はさみ、カッター、クレヨン、のり、折り紙等 4,000円)
- ・スマートフォン(もしくはタブレット・パソコン)を使用するので持参する。

科目名	子ども家庭福祉[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	亀山 裕樹

■講義の目的および概要

保育士とは「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」（児童福祉法第18条の4）である。そこで本講義では、子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察していく上で不可欠となる、子ども・家族の生活や福祉に関する基礎的な知識を学修していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義方法は以下のとおりである。

1) 講義形式を基本とする。ただし必要に応じて視聴覚教材を用いることもある。

2) レジュメとその他資料を配布する。

3) リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーに対しては、必要に応じて応答する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたリアクションペーパーについては、毎回講義の前半に応答・共有する時間を設ける。

■授業計画

- ① 子ども家庭福祉の理念
授業の進め方を説明したのち、子ども家庭福祉の理念や意義を確認する。
- ② 子ども家庭福祉の成立と展開
主にイギリスや日本における子ども家庭福祉の歴史の変遷を確認する。
- ③ 子どもの人権
子どもへの視点の変化、近代の子どもの権利の動向、子どもの権利条約の理念などを確認する。
- ④ 現代社会と子ども家庭福祉
少子高齢社会からみえる子ども・家族をとりまく現状とその変化を確認する。
- ⑤ まとめとテスト（1）
①～④までのまとめとテストをおこなう。
- ⑥ 子ども・家族と貧困
子どもの相対的貧困率の概要、子どもの貧困の構造的背景などを確認する。
- ⑦ 子ども・家族と障害
障害を捉える視点、障害のある子ども・家族に関する制度と支援のしくみを確認し、障害のある子どもの育ちと家族を支える支援のあり方を考える。
- ⑧ 子ども・家族と虐待
子ども虐待の定義と現状、家族の不利・困難の重なり合いを確認する。
- ⑨ 社会的養護
社会的養護とは、社会的養護に係わる施設や里親等、社会的養護の課題について確認する。
- ⑩ 子ども・家族と非行
非行少年のイメージと実際、少年保護の理念と保護処分などを確認したのち、非行少年支援のあり方を考える。
- ⑪ まとめとテスト（2）
⑥～⑩までのまとめとテストをおこなう。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察していく上で不可欠となるであろう、子ども・家族の生活や福祉に関する基礎的な知識を習得することである。具体的には以下のとおりである。

1) 子ども・家族を取り巻く現代社会について理解する。

2) 子ども・家族の生活と困難について理解する。

3) 子ども・家族を支える社会的仕組みについて理解する。

4) 上記1)～3)を理解した上で、子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

成績評価基準と方法は以下のとおりである。

- 1) テスト (70%)
- 2) リアクションペーパー (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

原則使用しない。講義方法2) のとおりレジюмеと関係資料を配布して講義を行う。

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では「子ども家庭福祉」「児童福祉」と冠したテキストを購読するとよい。適宜紹介する参考文献も併せて読まれたい。また、常日頃からニュース・新聞報道に目を通されるとよい。事後学習では配布されたレジюмеやその他資料を見直しながらノートを作成するとよい。

【必要な時間】

事前事後学習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

その他注意してほしいことは以下のとおり。

- 1) 十分に事前事後学習をしておくこと。
- 2) 授業態度としては常に「問い」をもって臨むこと。
- 3) 他受講生の権利保護の観点から私語は慎むこと。

科目名	社会的養護 I [幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	山内 太郎

■講義の目的および概要

本講義の目的は大きく二つある。一つは社会的養護が必要な子どもの存在について理解することである。もう一つは保育所以外の児童福祉施設職員として保育士がどのような役割を果たしているのか理解することである。また、こうした取り組みが必要となる社会的背景や家族が置かれた状況についても解説する

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを中心に進めていくが、必要に応じて配布資料や視聴覚資料を使って内容を補っていく。

また、必要に応じて発言を求めたり、グループ討議を行う場合がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義の終盤に小レポートを課し、内容に応じて適宜次回の授業の冒頭で回答する。

■授業計画

1. 現代社会における社会的養護の意義と変遷
2. 子どもの人権擁護と社会的養護
3. 家庭の機能と社会的養護
4. 社会的養護の基本原則Ⅰ 養育—日常生活支援
5. 社会的養護の基本原則Ⅱ 保護—自己実現に向けた支援
6. 社会的養護の基本原則Ⅲ 子どもであることへの回復—治療的支援
7. 社会的養護の基本原則Ⅳ 生活文化と生活力の習得—自立支援
8. 社会的養護の基本原則Ⅴ 生命倫理観の醸成—生と性の倫理
9. 社会的養護の制度と実施体系
10. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ—乳児院と児童養護施設
11. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ—障害児の入所施設
12. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ—児童自立支援施設と児童心理治療施設
13. 家庭養護の特徴・対象・形態—里親とファミリーホーム
14. 社会的養護の現状と課題
15. まとめと履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

児童福祉施設の機能について理解できるとともに施設保育士として子どもとどのように向き合うべきか考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験による評価50%
 レポート課題20%
 毎時間後の小レポート提出30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『児童の福祉を支える社会的養護 I』吉田真理編著 萌文書林

【参考文献】

講義中に適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として該当する箇所についてはテキストを読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料等を読み返して、ポイントや重要事項等を復習すること。

【必要な時間】

それぞれ2時間程度が目安である。

■その他

科目名	特別支援教育・保育(基礎)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小岩 季之

■講義の目的および概要

特別支援教育・保育に関する知見と今日的な課題を知り、特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒の理解と実践、具体的な支援方法について学び、基礎的な理解を深め、保育における合理的配慮や支援の在り方について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義を基本とし、必要に応じて視聴覚教材で理解を深め、グループワーク等で能動的な学習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは授業内で行い、場合に応じて次回授業にて補足や情報共有を行う。

■授業計画

- ①「障害」とは何か
- ②「障害」の概念(1)ICFの概念枠組み
- ③「障害」の概念(2)インクルーシブ教育システムと合理的配慮
- ④発達障害の理解と支援
- ⑤知的障害の理解と支援
- ⑥言語障害の理解と支援
- ⑦肢体不自由の理解と支援
- ⑧聴覚障害の理解と支援
- ⑨視覚障害の理解と支援
- ⑩重症心身障害・重複障害の理解と支援
- ⑪病弱児の理解と支援
- ⑫発達を目指した様々な連携①地域、専門職
- ⑬小学校との接続
- ⑭「特別支援」を必要とする子どもたち
- ⑮まとめ・履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 特別支援教育・保育に関する制度の理解や仕組みを理解している。
2. 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、援助・支援の具体的な方法について述べることができる。
3. 家庭への支援や関係機関との連携・協働について説明ができる。
4. 特別支援教育・保育に関する現状と課題について述べるができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

中間レポート：30%
 定期試験：50%
 提出物：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』小林徹・栗林宣夫編 みらい

【参考文献】

『障害のある子どもの教育支援の手引き～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』文部科学省 ジアース教育新社

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・「障害」に関する現状について情報収集を行い、特別支援教育・保育に関連付けながら学習を深めること。
- ・授業内で用いた資料を復習し、疑問点がある際には情報収集や次回の授業で質問をする等をして疑問を残さないようにすること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は各1時間以上を目安とする。

■その他

科目名	保育の心理学[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

保育実践にかかわる心理学の知識の習得を目的とする。その際に、子どもが人とのかかわりを通して発達することを理解する。また、発達とは子どもだけではなく、生涯発達という観点から発達のプロセスについて保育との関連で理解し考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

義形式で行うが、必要に応じてグループディスカッションを行う。レスポンスでの質問などについては、次回の授業で回答する

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、講義中に行い、提出後コメントをつけて学生に返却を行う

■授業計画

- ①オリエンテーション 発達とは
- ②発達と環境
- ③発達の理論
- ④身体機能と運動機能の発達
- ⑤認知の発達
- ⑥言語の発達
- ⑦社会性・情動の発達
- ⑧学びとは
- ⑨主体的学びと意欲
- ⑩生活・学び・遊び
- ⑪学びの過程と支援
- ⑫集団・仲間関係
- ⑬学びの評価
- ⑭発達や学びに困難を抱える子どもたち
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人の発達を多様な側面から学ぶことで、子どもの発達の特性を理解し、保育をすすめる際の子どもの理解ができるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

授業コミュニケーションシート 20%
中間レポート 40%
定期テスト 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「子どもの姿から考える 保育の心理学」 編 結城孝治 遠藤順子 請川滋大 アイ・ケイコーポレーション

【参考文献】

保育所保育指針 幼稚園教育要領 連携型認定子ども園教育・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

教科書を読んだりするなどの予習、復習が必要です

【必要な時間】

それぞれ、おおよそ2時間くらい

■その他

科目名	保育英語 I
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための基本的な英語表現を身に付ける。また、英語の歌や絵本の読み聞かせ等の活動の学習を通して、積極的に保育活動に英語を取り入れ、英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる基本的な英語表現を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②児童英語に関わる事項、幼保英検について
- ③第2言語習得理論(1)
- ④第2言語習得理論(2)
- ⑤児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 1)
- ⑥児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 2)
- ⑦児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 3)
- ⑧確認テスト、児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 4)
- ⑨児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 5)
- ⑩児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 6)
- ⑪フィールドワーク(予定)
- ⑫フィールドワークの振り返り、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 7)
- ⑬児童英語のキーワード、英語のゲーム等、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 8)
- ⑭児童英語のキーワード、英語のゲーム等、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 9)
- ⑮確認テスト、これまでのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等(30%)
- ②小テスト等の課題(30%)
- ③確認テスト(各2回 20%、合計40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
【テキスト】
『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
その他、適宜、授業で配布する。

【参考文献】
『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ
『幼保英検3級ワークブック(改訂版)』ブックフォレ
『幼保英検2級ワークブック(改訂版)』ブックフォレ

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・Be helpful.
- ・Be friendly.
- ・Be active.
- ・Be creative.
- ・Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	保育英語Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	デントン ルーカス、神林 裕子

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅰを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための基本的な英語表現を身に付ける。また、英語の歌や絵本の読み聞かせ等の英語学習における留意点を学び、マイクロティーチングに取り組む。マイクロティーチングを通して、積極的に保育活動に英語を取り入れ、て英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる基本的な指導力を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②児童英語のキーワード、小学校との連携、幼保英検について
- ③児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)
- ④児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)
- ⑤児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)
- ⑥児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)
- ⑦児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 14)
- ⑧確認テスト、児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ
- ⑨児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 15)
- ⑩児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 16)
- ⑪児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 17)
- ⑫マイクロティーチングの準備、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 18)
- ⑬マイクロティーチング 1
- ⑭マイクロティーチング 2
- ⑮確認テスト、マイクロティーチング (振り返り)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等 (30%)
- ②確認テスト (各2回 20%、合計40%)
- ③マイクロティーチング (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
その他、適宜、授業で配布する。

【参考文献】
『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。
※幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。

科目名	海外研修(事前・事後指導を含む)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

国際的視野をもつ保育者を育成するために、海外研修をオーストラリアのサザンクロス大学 (Southern Cross University) において行う (予定)。この研修の目的は、グローバルな視点で保育に係る様々な事象を捉えて思考すること、サザンクロス大学の英語教師等との交流を通して英語でのコミュニケーションの幅を広げること、ホームステイで異文化コミュニケーション能力と自立心を養うことなどである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習を通して、自分自身の研究課題を設定し、研修後には研究課題の発表をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、研究課題については研究発表の際にフィードバックをする。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習
- ③海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習、研究課題の設定
- ④海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習、研究課題の設定
- ⑤海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑥海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑦海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑧海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑨海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑩海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑪海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑫海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑬研究課題のまとめ
- ⑭研究課題のまとめ
- ⑮研究課題の発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

サザンクロス大学の英語教師等、ホームステイ先のホストファミリーとの交流を通して、自分自分を見つめ直すとともに、他者理解を深めながら、英語でコミュニケーションを図ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・海外での大学における取組 60%
- ・帰国前後の研究課題への取組 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、配付する。

【参考文献】

『改訂版 英語で日本紹介ハンドブック』松本 美江 (著)、アルク

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・海外での大学での講義、ホームステイ先での場面や状況を想定し、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう英語表現を習得しましょう。
- ・日本、北海道、札幌、自分自身等について、英語で紹介できるようまとめておきましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・海外研修の実施の最終判断は8月末となります。新型コロナウイルス感染症対策によって、研修先の変更等もあります。変更がある際は授業内及びmanabaにおいてお知らせしますので、連絡には充分注意をしてください。

科目名	保育指導法(人間関係)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小川 久恵

■講義の目的および概要

本講義では、領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めます。
 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

多様な事例についてグループディスカッションやロールプレイを通して考え、総合的に保育を捉える学びを深めます。

本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場面を想定して構想する方法を理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッション、ロールプレイを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①領域「人間関係」のねらい及び内容について
- ②乳幼児の活動の姿と人間関係の発達の過程
- ③領域「人間関係」の実践①自立心を育む
- ④領域「人間関係」の実践②個と集団の育ち
- ⑤領域「人間関係」の実践③協同性を育む
- ⑥領域「人間関係」の実践④道徳性、規範意識の芽生えを育む
- ⑦領域「人間関係」の実践⑤社会生活との関わり
- ⑧領域「人間関係」の実践⑥幼児期と就学以降の学びの連続性
- ⑨保育指導計画の立案と検討①協同的な遊び
- ⑩保育指導計画の立案と検討②ルールのある遊び
- ⑪保育指導計画の立案と検討③幼保小の交流活動
- ⑫保育指導計画の立案と検討④多様な人、多様な子どもたちとのかかわり
- ⑬領域「人間関係」を育む保育実践①3歳未満児
- ⑭領域「人間関係」を育む保育実践②3歳以上児
- ⑮保育実践の振り返り、まとめ／履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。
 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 ・模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

グループワークレポート (20%)、指導案 (20%)
 模擬保育・ワークシート (30%)、まとめレポート (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

保育内容「人間関係」(アクティベート保育学8)
 汐見稔幸監修、大豆生田啓友著
 ミネルヴァ書房

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 次回の授業範囲を事前学習すること。
- ・ 指導案等については、授業で学習したことをもとに、各自が完成させて提出すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とする。

■その他

- ・ グループワークには保育のイメージを構築しながら、積極的に参加すること。
- ・ 欠席した場合は、授業のプリント等を速やかに取りに来ること。

科目名	保育指導法(健康)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士

■講義の目的および概要

幼稚園指導要領や保育所保育指針の領域「健康」における、乳幼児期の健康の考え方や、ねらいと内容について理解を深めるとともに、幼児の健康づくりに関わる具体的な指導場面を想定し、指導案の作成、情報機器の活用、教材研究や模擬授業等を通して、保育を構想し実践する力を身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・専門事項については講義形式、その他は演習、グループワーク、指導実践を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

- ?幼稚園教育要領における領域「健康」の全体像をつかむ
幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容の理解
?基本的な生活習慣の形成を支える援助
食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助
- ③健康管理と安全能力を育む援助
健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助及び基本的な生活習慣の確立と健康指導の実際
 - ④幼児期運動指針より学ぶ(教材研究1)
幼児期における運動の意義と運動遊びの実際(多様な動きの視点から)
 - ⑤健康な心と体を育む保育の構想(計画立案・模擬保育1)
幼児の動機付けや意欲などを配慮した健康指導の立案と模擬保育
 - ⑥健康な心と体を育む保育の実際(教材研究2)
運動遊びの安全と安全指導の実際
 - ⑦健康な心と体を育む保育の実際(計画立案・模擬保育2)
幼児の動機付けや意欲などを配慮した安全指導の立案と模擬保育
 - ⑧健康な心と体を育む模擬保育の実際
多様な動きを引き出すことを意識して(教材研究3)
 - ⑨健康な心と体を育む保育の構想(教材研究4)
運動遊びの実際(スポーツ庁DVDの視聴から)と多様な動きを引き出す援助
 - ⑩健康な心と体を育む保育の実際(計画立案3)
幼児の動機付けや意欲などを配慮した遊びとしての運動指導の在り方
 - ⑪健康な心と体を育む指導案の評価と改善1
指導案作成(健康)と幼児理解の視点を基盤とした評価(振り返り)
 - ⑫健康な心と体を育む模擬保育と評価と改善2
模擬保育(健康)と幼児理解の視点を基盤とした評価(振り返り)
 - ⑬健康な心と体を育む保育の構想(教材研究5)
運動遊びの実際と発達に応じた心弾ませる援助
 - ⑭幼小接続の重要性と具体例
保育者の専門性と発達のつながりを考慮した幼小接続
 - ⑮課題のある幼児に寄り添う保育者の専門性と領域「健康」のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・領域「健康」のねらい及び内容、また幼児の健康づくりに関わる専門事項について理解を深める

・幼児の健康づくりに関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

・幼児の健康に関わる専門事項の理解を深め、それに関わる具体的な指導場面を想定し実践を行うなかで、「子どもの安全を守るための適切な配慮」や「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術」を学ぶことができる。

(DP4) 多様性の理解と協働する力

・具体的な指導場面を想定し実践を行うグループワークでは、目標達成のために同僚と協働する機会となる。

■成績評価基準と方法

- ・小テスト・筆記試験(40%)
- ・模擬保育(30%)
- ・レポート課題・提出物(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康
- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【参考文献】

- ・ACPガイドブック（日本スポーツ協会）
- ・幼児期運動指針実践ガイドブック（文部科学省）

■授業外学習

【事前学習】（2時間）

- ・次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であれば指導のアイデアを考えておく。

【事後学習】（2時間）

- ・講義や演習後はテキストや配布資料を振り返り小テストに備える。
- ・指導実践後は、自他の指導内容を振り返り考察する。

■その他

日ごろから「子ども（幼児）の健康」に関する出来事や情報に関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣をつけましょう。

科目名	プレゼンテーション演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

基本的な理論を学ぶことで発表のクオリティを高める、「よりよい実践的プレゼンテーション」を重視して、コミュニケーション力をアップすることを目指します。発表時の振る舞いや、環境・TPOに合わせたプレゼンテーションの実施、そして発表の場をプロデュースすることを目的に授業を進めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義説明+演習（プレゼンテーション）の組合せです。コンピュータによるスライドショーソフトウェアを利用して資料を作成することや、グループワークを中心に進めます。また、プレゼンテーションだけでなく、発表会の運営なども考えていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。一部の演習では、学外審査員にご協力をお願いする予定です。

■授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、進度により内容・順序を変更することもあります。

- ① ガイダンス：秋学期の目標設定
- ② グループワーク：取材活動（1）
- ③ グループワーク：取材活動（2）・動画の製作（1）
- ④ グループワーク：動画の製作（2）
- ⑤ 【実習Ⅰ】テーマに基づいた取材と動画の作成
- ⑥ 実習Ⅰのフィードバックと実習Ⅱの準備（作業の分担）
- ⑦ グループワーク：テーマからの情報収集、ストーリー構成
- ⑧ グループワーク：説得力のある構成を考える
- ⑨ グループワーク：魅力あるスライドの作成と編集
- ⑩ グループワーク：全体のバランスを考える
- ⑪ グループワーク：リハーサルの重要性
- ⑫ 【実習Ⅱ】「説得型」プレゼンテーションの発表
- ⑬ 実習Ⅲ説明：目的とルールの説明、これまでの実習の振り返り
- ⑭ 【実習Ⅲ】「自撮り」動画の作成と提出
- ⑮ 1年間を振り返る：プレゼンテーションとは

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① プレゼンテーションによる表現、伝達の効果、目的を学び、実践に活かすことができる。
- ② プレゼンテーションの効果的な発表場面を選択し、また自ら創造することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

■成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%
発表内容 40%（視覚資料・原稿など）
授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じ、プリント等を配布します。
自分自身で管理・保管を行って、作業や課題に活用してください。

【参考文献】

「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019」
編：実教出版企画開発部 実教出版

■授業外学習

【具体的な内容・必要な時間】

プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）に、少なくとも2時間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。

また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります。

その他 毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。

■その他

多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。また、授業以外の時間での作業が必要になります。コンピュータ操作に慣れていない人は特にスライドの作成に時間が必要になるでしょう。

科目名	教育課程総論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を中心に、適宜グループワークをおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義中提示された質問等については、講義内で回答し、問題意識の共有を図る。授業内課題についても、返却の際に解説を加える。

■授業計画

- ①教育課程とは何か① 幼稚園教育要領
- ②教育課程とは何か② 教育課程の役割と機能
- ③幼稚園教育要領の歴史① 保育要領
- ④幼稚園教育要領の歴史② 幼稚園教育要領の制定
- ⑤幼稚園教育要領の歴史③ 保育所保育指針との分離
- ⑥幼稚園教育要領の歴史④ 教科化と五領域
- ⑦幼稚園教育要領の歴史⑤ 2008年の改訂
- ⑧幼稚園教育要領の歴史⑥ 2018年改訂版の特徴 (小レポート)
- ⑨幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (小レポート)
- ⑩教育課程編成① 基本的な考え方 (グループワーク)
- ⑪教育課程編成② 地域・幼稚園の特色を活かした教育課程 (グループワーク)
- ⑫特色ある教育課程① レッジョ・エミリア・アプローチとシュタイナー教育
- ⑬特色ある教育課程② テ・ファリキとドイツの教育課程改革
- ⑭カリキュラム・マネジメントと評価 (グループワーク)
- ⑮総まとめ 幼稚園教育要領と教育課程 (小レポート)、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。

学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。

教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

教育課程編成の基本原則を理解している。

教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。

単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。

カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小レポート・グループワーク提出物…30%

15回目におこなう小テスト…20%

定期試験…50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『幼稚園教育要領解説』：毎回持参すること

『保育所保育指針解説』

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』（1年時購入済み）

『最新保育資料集』（1年時購入済み）

【参考文献】

無藤隆他『ここがポイント！ 3法令ガイドブック』フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

2回目以降は次回の予告をするため、『幼稚園教育要領解説』等の該当する箇所を読んでおくこと。
新聞、ニュースなどを日頃からみて、社会でどのようなことが問題とされているのかを把握しておくこと。
実習経験を思い返し、実習園の教育課程について考えておくこと。

【必要な時間】

復習に重きを置く。1時間程度の予習と3時間程度の復習を必要とする。

■その他

科目名	教育経営
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	井内 聖

■講義の目的および概要

本講義の目的は、現代社会の中で求められる幼児教育の意義や幼稚園、保育所、認定こども園の在り方について理解を深めると共に、社会情勢の変化等に伴い、地域に根差した幅広い保育実践の在り方が求められる保育現場の現状と課題を把握し、幼児教育の実践について幅広い観点から学ぶことを目指します。また、教職員の研修や自己研鑽と保育者の人間性や専門性の向上についても理解を深め、園の運営やクラス経営をどのように対応したらよいかについても考察していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行っていきます。また、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①保育の仕事を考える
- ②新しい時代に求められる幼児教育（1）
- ③新しい時代に求められる幼児教育（2）
- ④遊びを中心とした保育実践
- ⑤子どもの育ちを支えるデイリープログラム
- ⑥教育課程と指導計画
- ⑦保育の振り返りと記録
- ⑧保育環境の重要性
- ⑨保育実践を学ぶ（1）
- ⑩学びを深める園内研修
- ⑪保育実践を学ぶ（2）
- ⑫保育実践を支える家庭との連携
- ⑬地域と繋がる保育実践
- ⑭子どもの育ちを繋げる幼小の接続
- ⑮保育者としてのキャリアアップ（授業のまとめと振り返り）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育者としての専門性について関心を持ち、幼児教育の本質全般「保育の営み」「遊びの本質」「保育者の役割」等々について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

毎回の提出物（振り返りシート）：80%
課題：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について自分なりの観点で予習し、他の授業との関連事項等についても把握し、予習ノートにまとめてください。また、授業後には授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ90分程度を目安とします。

■その他
特になし

科目名	教育相談(カウンセリングを含む)[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 久美子

■講義の目的および概要

教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身に付けることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義とグループワークです。振り返りシートやディスカッションなどで能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。

■授業計画

- ①教育相談の意味と意義及び課題についての理解
- ②教育相談に生かせる心理学の基礎理論と概念の理解
- ③幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味とその兆候を捉える視点
- ④受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的理解
- ⑤職種や公務分掌に配慮した教育相談の計画作成と対象の状況に応じた目標設定と相談の進め方の基本を理解する
- ⑥地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する
- ⑦学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性の理解と授業内試験 1
- ⑧試験 1 の解説と、学校課題 1 いじめに関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方
- ⑨学校課題 2 不登校・不登園に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方
- ⑩学校課題 3 非行・学級崩壊に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方
- ⑪学校課題 4 虐待に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方
- ⑫学校課題 5 学級の雰囲気把握と、その状況に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備
- ⑬学校課題 6 発達障害のある子どもの状況に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備
- ⑭教育相談における組織的取り組みの必要性和授業内試験 2
- ⑮試験 2 の解説と、ここまでの授業から効果的な教育相談を進めるために自分自身に必要な自己課題について論拠を示しながら考察する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

授業の各回のテーマについて理解し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための専門知識、技能を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、教育相談の意義・理論や技法に関する知識を身に付ける。

■成績評価基準と方法

試験 1 (40%) 試験 2 (40%) レポート・ノート点検・口頭試問 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領(平成29年告示)
文部科学省生徒指導提要(平成22年3月)

■授業外学習

【具体的な内容】

常日頃からニュース・新聞などで、子どもの育ちについて考えるように心がけてください。

【必要な時間】

事前・事後30分以上の予習・復習を要する。

■その他

授業中に随時発言を求めることもあるので、しっかりと学習したうえで授業に参加してください。

科目名	教師論[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力及び職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で、適宜グループワークをおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内で出された質問や課題には、講義内で紹介して課題意識の共有をはかるとともに解説を加える。

■授業計画

- ①ガイダンス：幼稚園教諭の特殊性と存在意義
- ②公教育・幼稚園教育の目的（小レポート）
- ③幼稚園保姆・教諭の誕生と展開
- ④幼稚園教諭をめぐる現代的特性① 少子化概観
- ⑤幼稚園教諭をめぐる現代的特性② 少子化と学校教育（小レポート）
- ⑥幼稚園教諭をめぐる現代的特性③ 子どもの貧困概観
- ⑦幼稚園教諭をめぐる現代的特性④ 子どもの貧困と教育（小レポート）
- ⑧幼稚園教諭をめぐる現代的特性⑤ 幼児教育の今日的課題（小レポート）
- ⑨幼稚園教諭の一日、一月、一学期、一年
- ⑩幼稚園教諭の職務と研修（小レポート）
- ⑪地域社会と教育① チーム学校
- ⑫地域社会と教育② 保護者支援
- ⑬地域社会と教育③ 早期教育
- ⑭地域社会と教育④ 地域の特色を活かした教育（小レポート）
- ⑮総まとめ 幼稚園教諭の今日的意義（小レポート）、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。
進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。
教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。
今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。
幼児、児童及び生徒への指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。
教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。
教員に課せられる服務上・身分上の義務並びに身分保障を理解している。
多様な専門性を持つ人材と効果的に連携し、分担し、教員とこれらの者がチームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小レポート…50%
定期試験…50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』（1年時購入済み）
『最新保育資料集』（1年時購入済み）

【参考文献】

『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）

■授業外学習

【具体的な内容】
新聞、ニュースをみて、幼児教育・保育に関する今日的課題について把握しておくこと。

【必要な時間】
事前学習1時間、事後学習3時間を必要とする。

■その他

科目名	健康とスポーツ I [幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士、石川 みゆき

■講義の目的および概要

スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学ぶ。また現代社会における様々な健康問題について認識し、自らの健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに実技を通して積極性、協調性などを養い保育者としての資質の向上を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・ 2名の教員によるオムニバス形式で理論を交えて実技を行う。
- ・ 2つのグループに分かれてローテーションで行う。
- ・ 実技種目（担当教員）は、バレーボール（石川）・バドミントン（林）。
- ・ 講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。
- ・ 第一体育館、第二体育館で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

? 種目AB ガイダンス 履修方法の説明 担当教員の紹介 種目の特徴

? 種目A 基本技術 個人技術の習得?

③ 種目A 基本技術 個人技術の習得?

④ 種目A 基本技術 コンビ・チームプレイ?

⑤ 種目A 応用技術 コンビ・チームプレイ?

⑥ 種目A 応用技術 試合のルールの理解と審判?

⑦ 種目A 応用技術 試合のルールの理解と審判?

⑧ 種目A 応用技術 習得した技術を実践する

⑨ 種目B 基本技術 個人技術の習得?

⑩ 種目B 基本技術 個人技術の習得?

⑪ 種目B 基本技術 コンビ・チームプレイ?

⑫ 種目B 応用技術 コンビ・チームプレイ?

⑬ 種目B 応用技術 試合のルールの理解と審判?

⑭ 種目B 応用技術 試合のルールの理解と審判?

⑮ 種目B 応用技術 習得した技術を実践する

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標】

- ・ 身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。
- ・ 実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る。
- ・ チームプレイを通して、積極性や協調性を養い、保育者としての資質を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力

(DP4) 多様性の理解と協働する力

- ・ チームプレイやグループワークなどの主体的・協働的な集団活動を通して、保育者に求められる態度や姿勢、責任ある行動を学ぶ。

■成績評価基準と方法

- ・ 授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナー（40%）
- ・ 各種目の基礎技能の個人的到達度（35%）
- ・ レポート課題（25%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 適宜資料を配布する。

【参考文献】

- ・ 適宜資料を配布する。

■授業外学習

【事前学習】（2時間）

- ・ 自らの健康づくりに興味を持ち、日常生活の中で体を動かすことを心がける。
- ・ 様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。

【事後学習】（2時間）

- ・ 授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。

■その他

- ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。2023(令和5)年4月1日
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

科目名	健康とスポーツⅡ[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士、石川 みゆき

■講義の目的および概要

スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学び、また高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について認識し、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに各スポーツの技能・戦術・審判法についても学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・2名の教員によるオムニバス形式で理論を交えて実技を行う。
- ・2つのグループに分かれてローテーションで行う。
- ・実技種目(担当教員)はバレーボール(石川)・卓球(林)
- ・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。
- ・第一体育館、第二体育館で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

- ? 種目AB ガイダンス 履修方法の説明 担当教員の紹介 種目の特徴
 ? 種目A 種目の特徴と基礎技能? 個人技術の習得
 ③ 種目A 種目の特徴と基礎技能? コンビ・チームプレイ
 ④ 種目A 種目のルールと基礎技能 ルールの確認と理解
 ⑤ 種目A 応用技能と審判法? 審判(ルールを活かす)
 ⑥ 種目A 応用技能と審判法? 審判(ゲームをコントロールする)
 ⑦ 種目A 応用技能とゲーム? 試合(これまで習得した技能を活かす)
 ⑧ 種目A 応用技能とゲーム? 試合(これまで習得した戦術を活かす)
 ⑨ 種目B 種目の特徴と基礎技能? 個人技術の習得
 ⑩ 種目B 種目の特徴と基礎技能? コンビ・チームプレイ
 ⑪ 種目B 種目のルールと基礎技能 ルールの確認と理解
 ⑫ 種目B 応用技能と審判法? 審判(ルールを活かす)
 ⑬ 種目B 応用技能と審判法? 審判(ゲームをコントロールする)
 ⑭ 種目B 応用技能とゲーム? 試合(これまで習得した技能を活かす)
 ⑮ 種目B 応用技能とゲーム? 試合(これまで習得した戦術を活かす)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。
- ・実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る。
- ・チームプレイを通して、積極性や協調性を養い、保育者としての資質を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- ・チームプレイやグループワークなどの主体的・協働的な集団活動を通して、保育者に求められる態度や姿勢、責任ある行動を学ぶ。

■成績評価基準と方法

- ・授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナー(40%)
- ・各種目の基礎技能の個人的到達度(35%)
- ・課題レポート提出(25%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・適宜資料を配布する。

【参考文献】

- ・適宜資料を配布する。

■授業外学習

【事前学習】(2時間)

- ・自らの健康づくりに興味を持ち、日常生活の中で体を動かすことを心がける。
- ・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。

【事後学習】(2時間)

- ・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。

■その他

- ・運動に適した服装(運動着、運動靴)や準備(タオル、水分、気持ち)をする。
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

科目名	現代社会論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	森岡 毅

■講義の目的および概要

本講は、現代社会の様々な課題について、文献・資料を読み込んでいくことで理解を深め、広く教養を身につけるとともに、読解力を高めていくことを目的とする。授業は、ゼミ形式を基本として行い、社会全般の分野と教育分野の両分野から受講者が文献・資料を自ら選び、全員で議論をしながら読み進めていく。受講者はそれぞれの分野で必ず1回以上、レジュメを作成し発表する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数によるゼミ形式でおこなう。

課題図書について受講者で読み合わせをし、担当者がレジュメを作り報告をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義中に出てきた質問や提出された課題については、講義中に適宜取り上げ、解説を加える。

■授業計画

- ①ガイダンス：テキストの検討、決定
- ②社会全般関連の文献講読1
- ③社会全般関連の文献講読2
- ④社会全般関連の文献講読3
- ⑤社会全般関連の文献講読4
- ⑥社会全般関連の文献講読5
- ⑦社会全般関連の文献講読6
- ⑧小括
- ⑨教育関連の文献講読1
- ⑩教育関連の文献講読2
- ⑪教育関連の文献講読3
- ⑫教育関連の文献講読4
- ⑬教育関連の文献講読5
- ⑭教育関連の文献講読6
- ⑮まとめレポート・履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現代社会で課題とされていることについて理解を深める。

専門書を読み込む読解力を身につける。

他者の考えを聴き、批判し、自分の意見に取り込むことでこれまでよりも広い知見を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP4) 多様性の理解と協働する力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

担当回の報告：50%

小括、まとめレポート：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

受講者と担当教員で協議し、決定する。

新書、ブックレット等を使用する。

【参考文献】

講義内で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストには事前に必ず目を通しておくこと。

また、自分が担当する回ではレジュメを作成し、わからない語句等は必ず調べておくこと。

【必要な時間】

3時間程度の事前学習、1時間程度の事後学習を必要とする。

■その他

講義開始後に、受講者で選んだテキストを2冊（社会全般関連、教育関連）、購入費2023(令和5)年4月1日
る必要がある。

科目名	社会福祉
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	山内 太郎

■講義の目的および概要

本講義は、自分や家族の生活にはあまり関係がないと思っていた社会福祉の話が、実は普段の生活やこれからの人生に大きくかかわっていることを理解し、そのうえで保護者支援にかかわる専門職として本講義で学んだ知識を活かすことができるようになることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを用いて講義形式で行うことを基本とするが、必要に応じて視聴覚資料も利用する。講義中に発言を求めたり、グループ討議、小レポートの提出を行う場合もある。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義終盤に行う小レポートに対し、内容に応じて次回に回答する。

■授業計画

1. オリエンテーション
2. 子どもと家族の福祉①—妊娠、出産にかかわる制度
3. 子どもと家族の福祉②—児童虐待の発生
4. 社会保障①—保育士として就職した時に重要な制度
5. 社会保障②—老後の暮らし方はどうすればよい？
6. 障がい児・者福祉—障がい児の子どもの担任になる
7. 女性として生きる①—DVとその対策
8. 地域福祉—職場の中心（中堅保育士）として
9. ソーシャルワーカー—保護者支援について考える
10. 女性として生きる②—産休・育休
11. 低所得者の福祉①—実父がリストラに
12. 低所得者の福祉②—子どもの貧困という視座
13. 低所得者の福祉③—見えにくい女性の貧困
14. 高齢者福祉—介護の経験と穏やかな老後
15. まとめと履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会福祉の基本的な法制度を理解し、子育て支援の専門職として社会福祉の問題をとらえることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)課題を発見し、解決する
(DP6)社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内試験 50%
レポート課題 20%
毎時間後の小レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田旬哉編著 萌文書林

【参考文献】

講義中に適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。

【必要な時間】

予習・復習は、それぞれ2時間ずつが目安となる。

■その他

NHK番組「ハートネットTV」は社会福祉にかかわる良質な情報を提供しているので視聴して授業に臨むと理解が進む。

科目名	保育内容(環境)[幼教2年]
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	森岡 毅

■講義の目的および概要

本講義は、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型の認定こども園・保育要領に示された保育内容（環境）のねらい及び内容について学び、乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解する。また、乳幼児期を取り巻く「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、実践する力を身につけることを目標とする。学生自らが身近な自然・社会環境について興味・関心をもち、それらを保育の環境づくりに活用できることを目指し、要領・指針の確認や実践事例の紹介、体験活動などを取り入れながら講義を進める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

専門事項については講義形式、その他演習、グループワーク等の中で体験的に講義を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

- ①オリエンテーション「環境」とは
教育・保育における「環境」、子どもの育ちと領域「環境」
- ②乳児、幼児の世界と環境
- ③ものや道具に関わって遊ぶ1
- ④ものや道具に関わって遊ぶ2
- ⑤自然に親しみ、植物や生き物に触れる1
- ⑥自然に親しみ、植物や生き物に触れる2
- ⑦文字や標識、数量や図形に関心をもつ1
- ⑧文字や標識、収量や図形に関心をもつ2
- ⑨遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ
(生活体験・異年齢の交流・テレビ・文化や習慣・国際理解)
- ⑩環境構成案づくりの実践事例
- ⑪環境構成案づくり(個人案作成)
- ⑫環境構成案づくり(グループ案作成・グループワーク)
- ⑬環境構成案づくり(準備・作成・グループワーク)
- ⑭環境構成案づくりの発表と反省・考察
- ⑮現代の保育の課題と領域「環境」のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・領域「環境」のねらい及び内容について理解する。
- ・乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解し計画・説明できる。
- ・乳幼児の身近な環境に関わる具体的な指導場面を想定し、実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・小テスト(40%)
- ・グループワーク等の貢献度(30%)
- ・授業ごとの課題レポート・提出物(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『体験する 調べる 考える 領域「環境」』田宮緑著 萌文書林

【参考文献】

- ・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・幼保連携型こども園・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・（事前学習）次回の学習内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であればアイデアを考えておく。
- ・（事後学習）テキストや配布資料を振り返り、学習の内容をまとめ整理しておくこと。
- ・指導発表後は、自他の指導内容を振り返り考察すること。

【必要な時間】

（事前学習）1時間程度（事後学習）1時間程度

■その他

- ・授業での配布物等を保管するためのファイル（A4版）を用意しておくこと。
- ・④の授業では、実際に物を使った制作活動を行う予定。紙コップ、紙皿、色紙、色画用紙、カラーペン、はさみ、接着剤、テープ等を各自用意すること。
- ・日ごろから身近な自然・社会環境に興味・関心をもち、自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣を付けましょう。

科目名	保育内容(言葉)[幼教2年]
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	東谷 一彦

■講義の目的および概要

幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型の認定こども園・保育要領に示された保育内容（言葉）のねらい及び内容について学ぶとともに、幼児の「言葉」の発達過程に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場면을想定し実践する力を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストやプリントなどを用いて、理論的な説明を中心に基礎知識を深めるための講義を行い、適宜小テストを実施する。また、指導場面などを想定した演習（グループワーク等）を取り入れたり、DVDを視聴して知識を広げたりしながら進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、資料を配付する。

■授業計画

- ①オリエンテーション。幼稚園教育要領における領域「言葉」
- ②保育所保育指針における領域「言葉」
- ③領域「言葉」と他の領域との関係
- ④言葉の発達をめぐって
- ⑤初語の頃まで1（泣き声から音声言語の出現）
- ⑥初語の頃まで2（指さしから初語へ）
- ⑦DVD「赤ちゃんの生後1年間の驚くべき能力」視聴と考察
- ⑧幼児期前期1（一語文の時期・二語文の時期）
- ⑨幼児期前期2（語彙の増加）
- ⑩幼児期前期3（文構造の複雑化と会話の増大）
- ⑪幼児期後期1（会話のいっそうの進展）
- ⑫幼児期後期2（ことばの質的な深まり）
- ⑬特別な配慮が必要な子どもとの関わり
- ⑭DVD「赤ちゃん 成長の不思議な道のり」視聴と考察
- ⑮まとめ、テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

乳幼児の言葉の発達について理解し、整理できること。また、ことばの重要性を踏まえ、その指導と援助について具体的に方法を考えることができること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階に合った保育ができる知識と技術を身に付けている」というDPIに基づき、保育者としての自立を促す。

■成績評価基準と方法

課題・提出物の評価（40%）
 テスト及び小テストの評価（50%）
 振り返りの評価（10%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『保育内容・言葉』（太田光洋編著 同文書院）

【参考文献】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時の学習内容に関して事前にテキストを読み込んでおくこと。また、授業内容についての振り返りを確実に行うことが必要である。

【必要な時間】

予習・復習として、それぞれ1時間程度を最低限の目安とする。

■その他

授業での配布物を保管するためのファイル(A4版)を用意しておくこと。

科目名	北海道論[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	山内 太郎、森岡 毅

■講義の目的および概要

本講義では、北海道の自然や歴史、産業等を中心に学び、北海道の現状を理解することを目的としています。
さらに、北海道の主要な都市を取り上げ、その地域の保育の歴史と当時の社会状況との関連について調べるなど、個別のトピックをテーマに北海道及びその主要な都市の深部について理解することを試みます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・配布するプリントを中心とした講義形式
- ・グループディスカッションやミニワーク形式

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②北海道の地理
- ③北海道の自然Ⅰ
- ④北海道の自然Ⅱ
- ⑤北海道の歴史と文化Ⅰ
- ⑥北海道の歴史と文化Ⅱ
- ⑦北海道の産業
- ⑧小括
- ⑨北海道の都市（札幌の保育の歴史Ⅰ）
- ⑩北海道の都市（札幌の保育の歴史Ⅱ）
- ⑪北海道の都市（戦前札幌の産業）
- ⑫北海道の都市（戦前札幌の民衆の暮らし）
- ⑬北海道の都市（調べ学習Ⅰ）
- ⑭北海道の都市（調べ学習Ⅱ）
- ⑮小括

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・北海道についての基礎知識を身につけ、北海道内の地域に対する関心まちづくり、地域貢献の意識を高める
- ・北海道の魅力や課題を発見・把握し、調べた内容をまとめて発信できる能力を身につける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ①毎時のリフレクション（振り返り） 20%
- ②提出物等 30%
- ③レポート課題 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料などを提示・配布します

【参考文献】

適宜指示します

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で扱う内容に関して、日ごろのニュースから知識を得ておき、地図帳などと照らし合わせてその土地への理解を深めておいてください。
学んだことをノートなどにまとめ、授業後は関連する内容などを整理してください。

【必要な時間】

予習・復習、それぞれ2時間程度が目安となります。

科目名	保育内容(表現)[幼教2年]
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	朝地 信介、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解を深める。子どもの表現を引き出す知識・技術を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

子ども、表現、遊び、保育、保育者などの観点を取り入れながら、図工・造形・音楽・身体等の表現活動に関わる演習（および講義）をオムニバス形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業での活動の成果物・提出物について、教員がコメント等で応える。

■授業計画

- ①オリエンテーション：保育内容（表現）の目的（朝地・田村）
- ②幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」、「表現」の構成要素（朝地）
- ③保育技術の基本（音楽表現・身体表現）（田村）
- ④保育技術の基本（図画工作・造形表現）（朝地）
- ⑤「表現」の指導の実際（音楽表現）（田村）
- ⑥「表現」の指導の実際（図画工作）（朝地）
- ⑦「表現」の指導の実際（身体表現）（田村）
- ⑧「表現」の指導の実際（造形表現）（朝地）
- ⑨「表現」の指導の実際（保育現場での取り組み）（田村）
- ⑩領域「表現」の実践的理解 準備（朝地）
- ⑪領域「表現」の実践的理解（田村）
- ⑫領域「表現」の実践的理解（朝地）
- ⑬領域「表現」の実践的理解（田村）
- ⑭領域「表現」の実践的理解（朝地）
- ⑮授業内レポート、履修カルテ記入（田村・朝地）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。
- ②表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる。
- ③実践の内容を学生が相互に評価し合うことで、各自の保育技術の課題を見つけ、領域「表現」の理解を実践的に深めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①授業内レポート+授業メモ（60点）
第1回課題「表現について」10点、最終レポート30点、授業メモ20点
- ②表現活動実践成果物（40点）
図工・造形（朝地）／音楽・身体（田村）各20点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・新版 遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）※1年生時に購入済

【参考文献】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説書」
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
- ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・制作に必要な資料や図案、材料、音楽・身体表現に必要な資料や歌、楽譜、手遊び、絵本、遊びのレパートリー等を準備する。
- ・配布される教材以外に必要なものは各自で用意する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

■その他

- ・制作や音楽、身体表現の練習に関わる費用は、教員と相談の上可能な限り学科で用意する。
- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。
- ・スマートフォン（もしくはタブレット・パソコン）を使用するので持参する。

科目名	幼稚園実習指導[幼教]
開講期・単位	2年 通年・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、小岩 季之、小川 久恵、朝地 信介、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

事前指導では教育実習生として学校(幼稚園)の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解します。これらを通して教育実習の意義を理解します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学外幼稚園実習に向け、グループワークやディスカッション、保育計画の作成等の演習、発表、講義を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

本講義は教員・幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、ディスカッションやグループワークを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション(幼稚園実習の意義と目的)
- ②幼稚園実習記録の作成について(日誌の振り返り、日誌記載における課題の確認)
- ③指導案作成① 保育実習における指導案の振り返りをふまえた立案
- ④指導案作成② 子ども理解・保育内容・指導法をふまえた立案
- ⑤幼稚園実習の研究課題の設定(実習園の概要、実習目標、実習内容)
- ⑥幼稚園実習の振り返り①(自己課題の振り返り、成果と自己課題の交流)
- ⑦幼稚園実習の振り返り②(自己課題の改善に向けて)
- ⑧幼稚園実習のまとめ(実習記録の作成)、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・提出物(指導案、実習報告レポートなど): 70%
- ・授業のまとめ、リアクションシートなど: 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『実習ハンドブック』

【参考文献】

『幼稚園実習(基礎) 付属幼稚園ハンドブック』、『実習記録』

■授業外学習

【具体的な内容】

『幼稚園実習(基礎) 付属幼稚園ハンドブック』と『実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノートにまとめてください。研究課題の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

- ・幼稚園実習(応用)を合わせて履修すること。
- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	情報処理演習(データ活用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	常見 裕子

■講義の目的および概要

パソコンの表計算ソフト「Microsoft Excel」を使い、基本操作から応用までを実社会での使用例や実践テクニックをもちこみながら学習する。
Excelを活用しながら様々な数値の求め方、データの加工方法などを理解する。
ワープロソフトなどとの併用方法についての学習を通して、データ活用の知識と技術を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教員がテキストを解説し補足説明をしながら、学生がパソコンを用いて文書ファイルを作成する「実技演習形式」で授業を進める。必要に応じてディスカッションなどを取り入れて実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題及び参考資料は、学内共有フォルダやWeb上の共有ドライブを介して配布する。提出されたファイルへの概評などを適宜行う。

■授業計画

- ①科目ガイダンス、授業用各種環境確認 Excelの基本操作
- ②四則演算と表の作成
- ③書式設定 連続データとふりがな機能
- ④関数Ⅰ 行列の編集（行列の挿入と削除、行列幅の変更）
- ⑤絶対参照と相対参照
- ⑥関数Ⅱ（IF・ROUNDなど）
- ⑦グラフの作成 印刷の設定
- ⑧データベース機能
- ⑨関数Ⅲ（RANK.EQ・VLOOKUPなど）
- ⑩集計機能（ピボットテーブル）
- ⑪Word文書との複合文書作成
- ⑫外部データの活用（外部データの取り込みと分析）
- ⑬分析したデータから資料を作成
- ⑭作成した資料をもとに発表
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・Excelの基本を理解し、計算式などを入力した表を作成することができる。
- ・様々な機能を理解し、必要なデータ（外部データを含む）を加工や分析し、目的に応じた情報の資料化の処理ができる。
- ・Excelを中心に、他のソフトウェアとの連携を通して、効果的なデータ活用の処理ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

課題提出 : 80%
データ活用と発表 : 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算（第4版）』日経BP社発行

【参考文献】

各アプリケーションソフトの市販本解説本

■授業外学習

【具体的な内容】

講義内で学習した内容を繰り返し練習・確認すること。
タイピング練習（ブラインドタッチ）を継続練習する。

【必要な時間】

週に1～2時間程度

■その他

テキストを使用して自発的に予習復習をしてください。
パソコンが苦手という人も、基本からしっかり学習していきますので、積極的に取り組んでください。

科目名	情報処理演習(文書処理)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	常見 裕子

■講義の目的および概要

現代社会に必要な情報リテラシー能力を習得するため、コンピュータの基本操作、活用技術、マナーなどの基礎知識を学びながら、パソコンの代表的なアプリケーションソフトの使い方を通して、多様な文書作成のスキルを習得する。
情報化が社会に与える影響と、基本的な情報倫理や情報危機管理などについて理解し、利用者として正しい態度を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配布プリントの解説や教員の補足説明を参考に、学生が主体的に取り組む実技演習形式で授業を進める。必要に応じてディスカッションなどを取り入れて実施する。
実習週間にあたる第10回と第11回はオンデマンド授業とし、授業内で指示される課題や確認テストを提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題及び参考資料は、プリント、学内共有フォルダやWeb上の共有ドライブを介して配布する。提出されたファイルの概評などを適宜行う。

■授業計画

- ①科目ガイダンス、情報環境の確認と設定
- ②Windows基本操作、環境設定 ※情報社会とは
- ③ファイル操作、タイピング練習
- ④長文練習と文字の訂正 ※著作権について
- ⑤Word文書の編集とページ設定
- ⑥Wordで表の作成
- ⑦Wordの図形機能と画像挿入
- ⑧Wordでチラシ作成①
- ⑨Wordでチラシ作成② PDFファイル変換など
- ⑩※情報倫理と情報危機管理について *オンデマンド授業
- ⑪パソコンメールのマナーと形式 *オンデマンド授業
- ⑫PowerPointでスライド作成①
- ⑬PowerPointでスライド作成②
- ⑭PowerPointでスライド作成③
- ⑮まとめと振り返り

※は情報倫理などの知識科目

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ソフトウェアの多様な機能を理解し、情報の整理や文書作成などを創意工夫して処理することができる。
- ・幼稚園の園だより、案内文書などを考えながら作成することができる。
- ・電子メールのマナーやモラルを理解し、コミュニケーションツールとして使用することができる。
- ・情報化における様々な問題や情報倫理、情報危機管理について理解し、行動することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

タイピング：10%
課題提出：70%
確認テスト：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし 毎回プリント教材を配布

【参考文献】

各アプリケーションソフトの市販解説本

■授業外学習

【具体的な内容】

基本操作でわからないことがあれば復習しておく。授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。入力速度を上げるために、タイピング練習（ブラインドタッチ）を継続練習する。

【必要な時間】

週に1～2時間程度

■その他

一つ一つの課題に順番に取り組むことによって、様々な文書作成ができるようになります。パソコンが苦手という人も、基本からしっかり学習していきますので、あきらめず、積極的に取り組んでください。

科目名	キャリア基礎演習[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	朝地 信介、森岡 毅、田村 めぐみ、神林 裕子

■講義の目的および概要

社会人として必要な常識、態度などについて学びます。「キャリア形成」を踏まえ、就職することについて考察することにより、就職に対して具体的な理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッション、資料作成等の演習を中心としながら、講義や外部講師講話を通して、課題の明確化等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びにつなげていくことを目指しています。

■授業計画

- ①オリエンテーション、進路調査アンケート
- ②就職までの手続きについて（キャリア支援センターより）、社会人に求められるマナーについて
- ③進路調査票について
- ④外部講師講話①：就職するということ
- ⑤就職試験について（実技編）
- ⑥就職試験について（一般常識編）
- ⑦就職試験について（専門知識編）
- ⑧外部講師講話②：就職試験に向けて
- ⑨求人票の見方
- ⑩履歴書の書き方①
- ⑪履歴書の書き方②・就職までの手続きについて（キャリア支援センターより）
- ⑫面接について①
- ⑬面接について②
- ⑭外部講師講話③：保育者として
- ⑮まとめ及び就職ガイダンス、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解を深めるとともに、保育者としての専門性について理解を深めることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

毎時のワークシート等の提出物60%
授業内レポート40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

■授業外学習

2023(令和5)年4月1日

【具体的な内容】

常日頃から新分野ニュースなどで、最近の社会や企業の動き、世の中の動向を意識することを心掛けてください。
必ず前回の授業内容を復習し、自分の将来について具体的にイメージして出席してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は合わせて、2時間を目安とします。

■その他

保育士模試を受験する場合は、受験料として3000～4000円程度必要となります。

科目名	外国語コミュニケーション(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

本講義では、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。また、適宜、英語の歌やゲーム等の活動の学習を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②Unit 1 What's your name?
- ③Unit 2 Where are you from?、関連した英語の活動
- ④Unit 3 Good morning! ①
- ⑤Unit 3 Good morning! ②、関連した英語の活動
- ⑥Unit 4 Are you OK? ①
- ⑦Unit 4 Are you OK? ②、確認テスト1
- ⑧Unit 5 What are you doing? ①
- ⑨Unit 5 What are you doing? ②、関連した英語の活動
- ⑩Unit 6 How are you feeling? ①
- ⑪Unit 6 How are you feeling? ②、関連した英語の活動
- ⑫Unit 7 What's she like? ①
- ⑬Unit 7 What's she like? ②、関連した英語の活動
- ⑭Unit 8 What's she like? ① 確認テスト2
- ⑮Unit 8 What's she like? ②、関連した英語の活動

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。また、発音とリズムに留意しながら、英語の歌、英語の絵本の読み聞かせ等の活動ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題の提出 30%
- ②小テスト 30%
- ③確認テスト1 20%
- ④確認テスト2 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・Speaking of Childcare」Peter Vincent&Naoko Nakazono、出版社：NAN' UN-DO

【参考文献】

- ・しゃべる英文法、監修・著 白井恭弘、出版社：コスモピア株式会社
- ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers), by Raymond Murphy, 出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

次の5つを大切にしましょう。

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	外国語コミュニケーション(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

本講義では、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。外国語コミュニケーション(基礎)を踏まえ、フィリピン講師との実績的な英会話にも取り組む。また、適宜、英語の歌やゲーム等の活動の学習を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。
授業計画

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②Unit 9 Let's eat lunch!①
- ③Unit 9 Let's eat lunch!②、Zoomにおける実践
- ④Unit10 What do you want to do? ①
- ⑤Unit10 What do you want to do? ②、Zoomにおける実践
- ⑥Unit11 What do you have to do? ①
- ⑦Unit11 What do you have to do? ②、Zoomにおける実践
- ⑧Unit12 I need to go potty①
- ⑨確認テスト1、Unit12 I need to go potty②、
- ⑩Unit13 Good job!①
- ⑪Unit13 Good job!②、関連した英語の活動
- ⑫Unit14 Injuries and emergencies ①
- ⑬Unit14 Injuries and emergencies ②、関連した英語の活動
- ⑭確認テスト2、Unit15 We're going to go outside ①
- ⑮Unit15 We're going to go outside ②

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育現場における基本表現を用いて、積極的に日常的な会話ができる。また、発音とリズムに留意しながら、英語の歌、英語の絵本の読み聞かせ等の基本的な指導ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題の提出 30%
- ②小テスト 30%
- ③確認テスト1 20%
- ④確認テスト2 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・ Speaking of Childcare, Peter Vincent & Naoko Nakazono、出版社：NAN' UN-DO

【参考文献】

・ しゃべる英文法, 監修・著 白井恭弘、出版社：コスモピア株式会社
・ Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers), by Raymond Murphy, 出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

・ テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
・ 学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
・ 演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

・ 予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

・ Be helpful.
・ Be friendly.
・ Be active.
・ Be creative.
・ Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	幼稚園実習(応用)
開講期・単位	2年 通年・選択 3単位・実習
担当者	伊藤 桂子、小岩 季之、小川 久恵、朝地 信介、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

教育実習（幼稚園実習）は、将来教員（幼稚園教諭）になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会として行われます。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育（幼稚園教育）の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

8月下旬から3週間、学外の幼稚園で実習を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習終了後、実習日誌、レポート等を作成し、「幼稚園実習指導」の中で事後指導を行います。

また「学外幼稚園実習記録」の作成に取り組み、記録集として発行し、各自の課題を明らかにするとともに課題点の共有を図ります。

■授業計画

※原則として私立幼稚園で実習を行う。

※実習期間は8月下旬から3週間を予定。

※実習前に実習園を訪問しオリエンテーションを行う。

※およその実習日程・内容は以下の通り。実習園ごとに日程・内容は異なる。

- ①着任式／観察実習
- ②観察実習
- ③観察実習、参加実習
- ④ "
- ⑤ "
- ⑥参加実習
- ⑦ "
- ⑧ "
- ⑨ "
- ⑩参加実習、部分実習
- ⑪ "
- ⑫参加実習
- ⑬ "
- ⑭責任実習
- ⑮参加実習／離任式

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・ 幼児の活動や環境等に対して適切な観察を行うとともに、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解するため、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる。

・ 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育の実践を通して身に付けることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・ 実習園評価 70%
- ・ 提出物（実習日誌など） 20%
- ・ 事前事後指導 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『実習ハンドブック』

【参考文献】

『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』
前年度『学外幼稚園実習記録』

■授業外学習

【具体的な内容】

『実習ハンドブック』と『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』をよく読み、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノート等にまとめてください。
また、幼稚園実習（基礎）や幼稚園実習指導での講義内容と、付属幼稚園実習で気付いたことや各幼稚園での事前オリエンテーションの内容、各自の研究課題に沿って、実習で必要となる指導案や実習グッズの作成、手遊びや読み聞かせ、楽器の練習等を行ってください。また一日ごとの日誌の作成や、課題点の整理などを行ってください。

【必要な時間】

予習・復習に必要な時間はそれぞれ3.5時間を目安とします。

■その他

- ・幼稚園実習指導を合わせて履修すること。
- ・実習費23,000円（2022年度参考）

科目名	保育実習Ⅱ(保育所)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	小岩 季之、山内 太郎、林 二士、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

保育所での実習を通して、保育士として必要な知識・技能を身につける。この科目は1年次の保育所実習の発展版と位置付けられるので、学生には実際に現場に立つ卒業後の自分自身を想定しながら、より専門的に学ぼうとする姿勢が求められる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、1年次に実習した保育所で行う。
「学外」科目につき、内容は実習先によってそれぞれ異なる。

【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目で振り返りを行う。

■授業計画

講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解が既に習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得たことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。

実習の内容については、実習先によって多少異なるが、大まかには以下の通りである。

- ・ 課題の設定
- ・ 部分実習（時間をいただき、絵本の読み聞かせやゲーム、制作等の活動をする。）
- ・ 完全実習（仕上げの段階で、クラスの保育を初めから終わりまで一通り任される。）
- ・ 実習のまとめ、反省
- ・ 実習終了後、レポート提出（実習前に設定した課題について、レポートにまとめる。）

実習期間中、3歳未満時（0・1・2歳）、3歳児、4歳児、5歳児の各クラスに入ったり、縦割りによる異年齢混合クラスに入って実習を行う。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育現場に立つ者としての自覚ある態度で取り組み、自分自身の課題を明確にする。有意義な実習を行い、保育者として必要な知識・技能をさらに高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

学外保育所における実習評価を60%、実習日誌・レポートを40%とし、これらを合わせて評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ハンドブック

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。

【必要な時間】

実習科目のため事前学習は何時間必要かは学生によって異なるが、おおむね予習・復習にかかる時間はそれぞれ2時間を下回らない。

■その他

実習費18,000円（2021年度実績）の納入が5月頃に必要になります。

科目名	保育実習Ⅲ(施設)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	小岩 季之、山内 太郎、林 二士、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

科目は、卒業後に施設保育士として働きたいと思っている学生が履修していることを想定している。したがって、保育実習Ⅰにおいて経験した施設実習を踏まえて、より専門的ななかかわりの習得を目的としている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学外における保育所以外の児童福祉施設での実習を行う。
そのため内容は配属される実習先によって異なる。

【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目において振り返りを行う。

■授業計画

講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解がすでに習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得られたことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。
実習の内容については、実習先によって異なるが、大まかには以下のとおりである。

- ・施設機能の理解（入所児童の理解含む）
- ・保育実習指導において設定した実習課題への取り組み
- ・個別的なかかわりを深める（ケース研究的なかかわり）
- ・設定保育（行わない場合もある）
- ・実習のまとめ、反省
- ・実習終了後、レポート提出（実習課題についてレポートにまとめる）

実習先によっては関連する地域の諸機関での実習も含まれる。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

施設保育士としての仕事のおもしろさと難しさを体験的に語れるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

実習先による評価（評価表）60%、実習日誌、レポート等の提出物40%とし、これらを合わせて総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ハンドブック

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。

【必要な時間】

実習科目のため一律に必要な時間を設定することはできない。各自の自覚が必要。

■その他

実習費18,000円（2021年度実績）の納入が5月頃に必要になります。

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	小川 久恵、朝地 信介、森岡 毅

■講義の目的および概要

本講義では、これまで履修してきた実習を含む全ての科目を通して、幼児理解のための理論及び方法が形成されたかを振り返ります。
保育者になる上での自己課題を明確化し、改善に取り組む中で保育者に必要な資質・能力を高めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッション、模擬保育等の演習を中心としながら、記録からの省察や課題分析等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。
本講義は幼稚園教諭や学校教員として実務経験のある教員が、保育・教育の計画・実践にかかわる視点・知識・技術を活かして、指導方法や振り返りを通して自己課題を改善する方法を身に付けられる内容を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して他者の考えや学びを知り、自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション(履修カルテより自己課題を設定)
- ②自己課題の設定① 幼稚園実習の振り返り
- ③自己課題の設定② 自己課題の設定(教員を目指すものとして)
- ④模擬保育に向けての準備① 望ましい教員のあり方を考察
- ⑤模擬保育に向けての準備② 環境(物的環境・人的環境)
- ⑥模擬保育に向けての準備③ 子ども理解と保育内容をふまえた指導案作成
- ⑦模擬保育に向けての準備④ 子どもの発達と保育内容をふまえた指導案作成
- ⑧模擬保育に向けての準備⑤ 個と集団の発達と保育内容をふまえた指導案作成
- ⑨模擬保育(保育実践)① 指導案をもとに保育方法の実践
- ⑩模擬保育(保育実践)② 保育方法の展開・発展
- ⑪模擬保育の振り返り① 保育方法の実践への反省・評価
- ⑫模擬保育の振り返り② 保育方法の実践への改善・計画
- ⑬自己課題の発表① 保育実践から得られた指導計画・教材研究の展開
- ⑭自己課題の発表② 自己課題の改善に向けた保育実践から得られたまとめ
- ⑮自己の学びの振り返り(まとめ)、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼稚園、保育所、認定こども園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び、過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・提出物・レポート・発表70%
- ・まとめレポート30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・子どもの発達段階の特徴と保育のポイントなどを予習しノートにまとめてください
- ・これまでの学修や実習を通して明確になった自己課題をノートにまとめてください
- ・自己課題の設定や指導案作成時に課題を出題します。
- ・毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間ずつ、合計4時間を目安とします。

■その他

- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	子どもの食と栄養(応用)[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	加藤 聖子

■講義の目的および概要

保育を通して食育をどのように進めていくのか、子どもに対してだけでなく保護者への支援も含め、食育の展開ができるようになることを目指す。また、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、体系的に理解することを目指し、学んだ知識や理論を実際の保育現場で実践し発展させることができる力を養うことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式中心で進める。
数回グループワークを行う。
テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料を配布する。
動画教材を利用する。
毎回ミニテストの実施、またはミニレポートの提出を求める。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニテストの採点結果の返却、またミニレポート返却時にコメントすることでフィードバックを行う。

■授業計画

- ① 食育における養護と教育の一体性
- ② 食育の内容と計画及び評価
- ③ 食育のための環境・地域の関係機関や職員間連携
- ④ 保育所や地域における食にかかわる行事内容の考案・発表
- ⑤ 食生活指導および食を通じた保護者への支援
- ⑥ 保育所での食についてのお便りの作成
- ⑦ 食育教材の作成にあたっての計画・立案
- ⑧ 食育教材の作成
- ⑨ 作成した食育教材の発表
- ⑩ 家庭における食事と栄養
- ⑪ 児童福祉施設における食事と栄養
- ⑫ 疾患および体調不良の子どもへの対応
- ⑬ 食物アレルギーの子どもへの対応
- ⑭ 子どもの食と栄養(応用)のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。
2. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
3. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP3 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

筆記試験(50%)・食育教材作成・発表(30%)ミニレポート(20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『最新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』最新保育士養成講座総括編纂委員会編 全国社会福祉協議会、2019 ISBN9784793513114

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介します

■授業外学習

2023(令和5)年4月1日

【具体的な内容】

講義時に配布した資料等を熟読すること。子どもの食生活の現状と問題点について普段から関心を持ち、ニュース、新聞等により情報を得るように心がけること。

【必要な時間】

予習復習あわせて45分を目安とする。

■その他

6月の実習期間中の講義はオンデマンド形式といたします。
調理実習(1回)を行う際は実習費(300円程度)を徴収いたします。

科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小岩 季之、山内 太郎、林 二士、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

1年次に行った保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらなる深化を目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。
また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で適宜質問を受け付けることでフィードバックを行う。

■授業計画

<事前指導>
①保育実習Ⅱの目的
②記録技法について①：指導案の基本的な考え方
③記録技法について②：指導案の作成
④実習課題の検討
⑤記録技法について③：日案の基本的な考え方
⑥記録技法について④：日案の作成

<事後指導>
⑦実習の振り返り
⑧実習報告会の実施

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

・提出物(実習の振り返り、実習報告レポートなど)：50%
・授業への取り組み、毎回のまとめ：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
実習ハンドブック
大豆生田啓友他『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』(中央法規)：1年次購入済み

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
毎回の授業で配布された資料等を読み返して理解を深めること。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

・1年次に学習した専門科目を復習し、実習との繋がりを理解しておくこと。
・保育実習Ⅱと合わせて履修すること。

科目名	保育実習指導Ⅲ(施設)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小岩 季之、山内 太郎、林 二士、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

1年次に行った保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらなる深化を目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。
また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で随時質問を受け付けることでフィードバックを図る。

■授業計画

<事前指導>

- ①保育実習Ⅲの目的
- ②記録技法について①：指導案の基本的な考え方
- ③実習先の施設種別について調べ学習
- ④実習課題の検討
- ⑤記録技法について②：日案の基本的な考え方
- ⑥記録技法について③：日案の作成

<事後指導>

- ⑦実習の振り返り
- ⑧実習報告会の実施

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・提出物(実習の振り返り、実習報告レポートなど)：50%
- ・授業への取り組み、毎回のまとめ：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ハンドブック

【参考文献】

授業中に適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業で配布された資料等を読み返して理解を深めること。

【必要な時間】

2時間程度を目安とする。

■その他

- ・1年次に学習した専門科目を復習し、実習との繋がりを理解しておくこと。
- ・保育実習Ⅲと合わせて履修すること。

科目名	保育の心理学Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

保育実践について理解を深めるとともに、学習の過程を理解し、保育における発達援助を学ぶ

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で行い、グループワークでの議論やその結果を発表する。
グループワークでは、ワークシートを記入し、提出をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業中に行い、提出後、コメントをつけて返却を行う。

■授業計画

1. 子ども理解における発達の把握
2. 個人差や発達過程に応じた保育
3. 身体感覚をともなう多様な経験と環境との相互作用
4. 環境としての保育者と子どもの発達
5. 子どもの相互のかかわりと関係づくり
6. 子ども集団と保育の環境
7. 子どもの生活と学び
8. 子どものあそびと学び 中間レポート
9. 基本的生活習慣の獲得
10. 自己主張と自己抑制
11. 主体性の形成
12. 生涯にわたる生きる力の基礎を培う
13. 発達と学びの連続性と就学支援
14. 発達援助における協働
15. 現代社会における子どもの発達と保育の課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める
2. 生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する
3. 保育における発達援助について学ぶ

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

成果物 20%
中間レポート30%
定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

予習・復習をしっかりと行う。

【必要な時間】

予習・復習に各1時間、合計で2時間程度必要とする。

科目名	諸外国の保育
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

国際化社会である現在、幼稚園や保育所においても外国人児童や外国につながる児童が多く入所している。
この科目をとおして、諸外国の保育の現状を学ぶとともに、多文化共生の理論を理解し、外国につながる児童への保育の基礎知識を学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義と演習でおこなう。
幼児教育の世界的な潮流を確認したあと、いくつかの国について学生が調べ、発表する。

【課題に対するフィードバックの方法】

質問、課題内容等については、講義内でとりあげ、解説をおこなう。

■授業計画

- ①ガイダンス 外国の保育を学ぶ意義
 - ②諸外国の保育の概観
 - ③関心の整理とテーマの設定
 - ④テーマ学習 基礎学習
 - ⑤テーマ学習 資料の作成
 - ⑥発表① スウェーデンの保育
 - ⑦スウェーデンの保育の補足と検討
 - ⑧発表② フィンランドの保育
 - ⑨フィンランドの保育の補足と検討
 - ⑩発表③ ニュージーランドの保育
 - ⑪ニュージーランドの保育の補足と検討
 - ⑫発表④ ドイツの保育
 - ⑬ドイツの保育の補足と検討
 - ⑭日本の多文化保育
 - ⑮まとめと履修カルテ記入
- ただし、とりあげる国、地域については受講生の関心にそって変更することがある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

海外の保育の動向を理解する。
現代日本の保育を多角的、客観的、相対的にみることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

発表 50点
検討会 20点
まとめ 30点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

指定しない

【参考文献】

講義内で紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

準備学習として、紹介する資料やHP、関連書籍などにより、その国の基本情報をまとめておくが必要である。
また、我が国の保育を相対化するためには、何よりも我が国の保育について正しく理解している必要がある。2年生秋学樹科目であることから、これまでに学んだことをきちんと振り返り、理解しておくことが何より重要である。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

■その他

科目名	子ども音楽療育概論[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	下出 理恵子

■講義の目的および概要

音楽教育、保育、発達臨床、音楽療法などの様々な関連分野から、保育音楽療育の専門性を、論理的に学習する。また、音楽を構成している要素と療育における音楽活動の関係を学び、音楽療育における音楽の役割を理解する

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

関連領域の文献や臨床のVTRを使い、必要に応じて演習を交えながら講義を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

■授業計画

- ①オリエンテーション／保育音楽療育とは
- ②対象者理解（成人、高齢者）
- ③対象者理解（乳幼児、児童、～WSの子どもたち～）
- ④音楽の特性
- ⑤歌唱(声)活動の目的とデザイン
- ⑥器楽（即興的な活動）の目的とデザイン
- ⑦器楽（既成曲を使った活動）の目的とデザイン
- ⑧動きを伴う活動の目的とデザイン
- ⑨音楽のコミュニケーション性
- ⑩音楽活動のサポートとは
- ⑪アセスメント・プログラム・評価
- ⑫音楽と人間形成 ～音楽心理学に学ぶ～
- ⑬関連領域に学ぶ対象理解
- ⑭WSプログラムの意義と目的
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・対象理解のための知識を備える
- ・保育音楽療育における音・音楽の役割を理解する。
- ・保育音楽療育の意義と目的を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

毎回の授業後のコメントシート 40%

テスト、レポートなど、授業内で提示される課題を総合して60%で評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料配布

【参考文献】

障害児の成長と音楽 音楽の友社編 音楽の友社
 音楽療法の実践 加藤美知子 他 春秋社
 音楽療法の手引き 松井 紀和 牧野出版
 保育における特別支援 竹田 契一他 日本文化科学社

■授業外学習

【具体的な内容】
関係する領域は多岐にわたる。参考文献や講義内で紹介された著書などは必ず読んで、自ら学び、興味を広げていくことが、大切である。

【必要な時間】
事前・事後2時間以上の予習・復習を要する。

■その他

科目名	子ども音楽療育演習[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小川 久恵

■講義の目的および概要

本講義は発達が多様な子どもを対象とした音楽療育実践に必要な基礎知識と技術を獲得することを目的とします。
また、音楽療育実践のための音・音楽の使い方、対象に応じた展開やサポートの方法を習得することを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッション等の演習、発表などを通して療育プログラムの立案・模擬セッション・省察・セッション再構成を体験します。

また、講義を通して療育のための音楽活動の構成力、実践力を高めます。
本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽療育実践に必要な知識と技術、実践方法について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。

■授業計画

- ①オリエンテーション／部分実習事前指導
- ②部分実習：音楽付きミニシアターの計画・練習 グループワーク
- ③発達の多様性を知る、からだあそび・スキンシップあそび
- ④身体の知覚、ボディイメージを高めるあそび
- ⑤部分実習：音楽つきミニシアター準備・打ち合わせ グループワーク
- ⑥部分実習：音楽つきミニシアター発表・振り返り グループワーク
- ⑦子どもの観察ポイントを学ぶ、身体模倣あそび
- ⑧環境構成について、うたあそび、ことばあそび
- ⑨ほめて育てるコツを学ぶ、楽器あそび
- ⑩社会性の発達、ことばとコミュニケーションを促すあそび
- ⑪発達を促すあそび
- ⑫模擬セッション計画・練習 グループワーク
- ⑬模擬セッション練習・打ち合わせ グループワーク
- ⑭模擬セッション発表 グループワーク
- ⑮模擬セッション振り返り グループワーク、まとめ、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・目的に応じた音楽療育を計画し、実践することができる。
- ・音楽活動時に見られる子どもの姿を発達の視点で捉え、活動をサポートする方法を考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・療育プログラムの立案・実践・省察レポート70%
- ・コメントシート(毎回授業後に提出する)30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『ユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障害の特性やかかわりのポイント、音楽あそびなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。
毎回の授業を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします

■その他

科目名	子ども音楽療育実習[幼教]
開講期・単位	2年 通年・選択 1単位・実習
担当者	小川 久恵

■講義の目的および概要

本講義では音楽活動の多様性を知り、関連領域の理論と音楽活動の関係を体験的に理解することから実践力を広げることを目的とします。
また、子どもの多様な発達についての理解を深めながら、音楽活動時に見られる子どもの姿を理解することを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

音楽療育ワークショップにおける療育実践に向け、音楽療育ワークショップ実習や現場実践者の講義、またグループワークや療育プログラムの検討・作成等の演習を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽活動の多様性や音楽療育の実践について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。

■授業計画

- ①オリエンテーション：実習の心構え、マナー
- ②音楽療育実習の活動計画：ワークショップの構成とねらい
- ③実習事前指導：観察視点と日誌の書き方
- ④ワークショップ観察実習：流れを知る
- ⑤ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する
- ⑥ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する
- ⑦ワークショップ観察実習：音楽活動時におけるかかわり方を学ぶ
- ⑧観察実習事後指導：日誌を使用した省察
- ⑨ワークショップ参加実習：指導者と子どものかかわりを学ぶ
- ⑩ワークショップ参加実習：音楽活動の関与について学ぶ
- ⑪ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画・実践
- ⑫ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画・実践
- ⑬ワークショップ部分実習：療育の計画・実践に対する省察
- ⑭特別講座：関連領域から障害を理解する
- ⑮実習事後指導：まとめ、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・ワークショップにおいて子どもや保護者・支援者とかかわることから、多様な発達についての理解や子ども理解について深めることができる。
・概論と演習を繋ぎ、自身の療育プログラムを実習の場で実践することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・実習日誌などの提出物：50%
- ・部分実習の立案、実践(発表)など：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障害の特性やかかわりのポイントなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。
毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートや実習日誌にまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

実習費 2000円
資格申請費 5700円
上記の費用が必要になります。(2022年度参考)

科目名	保育プロジェクト演習
開講期・単位	2年 通年・必修 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、小岩 季之、山内 太郎、平野 良明、朝地 信介、東谷 一彦、林 二士、森岡 毅、田村 めぐみ、神林 裕子、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

自らの興味関心に基づき、保育者として必要な基礎知識をさらに深めていく。具体的には指導教員の専門性に基づきテーマを提示し、学生自身が教員の指導の下で、具体的な学習テーマを決めた上で、それについて学習を深め実践する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループごとに、その会の授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の目標に合わせて、学習を積み上げ、必要に応じてフィールドワークや、実技の発表等を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
- ②専門領域ごとの概要とテーマの設定
- ③課題についての情報収集とアドバイス
- ④専門学習 1
- ⑤専門学習 2
- ⑥専門学習 3
- ⑦専門学習 4
- ⑧専門学習 5
- ⑨専門学習の振り返り：中間レポート
- ⑩フィールドワーク 1（実践 1）
- ⑪フィールドワーク 2（実践 2）
- ⑫調査のまとめ（資料のまとめ）（実践 3）
- ⑬調査のまとめ（活動のまとめ）（実践 4）
- ⑭ディスカッション（発表）
- ⑮授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学生自身が課題を設定し、それを調べ、実践し、省察することでができ、さらに保育者の専門性の幅をひろげることを目標とする。その場合、個人の活動に加え他者と協働し行うことを経験する。

また春学期での保育プロジェクト演習での学びは、秋学期の保育・教職実践演習において、模擬保育に繋がるようなものとする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- 中間レポート（40%）
 授業内レポート・発表（40%）
 提出物・振り返りシート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

配属されたグループにおいて、適宜指示される。

【参考文献】

配属されたグループにおいて、適宜指示される。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業において、次週の授業までに行う予習や課題が提示される。
 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。

【必要な時間】

各グループにおいて指示される。

科目名	ピアノ基礎演習Ⅱ[再履修]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子

■講義の目的および概要

「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身に付けます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々の経験や習熟度に応じてそれぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で、細やかに指導を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

1. オリエンテーション（習熟度と秋学期の目標の確認）
2. ～13. 下記の①～⑩の課題を習熟度に応じて指導します。
- ①ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の主要和音
- ②ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の和音の変奏
- ③子どもの歌の弾き歌い
- ④初見視奏
- ⑤伴奏付け
- ⑥移調
- ⑦小品の演奏
- ⑧保育実践のための即興
- ⑨就職試験対応曲
- ⑩様々な演奏表現について
14. 授業内試験
15. 秋学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- ②子どもの歌に伴奏を付けたり、移調したり、アレンジすることができる。
- ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（移調演奏、伴奏付け：20%）：合計70%
 B: 毎時の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。
幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科目名	表現課題演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、小岩 季之、小川 久恵、朝地 信介、深浦 尚子、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

学科行事『わくわくフェスティバル』に向けてミュージカルを中心とした表現活動のテーマを設定し、計画・目標を立てて取り組む過程を通して、自ら課題を発見して解決する手段や方法を実践的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

提示された表現活動の基礎的な知識や方法、活動の見通しに基づいて、学生が個人・グループで主体的に活動する演習形式で行う。授業内容としてはディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどの能動的学修、実践が中心となる。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめる。作成した記録は記録集として発行し、各自の取り組みの課題を振り返るとともに、学生同士での課題の共有を図る

■授業計画

- ①授業の目的、わくわくフェスティバルの概要、活動の見通し
- ②表現活動の基礎知識・方法、表現形態の紹介、表現形態・演目選定の要点、準備委員選出
- ③表現活動のテーマ検討
- ④表現活動のテーマ決定、表現形態・演目の検討
- ⑤表現形態・演目の決定、作業役割分担班の検討・希望調査・調整
- ⑥作業役割分担班の決定、各班リーダー選出
- ⑦全体のスケジュール検討（舞台監督など）、脚本作成（演出など）
- ⑧全体のスケジュール決定、作業役割分担班ごとの活動内容・スケジュール検討（各班リーダーなど）
- ⑨全体活動（キャスト検討・希望調査など）、作業役割分担班ごとの活動・作業計画決定
- ⑩全体活動（オーディションなど）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑪全体活動（キャスト調整など）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑫全体活動（キャスト発表など）、作業役割分担班ごとの活動、個人の課題・計画・目標設定
- ⑬全体活動（脚本配布、脚本読み合わせ、練習）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑭全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑮作業分担ごとの取り組み経過の発表、授業内レポート、履修カルテ記入

※準備委員は作業役割分担班リーダー選出まで、準備委員会議、授業の進行などを担当する。

※各班リーダーはわくわくフェスティバル終了まで、リーダー会議、授業の進行などを担当する（主に舞台監督など）。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①保育者となる学生としての視点を持って、子どもから大人までが楽しめる表現活動のテーマや内容を設定することができる。
- ②テーマの具現化に向けて課題を発見し、解決に向けた手段や方法を探り、計画・目標を立てることができる。
- ③自らの取り組みについて省察することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・ 取り組み（毎時間の授業記録提出）：50%
- ・ レポート①・②：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてその都度提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 取り組み、成果物などの記録やワークシートを作成する。
- ・ 表現に関わる様々な内容や方法、わくわくフェスティバルのイベントとして必要な事について情報を集める。
- ・ 制作や練習などの準備は個人、グループでも進める。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

■その他

- ・ 制作や練習に関わる費用は、授業予算を充てる。
- ・ 制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。
- ・ スマートフォン（もしくはタブレット・パソコン）を使用するので持参する。

科目名	表現課題演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、小岩 季之、小川 久恵、朝地 信介、深浦 尚子、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

学科行事『わくわくフェスティバル』でのミュージカル公演の準備と発表を通して、多様な表現形態や表現方法を実践し、協同して物事を進めるための方法を学ぶ。また、取り組みの中で発見した課題や、立てた計画・目標について振り返る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生が個人・グループで主体的に活動する演習形式で担当部署の作業や練習を行い、取り組みの成果発表として学科行事『わくわくフェスティバル』でのミュージカル公演を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめる。作成した記録は記録集として発行し、各自の取り組みの課題を振り返るとともに、学生同士での課題の共有を図る。

■授業計画

- ①全体活動（脚本（最終）配布、稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ②全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ③全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ④全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑤全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑥全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動、仕込み（舞台設営など）
- ⑦通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
- ⑧通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
- ⑨通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
- ⑩通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
- ⑪ゲネプロ
- ⑫わくわくフェスティバル1日目
- ⑬わくわくフェスティバル2日目
- ⑭後片付け
- ⑮授業内レポート（個人の課題・計画・目標設定の振り返り、作業分担ごとの成果物）、アンケート、履修カルテ記入

※各班リーダーはわくわくフェスティバル終了まで、リーダー会議、授業の進行などを担当する（主に舞台監督など）。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①保育者となる学生としての視点を持って表現活動に取り組み、表現を通して子どもや人と関わることができる。
- ②個人同士やグループ、わくわくフェスティバル全体の中での役割や関わり方を考えながら取り組むことができる。
- ③自らの取り組みについて省察することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・取り組み（毎時間の授業記録提出）：30%
- ・レポート③、成果物レポート：70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてその都度提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 取り組み、成果物などの記録やワークシートを作成する。
- ・ 表現に関わる様々な内容や方法、わくわくフェスティバルのイベントとして必要な事について情報を集める。
- ・ 制作や練習などの準備は個人、グループでも進める。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

■その他

- ・ 制作や練習に関わる費用は、授業予算を充てる。
- ・ 制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。
- ・ スマートフォン（もしくはタブレット・パソコン）を使用するので持参する。

科目名	子ども・家族と社会
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	山内 太郎

■講義の目的および概要

本講義は、現代社会における子ども・家族にかかわる諸問題について取り上げて、その全体像を把握するとともに、それぞれのトピックに関する現時点での最新の論争点について考えることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

視聴覚資料を用いながらテーマを設定し、4～5名程度のグループで学習する形式が多くなる。

【課題に対するフィードバックの方法】

例年履修者が少数であるため、講義中に必要に応じて質疑応答がなされる。

■授業計画

1. オリエンテーション—この授業の進め方
2. 人工妊娠中絶の是非をめぐって
3. いのちについて考える①—人工妊娠中絶をめぐる議論を踏まえて
4. いのちについて考える②—安楽死を望む声をどう考えるか
5. 児童福祉法が成立した背景—戦争孤児という問題
6. 「家族再統合」をめぐって—特別養子縁組による家族のカタチ
7. セクシャルマイノリティについて知ろう
8. LGBTQIAとジェンダー
9. 赤ちゃんポストをめぐって
10. ひとり親家族の現状と課題
11. 保育園の今①—保育で起きる事故・事件について考える
12. 保育園の今②—「保育」という労働について
13. グループワーク①—学生によるテーマの設定
14. グループワーク②—調べ学習
15. グループワーク③—発表会および履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

家族のあり様は非常に多様であることを理解すること、支援の必要な家庭に対してどのようなかわりができるかを考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5) 能動的に学び続ける力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

提出物及びレポート 60%
グループワーク発表会の内容 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

講義中に適宜提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間ずつが目安となる。

■その他

グループワークが多くなるため、各自積極的な姿勢で参加することが求められます。

科目名	子どもの健康と安全[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	古郡 美智子

■講義の目的および概要

子どもの心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について学ぶ。
 救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。
 個別的な配慮を必要とする子ども、障害のある子どもへの適切な対応を学ぶ。
 保育における保健活動の計画及び評価について学ぶ。
 家庭、専門機関、地域との連携について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

保育士や幼稚園教諭に必要な基礎知識を各テーマにて講義形式で行う。
 本講義は、幼稚園教諭、保育士、医療保育専門士の実務経験のある現保育園施設長が現場の映像を用い、内容によってはデモンストレーション等も取り入れ展開していく。教えられることだけにとどまらず“自らより良い保育の手段が湧いてくるような保育者”に近づけるようなきっかけ、土台作りを演習課題（学生達が自ら考え、話し合いの機会を作るグループワーク、ディスカッションを取り入れ）を設け取り組んでいく。

【課題に対するフィードバックの方法】

口頭発表には、その場で助言。講義や演習のワークシート、講義内容の復習、確認を兼ねた振り返り用紙の作成や課題については授業内でも解説しながら進めていく。

■授業計画

- ①子どもの健康と保育の環境
 - ②子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康
 - ③衛生管理
 - ④事故防止および安全対策
 - ⑤災害への備えと危機管理
 - ⑥体調不良や傷害が発生した場合の対応
 - ⑦救急処置および救急蘇生法
 - ⑧感染症の集団発生と予防、対応
 - ⑨保育における保健的対応の基本的考え方
 - ⑩3歳未満児への適切な対応
 - ⑪個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
 - ⑫障害のある子どもへの適切な対応
 - ⑬職員間の連携・協働と組織的取り組み
 - ⑭保育における保健計画および評価
 - ⑮子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携 等を15回の講義の中で織り交ぜ計画する
- 授業中のグループワーク、ディスカッションの他にも発言も求めますので、受動的ではなく能動的な参加を求める。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 保育における保健的観点から踏まえた保育環境や援助について理解する。
2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。
4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する。
5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。
6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。
7. 乳幼児の健康や安全に関する知識を習得し、疾病や事故の予防を考えた保育ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

保育における保健的観点からの環境作りや援助、衛生管理や事故防止、子どもの体調不良に対する適切な対応など、現場の状況に合わせて子どもの安全を守るよう、適切な判断及び配慮ができる知識と技術を身につける。

■成績評価基準と方法

小テスト（理解力）1回 35%
定期テスト×1回 35%
課題（振り返りも含む）の提出30%

2023(令和5)年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

オリジナルの資料を含め、適宜プリントを配布する。

【参考文献】

- ・『子どもの健康と安全』監修：公益財団法人 児童育成協会 中央法規
- ・『保育所における感染症対策ガイドライン』厚生労働省
- ・『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省
- ・『保育の安全と管理』著：相川徳孝他 同文書院

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、幼稚園、保育園実習に行ってみて健康と安全について困ったこと、疑問に思ったこと、学びを深めてみたいと思うことをまとめておく。
前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項をまとめておく。また、わからないことや、復習して気が付いたこと、質問事項などピックアップしておき授業内で更なる学びへ繋げていく。
事後学習として、就職に向け実際に保育を進められるよう準備を進めること、頭の中でシュミレーションしながら自分なりの事故対応マニュアルを描き、自身の資質を高めていく。

【必要な時間】

常日頃からニュース・新聞などで最近の社会（特に保育に関係のある事項）の動き・情報を意識して保育に繋げていけるように心がける。

■その他

授業中のグループワーク、ディスカッションの他にも発言も求めますので、受動的ではなく能動的な参加を求めらる。

科目名	子ども家庭支援の心理学[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

子どもとその家庭を、発達の視点でとらえ、現代の子育て家庭の社会状況と課題について理解することを目的とする。
 家族・家庭の機能、子育て家庭の現状、課題について学ぶ。また、子どもの精神保健とその課題についても学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行うが、グループワークなどを取り入れ、ワークシートの作成など能動的な学修を目指します

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション、乳児期の発達
- ②幼児期の発達
- ③学童期の発達
- ④青年期の発達
- ⑤成人期・中年期の発達
- ⑥高齢期の発達
- ⑦家族・家庭の意義と機能
- ⑧家族関係・親子関係の理解
- ⑨子育て経験と親としての育ち
- ⑩子育てを取り巻く社会状況
- ⑪ライフコースと仕事・子育て
- ⑫多様な家庭とその理解、授業内テスト
- ⑬特別な配慮を要する過程
- ⑭子どもの生活・生育環境とその影響
- ⑮子どものこころの健康にかかわる問題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生涯発達を踏まえ、親子関係、家族を発達的な視点で理解する。また、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題の理解、子どもの精神保健とその課題を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

コミュニケーションシート20%
 レポート30%
 定期試験50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「子ども家庭支援の心理学」新基本シリーズ9 編 白川佳子、福丸由佳 中央法規

【参考文献】

保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

教科書や配布資料を熟読するなどの予習復習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	子ども家庭支援論[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	田村 めぐみ

■講義の目的および概要

子ども家庭支援の意義や役割をはじめとして、子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、具体的に実践するための技術や方法について学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式で進めるが、内容によってグループワークなどを取り入れて行う。テキストだけに頼らず、北海道や札幌市の具体的な事例も取り入れながら学修を進める。

本講義は、子育て支援施策に携わっていた実務経験を持つ教員が担当し、分かりやすく実践的な講義を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業においてmanabaやrespon上に、感想や質問などを記入し提出。次回の講義の冒頭で質問に対する回答を行う。

■授業計画

- ①子ども家庭支援とは
- ②子ども家庭支援の意義と必要性
- ③子ども家庭支援の目的と機能
- ④子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
- ⑤保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義
- ⑥子どもの育ちの喜びの共有
- ⑦保護者および地域が有する子育て支援を自ら実践する力の向上に資する支援と保育士の態度
- ⑧子ども家庭支援の必要な理論のまとめ（小テスト）
- ⑨家庭の状況に応じた支援
- ⑩地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
- ⑪保育所を利用する子どもの家庭への支援
- ⑫子ども家庭支援の内容と対象
- ⑬地域の子育て家庭への支援
- ⑭要保護児童及びその家庭に対する支援
- ⑮子育て支援に関する課題と展望／履修カルテの記載

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子ども家庭支援の意義や役割を説明することができ、それを実践するための具体的な方法や技術を使うことができることを目的とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績は授業内の試験および小レポート、リアクションシートを総合して評価します。
中間試験30%、授業内リアクションシート20% 定期試験50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

松原康雄・村田典子・南野奈津子編集「子ども家庭支援論」2019 中央法規

【参考文献】

参考文献は必要に応じて周知します。
各自治体のHP（子育てに関するページ）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の単元について読んでくること。またホームページなどで居住地の子育て支援について調べておくこと。
授業後にはノートに内容を整理すること。

【必要な時間】

毎回の授業の事前・事後の学習時間として、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目は2年生秋学期に開講される「子育て支援」の理論編となるものです。積極的な姿勢で臨み保育士としてのスキルを身につけてください。
保育士資格取得における必修科目です。

科目名	子育て支援
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

この科目では、春学期の「子ども家庭支援論」の学びを基礎として、子育て支援についてより深く学び、保護者からの相談に対応することができるようなスキルを獲得することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義を中心として理論を学修するが、実際に事例についてどのように理解して、支援を行うのがよいのかを実践形式で学習する。グループワークを行い、自分自身の考えばかりでなく、他者の考え方をすることで、支援の在り方について幅広い観点を持てるようにする。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出したワークシートはLMSを通じてコメントします。
また共通する疑問については、翌週の授業のはじめに解説します。

■授業計画

- ①子育て支援とは何か
- ②保育者の行う子育て支援の特性
- ③子育て支援の展開
- ④支援のための連携と協働
- ⑤保育者に求められる子育て支援の基本
- ⑥保育所等における子育て支援
- ⑦地域の子育て家庭に対する支援
- ⑧乳児をもつ保護者の支援
- ⑨保護者の自己肯定感を下げない具体的支援
- ⑩気になる子どもや発達障がいのある子どもと家庭に対する支援
- ⑪特別な配慮を要する子どもおよび家庭に対する支援
- ⑫児童虐待の予防と対応の実際
- ⑬要保護児童等の家庭に対する支援
- ⑭多様な保育ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援
- ⑮子育て支援をめぐる今後の課題 最終試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保護者支援のために必要な知識と技術を獲得し、実践的な支援ができるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)「専門知識・技能を活用する力」
(DP2)「コミュニケーション能力」
(DP4)「多様性の理解と協働する力」

■成績評価基準と方法

毎回提出するワークシート 42%
最終試験 58%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

太田光洋編著『子育て支援』2022年, 同文書院. 2200円 (+税)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に学習範囲を読んでおくこと。

【必要な時間】

事前・事後ともにそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

テキストは資料としても用いるため必ず購入すること。
本科目は保育士資格の必修科目である。

科目名	社会的養護Ⅱ[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	山内 太郎

■講義の目的および概要

本講義では保育士としての倫理や責務をあらためて確認し、社会的養護の特性を踏まえた具体的ななかかわり技法について学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを中心に進めつつ、各回の講義において個人あるいはグループに分かれた演習を行う予定である。主体的な受講姿勢が求められる。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義の時間の中に適宜質疑応答の時間を設ける。

■授業計画

1. オリエンテーション
2. 児童の権利擁護
3. 保育士の倫理及び責務
4. 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
5. 日常生活支援と諸施設の暮らし①—児童養護施設
6. 日常生活支援と諸施設の暮らし②—乳児院、母子生活支援施設
7. 日常生活支援と諸施設の暮らし③—医療型障害児入所施設
8. 日常生活支援と諸施設の暮らし④—児童自立支援施設・児童心理治療施設
9. 日常生活支援と諸施設の暮らし⑤—福祉型障害児入所施設
10. 里親制度と実際
 11. 心の傷をいやし、心をはぐくむための援助・親子関係の調整
 12. ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用
 13. 施設の小規模化と地域連携
 14. 地域住民と施設
 15. まとめと履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

事例検討を通して、社会的養護を必要とする子どもたちの現状を理解すること。様々な家庭のかたちがあり、保護者支援も保育士の重要な業務であると理解すること。以上の二点が到達目標となる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末試験 50%
演習へのとりくみ 20%
各回における小レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ』吉田真理編著 萌文書林

【参考文献】

必要に応じて適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としてテキストの該当する箇所を読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料や演習内容について復習をしておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ1時間程度が目安である。

■その他

科目名	特別支援教育・保育(応用)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	中島 そのみ

■講義の目的および概要

障害病理や発達特徴などの基礎的知識を確認するとともに、特別な支援を要する子どもの困難について背景を含めて理解を深める。共に育ちあう視座に立った保育における留意点・援助のあり方を、具体的場面を想定しながら検討する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で実施する。振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行う。講義資料を配布し、視聴覚教材を用いながら具体的な場面をイメージできるように実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提示した課題については、次の講義の中でフィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション・「障がい」とは
- ②障がい児保育の意義
- ③特別な支援を要する子どもとの出会い
- ④知的障がい(ダウン症含む)の理解と支援1
- ⑤知的障がい(ダウン症含む)の理解と支援2
- ⑥肢体不自由児(脳性麻痺)の理解と支援
- ⑦肢体不自由児(筋ジストロフィー)の理解と支援
- ⑧肢体不自由児(二分脊椎)の理解と支援方法
- ⑨自閉症スペクトラムの理解と支援1
- ⑩自閉症スペクトラムの理解と支援2
- ⑪注意欠如・多動症の理解と支援
- ⑫限局性学習症・ほかの理解と支援
- ⑬病弱・虚弱児の理解と支援
- ⑭視覚障がい・聴覚障がいの理解と支援
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 障害児支援の枠組みや歴史的変遷について確認し障害児及びその保育について理解を深める。
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解を深める。
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について具体的方法を理解する。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解し多様な観点から特別支援保育・教育をイメージできるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 定期試験 60%
- 確認テスト 20%
- 毎回の提出物(振り返りシート) 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- 必要な資料を、授業で配布します。資料を綴じるファイルとノートを用意して下さい。
- 特別支援教育・保育（基礎）の復習をする

【必要な時間】

事前・事後1時間以上の予習・復習を要する。

■その他

科目名	保育の計画と評価
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	田村 めぐみ

■講義の目的および概要

保育を実践する上で重要となる保育の計画と方法について理解を深めるとともに、子ども理解に基づいた保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、全体の構造を捉え、理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行う。子ども理解に基づいた保育の計画・実践ができるよう、指導案作成・模擬保育・観察・記録を基にグループディスカッション等を交えながら講義を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の講義の感想や質問等には、次回講義で回答をする。また指導案・記録・評価について、全体で適宜共有する。

■授業計画

- ①オリエンテーション／保育における計画の意義
- ②カリキュラムの基礎理論
- ③子ども理解に基づく保育の循環
- ④保育所における保育の計画と評価
- ⑤幼稚園における教育課程・指導計画
- ⑥認定こども園における教育課程の特徴
- ⑦保育の計画と評価の基本
- ⑧0歳児の指導計画
- ⑨1歳以上3歳未満児の指導計画
- ⑩3歳児・4歳児の指導計画
- ⑪5歳児・配慮を要する子どもの指導計画
- ⑫指導計画の作成
- ⑬指導計画の実践①
- ⑭指導計画の実践②・実践を通した振り返り
- ⑮小学校との接続・指導要録の作成／履修カルテの記載

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・各指針・要領の性格・位置づけ・保育の計画の目的を理解している。
・子ども理解に基づいた保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体のを捉えることの重要性を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

定期試験 50%
授業内提出物 30%
指導計画と実践・記録と評価に関する取り組み 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントや参考資料を提示します。

【参考文献】

「教育・保育カリキュラム論」千葉武夫・那須信樹編著 中央法規
「保育の計画と評価を学ぶ 保育の基盤の理解と実習への活用」加藤敏子・岡田耕一編著 萌文書林
「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館
「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

各講義内容と各指針・要領等を参照し、3法令に対応した理解を進める。
図書館等を利用し、広い範囲から情報を収集し、活かして指導計画の作成にあたってほしい。

【必要な時間】

予習・復習時間はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

講義に際し、1年次の「教育と保育の方法」で学んだことを復習して臨むこと。
これまでに経験した各実習の日誌や実践した指導案等を振り返り、講義に活かせるようにしておくこと。

科目名	保育英語Ⅲ
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅱを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための英語表現を身に付ける。また、実践者からの講義を通して、外国とのつながりのある保護者や子どもたちへの対応、ゲーム等の英語学習における留意点を学び、教材作成もしながらマイクロティーチングに取り組む。マイクロティーチングを通して、積極的に保育活動に英語を取り入れて、英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②児童英語のキーワード、英語の歌の指導、幼保英検等について
- ③児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 1)
- ④児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 2)
- ⑤児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 3)
- ⑥児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 4)
- ⑦フィールドワーク(予定)
- ⑧確認テスト、フィールドワークの振り返り
- ⑨保育における英語について(実践者より)、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 5)
- ⑩児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 6)
- ⑪児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 7)
- ⑫児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 8)
- ⑬児童英語のキーワード、マイクロティーチング
- ⑭児童英語のキーワード、マイクロティーチング
- ⑮確認テスト、これまでのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等 (30%)
- ②確認テスト (各2回 20%、合計40%)
- ③マイクロティーチング (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「実践家からの児童英語教育法 -実践編 AB」中本幹子 (著)

【参考文献】

- 『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
- 『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

※幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。

科目名	保育英語Ⅳ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅲを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための英語表現を身に付ける。また、実践者からの講義を通して、外国とのつながりのある保護者や子どもたちへの対応、ゲーム等の英語学習における留意点を学び、フィリピン講師との英会話に取り組む。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 9)
- ③保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 9)、 Zoomにおける実践
- ④児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)
- ⑤保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)、 Zoomにおける実践
- ⑥児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)
- ⑦保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)、 Zoomにおける実践
- ⑧確認テスト、これまでのまとめ
- ⑨保育における英語について (実践者より)
- ⑩児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)
- ⑪保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)、 Zoomにおける実践
- ⑫児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)
- ⑬保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)、 Zoomにおける実践
- ⑭児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等のまとめ
- ⑮確認テスト、これまでのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等 (30%)
- ②授業への参加状況 (30%)
- ③確認テスト (各2回 20%、合計40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、授業で配布する。

【参考文献】

- 『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
- 『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。
※幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。